

目 次

1. 教養科目	4
教 養 I 領 域	5
教 養 II 領 域	13
2. 介護福祉科目	32
人 間 と 社 会 領 域 (人間の理解・社会の理解)	33
介 護 領 域	38
こころとからだのしくみ領域	84
医 療 的 ケ ア 領 域	95

2017年度授業科目開講一覽表

介護福祉科

●＝必修科目

区分	領域	授 業 科 目	掲載頁	単位数		開講学期			
				必修	選択	1 年次		2 年次	
						前	後	前	後
科 目	教 養 I	経営管理論	5		2			○	○
		生物学	6		2		○		
		生活環境学	7		2			○	
		現代居住環境論	8		2				○
		経済学	9		2	○	○		
		社会学	10		2	○			
		憲法	11		2	○			
		倫理学	12		2	○			
	教 養 II	倫理学	13		2	○			
		音楽療法	14		2		○		
		カレッジ・イングリッシュ	15		1	○			
		スポーツ実技	16		1	○			
		スポーツレクリエーション論	17		2	○			
		レクリエーション活動援助法	18		1	○			
		レクリエーション実技	19		1		○		
		情報処理概論	20		2	○			
		マルチメディア論Ⅰ	21		2	○			
		マルチメディア論Ⅱ	22		2		○		
		ウェブデザイン論	23		2		○		
		エッセンシャルスタディⅠ	24	2		●			
		エッセンシャルスタディⅠ	25	1		●			
		エッセンシャルスタディⅡ	26	2			●		
		エッセンシャルスタディⅡ	27	1			●		
		キャリアデザインⅠ	28		2				○
		キャリアデザインⅠ	29		1				○
		キャリアデザインⅡ	30		2				○
		キャリアデザインⅡ	31		1				○
介護福祉科 目	人間と社会	人間の尊厳と自立	33	2			●		
		人間関係とコミュニケーション	34	2		●			
		社会の理解Ⅰ	35	2		●			
		社会の理解Ⅱ	36		2				○
	介護	社会の理解Ⅱ	37	2			●		
		介護の基本Ⅰ	39	2		●			
		介護の基本Ⅱ	40	2		●			
		介護の基本Ⅲ	41	2			●		
		介護の基本Ⅳ	42	2			●		
		介護の基本Ⅴ	43		2			○	
		介護の基本Ⅵ	44		2				○
		介護の基本Ⅰ	45	4			●		
		介護の基本Ⅱ	46	4			●		
		介護の基本Ⅲ	47		4				○
	護	コミュニケーション技術Ⅰ	48	1		●			
		コミュニケーション技術Ⅱ	49	1			●		
		コミュニケーション技術	50	2			●		

区分	領域	授 業 科 目	掲載頁	単位数		開講学期			
				必修	選択	1 年次		2 年次	
						前	後	前	後
介 護 福 祉 科 目	介 介	生活支援技術Ⅰ	51	2		●			
		生活支援技術Ⅱ	52	2		●			
		生活支援技術Ⅲ	53	1			●		
		生活支援技術Ⅳ	54	1			●		
		生活支援技術Ⅴ	55	2			●		
		生活支援技術Ⅵ	56		2			○	
		生活支援技術Ⅰ	57	1			●		
		生活支援技術Ⅱ	58	1			●		
		生活支援技術Ⅲ	59	2		●			
		生活支援技術Ⅳ	60	2		●			
		生活支援技術Ⅴ	61		2			○	
		生活支援技術Ⅵ	62		2				○
	護	介護過程Ⅰ（意義と展開）	63	2		●			
		介護過程Ⅰ（意義と展開）	64	2		●			
		介護過程Ⅱ（実践的展開Ⅰ）	65	1			●		
		介護過程Ⅱ（実践的展開Ⅰ）	66	1			●		
		介護過程Ⅲ（実践的展開Ⅱ）	67		1			○	
		介護過程Ⅲ（実践的展開Ⅱ）	68		1			○	
		介護過程Ⅳ（居宅）	69		1				○
		介護過程Ⅴ（施設）	70		1				○
		介護過程Ⅴ（施設）	71		1				○
		介護総合演習Ⅰ	72	1		●			
		介護総合演習Ⅰ	73	1		●			
		介護総合演習Ⅱ	74	1			●		
	社 護	介護総合演習Ⅱ	75	1			●		
		介護総合演習Ⅲ	76		1			○	
		介護総合演習Ⅳ	77		1				○
		介護総合演習Ⅰ	78	2			●		
		介護総合演習Ⅱ	79		2				○
		介護実習Ⅰ	80	2		●			
		介護実習Ⅱ	81	1			●		
		介護実習Ⅲ	82		4			○	
		介護実習Ⅳ	83		3			○	
	目	からだのしくみ	85	2		●			
		こころのしくみ	86	2		●			
		こころとからだのしくみⅠ	87	2			●		
		こころとからだのしくみⅡ	88		2			○	
		発達と老化の理解Ⅰ	89	2		●			
		発達と老化の理解Ⅱ	90	2			●		
		認知症の理解Ⅰ	91	2			●		
		認知症の理解Ⅱ	92		2			○	
		障害の理解Ⅰ	93	2			●		
		障害の理解Ⅱ	94		2				○
	医 療 的 ケ ア	医療的ケアⅠ	96		2		○		
		医療的ケアⅡ	97		2			○	
		医療的ケア演習	98		1				○

教 養 科 目

授業科目名 経営管理論		授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者 松寄 久実
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・2単位	配当年次・時期 2年次・前期,後期	必修・選択 選択
【授業の目的】 組織の目標設定と管理等、組織のなかで介護福祉士として働くとき、必要な経営管理基本的な考えを学習する。 【授業全体の内容の概要】 組織の活動をより良くするのは、何が必要かを学ぶ。目標の設定・管理、組織の長期的な行動計画である戦略、日々の活動を合理的なものにする戦術、組織の特徴、モチベーション理論、リーダーシップ論、リスク管理を学ぶ。毎回、復習課題が出題される。学習した事柄を、施設の実際の事例等のアクティブ・ラーニングを通して、理解を深めてもらう。 【授業終了時の到達目標】 組織の活動を改善するポイントについて、各自の考えを持つ。戦術と戦略が区別でき、それぞれの意義を理解して、行動に生かすことができる。経営組織の特徴、モチベーションを高める方法、リーダーに求められていることを理解している。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 経営管理とは 発展している福祉経営における経営戦略・経営組織 2. 経営管理① 強いチームの条件 3. 経営管理② 目標の設定と管理 4. 経営組織① 組織デザイン 5. 経営組織② 分業の種類と意義① 6. 経営組織③ 分業の種類と意義② 7. 経営戦略① 戦略と戦術 8. 経営戦略② 福祉施設の経営戦略の事例① 財務・人事戦略 9. 経営戦略③ 福祉施設の経営戦略の事例② ケア改善戦略 10. 経営戦略④ 福祉施設の経営戦略の事例③ 職員育成戦略 11. モチベーション理論① 基礎理論 12. モチベーション理論② 福祉施設におけるモチベーション管理 13. リーダーシップ① PM 理論 14. リーダーシップ② 介護職のリーダーの資質 15. リスク管理 試験			
【準備学習】 毎回、授業のまとめと理解を深める課題が出題される。次の講義の前に提出して、評価を受ける。十分でない課題提出物は、再提出となる。同一テーマの複数回の授業のプリントがまとめて配付されるので、予習すること。経営戦略の人事戦略では、人事考課の取り組みについて、各自で行動評価の基準を事前に考えておき、授業のなかでグループ学習で基準を作成する。			
【使用テキスト・参考文献】 毎回プリントを配布 (参考文献) 高間邦男著『学習する組織』光文社 関島康雄著『チームビルディングの技術』 日本経団連出版		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 復習テスト及び期末テスト：60% 2. 復習課題の内容・提出状況：40% 復習課題は評価して、テストは採点して返却する。	

授業科目名		授業の種類	授業担当者
生物学		(講義・演習・実習)	村上 志緒
授業の回数	時間数(単位数)	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択
【授業の目的】 人間を理解する上で、生物としてのヒトの持つ機能や現象を知り、人間が生物の一員であることの認識を深めてもらう。人間の持つ生物としての普遍性や特異性を理解し、他の生物との関わりから「社会」が構築される理由を人間社会に置き換え、「社会（コミュニティ）」の必要性を理解してもらう。			
【授業全体の内容の概要】 生物が生きるために必要な物質、機能・現象を紹介し、生命活動を知ることにより、いかに他の（社会的）環境が整っていないと活動が困難かを知る。			
【授業終了時の到達目標】 ヒトを中心に生物の生命活動を学び、「生きる」ためにヒトや他の生物がどのように相互作用して生きているかを知り、生物としての人間を理解する。生きるための「介護」の重要性を考える。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数			
1. 生命・生物とは：生物の基本的性質			
2. 細胞の構造：細胞及び細胞内にある小器官とその機能			
3. 生体膜・細胞骨格：生体膜、細胞骨格の役割や性質			
4. 生体物質 その1 タンパク質など：生物の体を構成する物質であるタンパク質			
5. 生体物質 その2 糖や脂質など：生物の体を構成する物質、糖や脂質			
6. DNA その1 セントラルドグマ：タンパク質合成のためのDNA・RNAについて知る			
7. DNA その2 遺伝子の本体：個々の生物種保存を目的とする遺伝子の本体としてのDNA			
8. 光合成：植物の葉緑体における太陽エネルギーの固定と有機物合成経路			
9. 呼吸：生物が活動エネルギーを得るために行う有機物代謝のメカニズム			
10. 生物多様性と環境：地球環境と生物の関係、生物相互の関係、地球の環境問題			
11. 生殖：有性生殖と無性生殖、配偶子形成に伴う生殖細胞の分裂（減数分裂）			
12. 発生：有性生殖を行う生物における受精後の発生機構と発生段階			
13. 神経：感覚受容と神経での情報伝達のしくみ			
14. 内分泌：生物体内における各器官での代謝調節、ホルモンによる制御機構			
15. まとめ・復習			
期末試験			
【準備学習】 中学校で学習した理科生物、高等学校で選択した学生は高等学校で学習した生物学の概要を把握しておくとして理解が深まる。また身近な生き物や生活の中で触れる生物関連のニュース（生物多様性、遺伝子組み換えなど）に関心を持ちながら、生物としてのヒトについて考えるようにしてほしい。			
【使用テキスト・参考文献】		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】	
1)『改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録』数研出版 924円		1. 期末試験：60%	
2) レジメを授業時間内に配布。		2. 受講態度：40%	
(参考文献)			
『医療・看護系のための生物学』田村隆明著・裳華房			

授業科目名		授業の種類		授業担当者							
生活環境学		(講義)・演習・実習)		米岡 学							
授業の回数		時間数(単位数)		配当年次・時期							
15回		30時間・2単位		2年次・前期							
				必修・選択							
				選択							
【授業の目的】 地球環境問題は人類の生活そのものを脅かす問題である。その問題は、複雑で、予測が難しく、多岐にわたり、その解決には多くの課題が存在する。それらに対し我々は、どのような考えを持ち、どのような行動をするべきかを探り、地球環境の健全性の維持・保全への展望を開くようにする。 【授業全体の内容の概要】 持続可能な社会実現のために、循環型社会・低炭素社会・自然共生型社会を形成する必要がある、その根本は「人」であることを認識する。そして、経済活動の発展と環境問題の解決の両立を図り、人々が豊かで安心した生活を享受するために必要な知識や考え方、行動等を修得する。 【授業終了時の到達目標】 一人ひとりが、環境と経済を両立させた持続可能な社会づくりができるような知識を身につけ、個々の力を合わせてアクションを起こし、環境問題の解決実現に向けて歩めることを目指す。 また、「環境社会検定試験（eco 検定）」（東京商工会議所主催）の資格取得ができるようにする。											
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. ガイダンス 2. 地球温暖化の科学的側面 3. 地球温暖化対策 4. エネルギーと環境のかかわり 5. エネルギーの動向 6. 生物多様性の重要性 7. 生物多様性の危機 8. オゾン層保護に関する問題 9. 水資源や海洋環境に関する問題 10. 物を使うことに伴う環境負荷 11. 廃棄物処理にまつわる国際的な問題 12. 地球環境問題 13. 大気汚染の原因とメカニズム 14. 化学物質のリスクとリスク評価 15. 東日本震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故 期末試験											
【準備学習】 毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。 また、授業で配布した課題プリントは、次回の授業までに作成して提出すること。											
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト」 東京商工会議所 編著 日本能率協会マネジメントセンター 参考文献：「環境社会検定試験 eco 検定公式過去・模擬問題集」東京商工会議所 編著 日本能率協会マネジメントセンター			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 <table><tr><td>受講態度</td><td>20%</td></tr><tr><td>課題レポート提出</td><td>30%</td></tr><tr><td>期末試験</td><td>50%</td></tr></table> レポートの講評を行う。			受講態度	20%	課題レポート提出	30%	期末試験	50%
受講態度	20%										
課題レポート提出	30%										
期末試験	50%										

授業科目名 現代居住環境論		授業の種類 (講義)・演習・実習)		授業担当者 米岡 学							
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 2年次・後期							
必修・選択 選択											
【授業の目的】 日本は世界でも例を見ない高齢者の多い国へと変化している。そこで、福祉社会の観点から住宅、住環境に対する理解を深めることを目的とする。全ての国民が、安心して生活できる社会づくりと福祉住環境の整備ができるように必要な知識を学び、情報を駆使し、行動できるようにする。 【授業全体の内容の概要】 現代は、身体に様々な障害を持つ人や、子育て中の家族、子ども・幼児など、多様な人に対して暮らしやすい社会づくりをする事が課題になっている。この授業では、多様な人をお互いによく理解し、多様な人が安心して生活できる共生社会を、如何にして作りあげるのが良いか等の課題を探究していく。 【授業終了時の到達目標】 受講者の皆さんが、福祉住環境コーディネーター、またはその能力をもつ人になり、中心となつて的確な知識や情報を提供し、福祉の住環境やまちづくりができることを目標とする。また、「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級」(東京商工会議所 主催)の資格取得ができるようにする。											
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. ガイダンス 2. 福祉住環境コーディネーターとは 3. 福祉住環境整備の重要性・必要性 4. 安全・安心・快適な住まい 5. 段差、床材 6. 手すり 7. 建具、幅・スペース 8. 家具・収納 9. 色彩・照明、インテリア 10. 冷暖房、非常時の対応、維持管理 11. 人にやさしいまちづくり 12. 福祉のまちづくりとは 13. まちづくりを進めるための諸法制度 14. まちづくりに関する法律 15. 人にやさしいまちづくり整備の課題 期末試験											
【準備学習】 毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。 また、授業で配布した課題プリントは、次回の授業までに作成して提出すること。											
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト」東京商工会議所編著 東京商工会議所 参考文献：「徹底マスター 福祉住環境コーディネーター検定試験3級」福祉プランナーズ編著 税理経理協会			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 <table><tr><td>受講態度</td><td>20%</td></tr><tr><td>課題レポート提出</td><td>30%</td></tr><tr><td>期末試験</td><td>50%</td></tr></table> レポートの講評を行う。			受講態度	20%	課題レポート提出	30%	期末試験	50%
受講態度	20%										
課題レポート提出	30%										
期末試験	50%										

授業科目名		授業の種類	授業担当者	
経済学		(講義・演習・実習)	松寄 久実	
授業の回数	時間数 (単位数)	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・前期, 後期	選択	
【授業の目的】 今日の日本の経済活動を素材に、経済学の基本的な考えを学ぶ。私達の生活は常に資源の制約を前提にして、そのなかでの選択の問題である。私達が今日の日本の経済問題で何を選択しようとしているのかを理解することで、経済活動を自分の視点で考える力を養う。				
【授業全体の内容の概要】 授業では、日本社会が直面するトピックな経済問題を取り上げ、経済学的なアプローチの特徴を説明する。社会の豊かさの指標である国富、国内総生産という概念と、無形の資源を対比して理解し、社会の倫理や連帯、リーダーへの信頼が社会をどのように豊かにする可能性があるかを学ぶ。エネルギー問題では歴史的な視点、国際比較の視点を含めて学習する。最後に、介護保険の財政を学習する。				
【授業終了時の到達目標】 国富・国内総生産・無形の資源という社会の豊かさをみる視点が理解されている。エネルギー問題と財政問題について、基本的な問題の構造を理解し、問題の解決についての考えを持っている。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数				
1. 今日の日本社会が直面する経済問題①				
2. 社会の豊かさの指標 国富・国内総生産				
3. 無形の資源① 社会を豊かにするものとしての無形の資源				
4. 無形の資源② 社会の倫理				
5. 無形の資源③ 連帯の費用				
6. 無形の資源④ リーダーへの信頼				
7. 経済活動とエネルギー問題 原子力エネルギーに対する評価の歴史的変化				
8. エネルギー問題① スウェーデンに学ぶ再生エネルギー				
9. エネルギー問題② デンマークに学ぶ再生エネルギー				
10. エネルギー問題③ 日本の再生エネルギー政策				
11. エネルギー問題④ 日本の地域的なエネルギー自立の取り組み事例				
12. 今日の日本社会が直面する経済問題②				
13. 介護保険の財政① 高齢者の経済生活				
14. 介護保険の財政② 介護保険の収入・支出の構造				
15. 介護保険の財政③ 介護保険財政の課題				
試験				
【準備学習】 毎回、授業のまとめと理解を深める課題が出題される。次の講義の前に提出して、評価を受ける。十分でない課題提出物は、再提出となる。同一テーマの複数回の授業のプリントがまとめて配付されるので、予習すること。社会的な連帯の意義、エネルギー問題、財政問題が取り上げられるので、新聞の切り抜きをする、友人・家族で話題にして、様々な考え方があることを事前に学習しておく。				
【使用テキスト・参考文献】 毎回プリントを配布 参考文献： ケンジ・ステファン・スズキ著『デンマークという国 自然エネルギーの先進国』合同出版 松寄久実『地域経済の形成と発展の原理』CAP 出版		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 復習テスト及び期末テスト：60% 2. 復習課題の内容・提出状況：40% 復習課題は評価して、テストは採点して返却する。		

授業科目名 社会学		授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者 米岡 学
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・2単位	配当年次・時期 1年次・前期	必修・選択 選択
【授業の目的】 この授業では、社会学をはじめて学ぶ学生を念頭にして、社会学の入門部分を学修する。実は、社会学は、他の学問に比べて、多くの分野を社会学の対象にしている。それで、捉えどころが無く、これが社会学の核心と言えるものが分かりにくい。この授業では、大学時代、そして社会に出て、将来避けて通れない人生の壁にぶつかった時に、如何に自分らしく生きるにはどうすべきか、どのような行動をおこせば良いのかを考える能力を身につける事を目的とする。 【授業全体の内容の概要】 大学生の諸君が、将来の人生を歩む時に、多くの人が悩み、考える共通した人生の壁や社会的問題というものがある。それらを乗り越え、解決する際に、どのように考え、どのように行動すれば良いのだろうか。社会学を学びながら、それらに対処する知識・理論、考え方と行動等について外観する。 【授業終了時の到達目標】 社会学を学び、社会学を通して現実の社会と向き合い、それらについて調査し、考え、社会を理解する能力を身につける。そして、自分らしく充実した人生を過ごすには何が大切かを探る事を目標とする。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 - ガイダンス 「社会学」とはどのような学問か。 - 個人と集団(1) 方法論的個人主義と方法論的集団主義 - 個人と集団(2) 三者関係 - 個人と集団(3) 内集団と外集団 - 個人と集団(4) ゲマインシャフトとゲゼルシャフト - 個人と集団(5) 社会的分業／機械的連帯と有機的連帯 - 個人と集団(6) アイデンティティ - 家族と教育(1) 家族 - 家族と教育(2) ライフサイクルとライフコース - 家族と教育(3) 「I」と「me」 - 家族と教育(4) 社会化 - 総合演習(1) 社会学的視点から見て考える「映画」鑑賞 - 総合演習(2) その「映画」から得られた社会学的問題を捉え、その対応策を探る - まとめ：社会学を学ぶ前と学んだ後で変化した自分について考える 最終課題レポート			
【準備学習】 授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。また毎回、授業内容をまとめる課題プリントを配布するので、決められた期日までに仕上げて提出すること。			
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる社会学」現代位相研究所編 日本実業出版社 参考文献：その都度、授業中に紹介する。		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 最終課題レポート 50% 課題レポート 40% 受講態度 10% レポートの講評を行う。	

授業科目名		授業の種類	授業担当者	
憲法		(講義・演習・実習)	横手 逸男	
授業の回数	時間数(単位数)	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択	
【授業の目的】 憲法は国家の最高法であり、憲法を学び、知識を深めることは、国民として当然の義務ともいえる。本授業では、平和主義、基本的人権、国会・内閣・裁判所などにつき、基本原理や判例・問題点をわかりやすく講義する。日本国憲法の学習を通じて、現代社会の基本的問題についての理解を深め、生活するうえでの問題意識を養うとともに、わが国の社会保障制度の根本理念や法体系についても学ぶ。				
【授業全体の内容の概要】 憲法の内容、新旧両憲法の特徴、日本国憲法の三原則を概観したうえで、平和主義や基本的人権、国会、内閣、裁判所などの組織につき、具体的な事件の検討を交えながら、講義をすすめる。特に社会権などの基本的人権については、わが国の社会保障制度の法体系や朝日訴訟・堀木訴訟・尼崎入学拒否訴訟などの生存権関連の判例考察も行う。				
【授業終了時の到達目標】 日本国憲法の基礎的知識を取得し、社会福祉の現場において必要不可欠な人権感覚、職業倫理感を養う。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 社会生活と法、国家と憲法、憲法の分類 2. 大日本帝国憲法、日本国憲法の制定の歴史と特色 3. 象徴天皇制、天皇の地位と権限 4. 憲法9条と平和主義(砂川事件・長沼事件・百里事件) 5. 湾岸戦争、PKO協力法、わが国の防衛政策 6. 基本的人権の歴史と種類、国際社会と基本的人権の保障 7. 法の下での平等(尊属殺人事件・男女雇用機会均等法) 8. 精神的自由権(思想・良心の自由、信教の自由・表現の自由・学問の自由) 9. 国務請求権(請願権・学校事故と国家賠償・冤罪事件と刑事補償) 10. 日本国憲法の社会権の体系とわが国の社会保障制度 11. 生存権(朝日訴訟・堀木訴訟)、教育権、勤労の権利、労働三権の保障 12. 人身の自由(奴隷的拘束・苦役の禁止)、死刑制度 13. 国会と内閣(衆議院と参議院の組織、議院内閣制) 14. 裁判所の組織と役割、司法権の独立(大津事件・浦和事件) 15. 憲法改正問題(憲法改正の手続、憲法改正の動き、国民投票法) 試験実施				
【準備学習】 毎回の授業の終りには、次の授業予定とテキストの範囲を述べる。テキストの該当ページはあらかじめ一読して授業に臨んでほしい。				
【使用テキスト・参考文献】 「(新訂版)エレメンタリ憲法」 西 修編、横手逸男 他共著、成文堂 (参考書) 三省堂「新六法」2017年度版		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト: 70% 2. 受講態度・小テスト: 30% 【履修者へのメッセージ】 戦争と平和・さまざまな差別・社会保障と社会福祉・犯罪・環境汚染、私達の社会のさまざまな問題を、日本国憲法を通じてみつめてみよう。		

授業科目名		授業の種類		授業担当者	
倫理学		(講義・演習・実習)		福島 猛行	
授業の回数		時間数 (単位数)		配当年次・時期	
15回		30時間・2単位		1年次・前期	
				必修・選択	
				選択	
【授業の目的】 倫理とは、人が正しいと思う判断基準である。その意味で私たちが他者を支援する時、常に考えなければいけないテーマであると言える。この授業では、対人支援に必要と思われる倫理的課題（規範・生命倫理・ケア倫理など）を紹介し、理解を深めると共に、それらに関連する知識についてふれたいと思う。 また、現代社会の様々な倫理的問題点について、それらの問題点を考える上で必要な倫理的テーマについても述べたいと思う。 【授業全体の内容の概要】 対人支援者にとって必要と思われる倫理について説明すると共に、倫理的課題についての問題提起、及び考察を行う。また、倫理的テーマについて、演習を通じて自ら考えてほしい。 【授業終了時の到達目標】 介護福祉士として要求される倫理についての知識を深め、基礎的な人格の態度を養う。人権の基本的理解のうえに、職業倫理を学び身につける。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 倫理学とは 2. 徳倫理 3. 規範倫理 4. 法律と規範倫理 5. 法律と規範倫理（人権と倫理） 6. 規範倫理と応用倫理 7. 生命倫理 1（日本人の死生観） 8. 生命倫理 2（SOL 倫理） 9. 生命倫理 3（QOL 倫理） 10. 生命倫理 4（生命の問題と人権） 11. 生命倫理 5（倫理公準） 12. 生命倫理 6（生命倫理の演習） 13. 生命倫理 7（安楽死の問題） 14. ケア倫理 15. ケア倫理 2（スピリチャルケア） 最終課題レポート					
【準備学習】 各授業終了時に、次回のテーマについての問題提起を行うため、事前にそのテーマに沿った自分の考えをまとめておくこと。各授業終了時に、リアクションペーパーにて自分の考えを述べてもらう。また、授業で学習した事柄について十分に復習しておいてほしい。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：授業時にプリントを配布する。 参考文献：介護福祉のための倫理学（弘文堂） ケアの生命倫理（日本評論社） ※その他、授業時間内に参考文献を紹介する。			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. レポート：60% 2. ミニレポート：20% 3. 受講態度：20%		

授業科目名		授業の種類	授業担当者
倫理学		(講義 ・ 演習 ・ 実習)	福島 猛行
授業の回数	時間数 (単位数)	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択
【授業の目的】 倫理とは、人が正しいと思う判断基準である。その意味で私たちが他者を支援する時、常に考えなければいけないテーマであると言える。この授業では、対人支援に必要と思われる倫理的課題（規範・生命倫理・ケア倫理など）を紹介し、理解を深めると共に、それらに関連する知識についてふれたいと思う。 また、現代社会の様々な倫理的問題点について、それらの問題点を考える上で必要な倫理的テーマについても述べたいと思う。 【授業全体の内容の概要】 対人支援者にとって必要と思われる倫理について説明すると共に、倫理的課題についての問題提起、及び考察を行う。また、倫理的テーマについて、演習を通じて自ら考えてほしい。 【授業終了時の到達目標】 介護福祉士として要求される倫理についての知識を深め、基礎的な人格的態度を養う。人権の基本的理解のうえに、職業倫理を学び身につける。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 倫理学とは 2. 徳倫理 3. 規範倫理 4. 法律と規範倫理 5. 法律と規範倫理（人権と倫理） 6. 規範倫理と応用倫理 7. 生命倫理1（日本人の死生観） 8. 生命倫理2（SOL 倫理） 9. 生命倫理3（QOL 倫理） 10. 生命倫理4（生命の問題と人権） 11. 生命倫理5（倫理公準） 12. 生命倫理6（生命倫理の演習） 13. 生命倫理7（安楽死の問題） 14. ケア倫理 15. ケア倫理2（スピリチャルケア） 最終課題レポート			
【準備学習】 各授業終了時に、次回のテーマについての問題提起を行うため、事前にそのテーマに沿った自分の考えをまとめておくこと。各授業終了時に、リアクションペーパーにて自分の考えを述べてもらう。また、授業で学習した事柄について十分に復習しておいてほしい。			
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：授業時にプリントを配布する。 参考文献：介護福祉のための倫理学（弘文堂） ケアの生命倫理（日本評論社） ※その他、授業時間内に参考文献を紹介する。		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. レポート：60% 2. ミニレポート：20% 3. 受講態度：20%	

授業科目名 音楽療法		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 新田 久子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・2単位	配当年次・時期 1年次・後期	必修・選択 選択
【授業の目的】 人間と音楽(音)は生活の中で深くかかわっている。音楽によって心を癒され、勇気付けられた体験を多くの人が持っていると思う。このように人が音楽を創り育み、音楽は人の健康に役立ちながら互いに発達してきた。音楽が人々の心と体にどのように働きかけるのか?音楽の持つ機能を知り活用するための基礎的な理論と実践を学び、コミュニケーションを無理なくとる方法を知り、さまざまな対応法を学生自身が創り出す力をつける。個人を尊重し認め合い他者と共にいる心地よさ、言語的、非言語的コミュニケーションをとる楽しさを体験し、それらの音楽活動を私生活や職場で良い人間関係づくりに応用活用できるよう柔軟性、積極性を育むことを授業の目的としている。施設における課題解決に音楽活動をどのように生かすのか、アクティブラーニングを体験してもらう。 【授業全体の内容の概要】 音楽が生活に及ぼす有害性と有用性を知り、音楽の働きを理解する。他者の心身の状況にあった音楽の活用法を学生自身が五感を使ってグループ体験する。グループ活動を楽しみつつ学生一人一人の特技や長所を生かす、自己表現を促す、協調性や意欲を高めあうなど、私生活や職場で良い人間関係を築く過程を体験する。 【授業終了時の到達目標】 高齢者と非言語的コミュニケーションをとる音楽活動を少なくとも3種類身につけていること。 高齢者とコミュニケーションをとるための媒体として音楽活動を含めたプログラム作成ができること。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 授業形式(講義、演習、グループワーク、小クイズ) 1. オリエンテーションと自己紹介、他者紹介 2. 音楽(音)の生活への影響・体験談 3. 音楽(音)の持つ有害性と有用性について 4. 音楽療法と音楽教育、音楽レクの違いは何か 5. 音楽がなぜ人間の心と体に影響するか? 6. 音楽がなぜ人の感情を左右するか? 7. 音楽の特性と音楽療法の原理 8. 非言語的・言語的コミュニケーションとしての音楽活用法を考える 9. 目的に沿った音楽活動 10. プログラム案作成 11. プログラム案作成:グループ演習 12. グループ発表:実習リハーサル 13. 実習事前指導 14. 施設にて現場実習 15. 実習事後指導 実習リポート提出			
【準備学習】 身近な高齢者と対話する。(例. 好みの食べ物・曲などを聞く。)			
【使用テキスト・参考文献】 『ここに届く高齢者の音楽療法』 ドレミ楽譜出版、師井和子著		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 総合判定: 1. 受講態度:30% 2. 期末試験:40% 3. 課題提出物:30%	

授業科目名 カレッジ・イングリッシュ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 岩本 裕子	
授業の回数 15回		時間数 (単位数) 30時間・1 単位		配当年次・時期 1 年次・前期	
				必修・選択 選択	
【授業の目的】 「英語は嫌い」と考える学生たちにも、「英語は楽しい」と思えるような授業を展開する。どのような母語の人たちであっても英語さえ使えば、コミュニケーションが可能となっている現在、世界共通語ともなっている英語を、避けて通ることができない。嫌わずに、使える英語の習得を楽しもう！					
【授業全体の内容の概要】 演習形式なので、受講生が積極的に自ら英語を話す時間を多く持ちたい。仲間と一緒に、英語を口にすることによって、英語嫌いを克服して、英語を発することは楽しい、と実感できるようにしたい。音楽や映像なども使いながら、耳や目も刺激して、力をつけていきたい。					
【授業終了時の到達目標】 英語嫌いを克服し、英語を学ぶことは楽しいことを身をもって経験することで、授業終了以降も、英語を自学自習できるような意識を持ってほしい。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. Introduction 2. 自分を表現する 1 3. 自分を表現する 2 4. 自分を表現する 3 5. Speech Contest (「自分表現」発表会) 6. 「とっさのひとこと」 1 7. 「とっさのひとこと」 2 8. 「とっさのひとこと」 3 9. 「とっさのひとこと」 4 10. Conversation Contest (「会話表現」発表会) 11. 耳から聞こえた単語を書く 1 12. 耳から聞こえた単語を書く 2 13. 耳から聞こえた単語を書く 3 14. Spelling Contest (つづり字コンテスト) 15. Conclusion 試験 (手書きノート持ち込み)					
【準備学習】 毎回の授業の復習 (宿題が出た場合はその宿題) をして、ノートを完成させて次回の授業に臨んでほしい。試験は、手書きノートを持ち込んで行うので、充実したノートを作ることは絶対条件となる。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト： 特に指定せず、毎回教材を配布する。 参考文献： NHK テキスト『とっさのひとこと』など各種英会話教材			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 受講態度：40％ 2. 試験：60％		

授業科目名 スポーツ実技		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 片山 昭義								
授業の回数 15回		時間数 (単位数) 30時間・ 1 単位		配当年次・時期 1 年次・前期								
必修・選択 選択												
【授業の目的】 スポーツ実技は、ディプロマポリシーに定める介護福祉に関する専門知識と技術として健康教育に基づく身体づくりの実践という立場で授業を展開し、学生自身にとっては手軽に出来るスポーツ種目の中から得られる喜び、指導法を体得し、他方では、介護従事者として実践的な観点から障がい者や高齢者の親しんでいるスポーツ種目も体験させる。 ※ [この講義は、日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格、日本障害者スポーツ協会公認初級スポーツ指導員資格の取得講座科目でもある] 【授業全体の内容の概要】 青年期に学ぶべき健康教育について理解を深めるとともに、それを実践するための活動も合わせて体験する。体験する種目には、個人競技、集団競技を用い、これら競技の持つ様々な特性を重視しながら指導を展開する。 【授業終了時の到達目標】 介護従事者として習得すべき実用的な観点から、障がい者や高齢者が親しんでいるスポーツの多くを学び、スポーツ活動から得られる喜びや楽しさが体得できる。												
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. オリエンテーション、文化としてのスポーツ①—スポーツの価値— 2. 文化としてのスポーツ②—スポーツの効果— 3. 体力測定の実施と評価（筋力、敏捷性、平衡性、柔軟性、全身持久性） 4. 体ほぐし運動 5. 高齢者スポーツ種目の実際①—ラダーゲッター— 6. 高齢者スポーツ種目の実際②—ペタンク— 7. 高齢者スポーツ種目の実際③—ターゲットバードゴルフ— 8. 障がい者スポーツ種目の実際①—卓球バレー— 9. 障がい者スポーツ種目の実際②—ボッチャ— 10. 障がい者スポーツ種目の実際③—フライングディスク— 11. 障がい者スポーツ種目の実際④—バドミントン— 12. 障がい者スポーツ種目の実際⑤—風船バレー— 13. 団体競技の実際①—アルティメット（基礎編）— 14. 団体競技の実際②—アルティメット（競技編）— 15. まとめ、スポーツにおける安全管理試験を実施												
【準備学習】 ・実技を行う場合、運動できる服装と、体育館等で行う場合には体育館シューズを準備すること ・配布した資料については、必ず確認し直すこと ・体験した実技種目については、youtube 等で映像資料を確認すること												
【使用テキスト・参考文献】 参考文献：レクリエーション支援の基礎（日本レクリエーション協会）、障害者スポーツ指導教本（日本障害者スポーツ協会） その他、適宜資料を配布			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 <table><tr><td>受講態度</td><td>20%</td><td rowspan="3">※コメントを付して返却</td></tr><tr><td>課題提出</td><td>20%</td></tr><tr><td>期末試験</td><td>60%</td></tr></table>			受講態度	20%	※コメントを付して返却	課題提出	20%	期末試験	60%
受講態度	20%	※コメントを付して返却										
課題提出	20%											
期末試験	60%											

授業科目名 スポーツレクリエーション論		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 中島 悠介
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・2単位	配当年次・時期 1年次・前期	必修・選択 選択
【授業の目的】 福祉の専門的知識及び援助技術の中でも、スポーツ・レクリエーションを用いた知識及び援助技術を習得し、スポーツ・レクリエーションの事業をマネジメントする能力を培うこと。 〔※この講義は、レクリエーション・インストラクター、障害者スポーツ指導者初級指導員の資格取得の講座科目を兼ねている〕 【授業全体の内容の概要】 スポーツ・レクリエーションは多くの人が楽しさを味わい、社会参加のための健康・体力づくりを求めている。スポーツ・レクリエーションの展開法を習得させる。 【授業終了時の到達目標】 スポーツ・レクリエーションのもつ健康・体力、明朗、闊達、ゆとり、やる気、仲間づくりなどの効用を理解させる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. スポーツ・レクリエーションの意義 2. スポーツ・レクリエーションの効果 3. 障害者、高齢者におけるスポーツ・レクリエーション 4. スポーツ・レクリエーションの実践に際する注意事項 5. スポーツ・レクリエーションにおけるアイスブレイキングの計画方法 6. スポーツ・レクリエーションにおけるゲーム、ソング、ダンスの活用 7. ニュースポーツのレクリエーション的效果について①個人で行う種目 8. ニュースポーツのレクリエーション的效果について②集団で行う種目 9. ニュースポーツのレクリエーション的效果について③対戦が伴う種目 10. スポーツ・レクリエーションの支援計画① 11. スポーツ・レクリエーションの支援計画② 12. スポーツ・レクリエーションの支援計画③ 13. スポーツ・レクリエーションの評価方法について①グループ評価ポイントについて 14. スポーツ・レクリエーションの評価方法について②個人評価ポイントについて 15. スポーツ・レクリエーションの安全管理 試験			
【準備学習】 この授業では、障害者や高齢者に対するスポーツ・レクリエーションの指導法や展開法を学ばせる。その為、障害者や高齢者の心身の特徴について事前に調べておくこと。また、障害者や高齢者のスポーツ種目・ルールに関する資料を読むこと。			
【使用テキスト・参考文献】 (テキスト) 随時資料を配布 (参考書) 「レクリエーション入門」 日本レクリエーション協会編		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験：60% 2. 受講態度：30% 3. レポート：10%	

授業科目名 レクリエーション活動援助法		授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 片山 昭義
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・1単位	配当年次・時期 1年次・前期	必修・選択 選択
【授業の目的】 レクリエーション活動援助法は、ディプロマポリシーに定める介護福祉領域の主要な専門的知識・援助技術としてレクリエーションを位置づけ、レクリエーション活動援助法の社会的意義について、基礎的理解を踏まえた上で介護福祉の場におけるレクリエーション援助のあり方、援助技術について学ばせる。 [※この講義は(公財)日本レクリエーション協会公認資格レクリエーション・インストラクターの取得講座の主要科目も兼ねている] 【授業全体の内容の概要】 介護福祉領域でのレクリエーション活動援助法の意義、レクリエーション活動援助計画の作成法、レクリエーション活動援助法の実践とその評価について授業を展開する。特に障害者施設、高齢者施設でのレクリエーション活動援助法については事例を挙げて詳しく指導する。 【授業終了時の到達目標】 介護福祉の場におけるレクリエーション活動援助法の意義・あり方が理解でき、レクリエーション活動援助の計画・作成法を学び、レクリエーション活動援助法の実践的援助能力が修得できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. ガイダンス、レクリエーション活動援助とは 2. レクリエーション活動援助法の概念 3. 遊びの意義とレクリエーション活動援助法①～レクリエーションの基本的理解～ 4. 遊びの意義とレクリエーション活動援助法②～「楽しい」を基盤とした支援方法～ 5. 心身と健康とレクリエーション活動援助法① ～グループを活用したレクリエーション活動援助(理論)～ 6. 心身と健康とレクリエーション活動援助法② ～グループを活用したレクリエーション活動援助(演習)～ 7. 介護福祉とレクリエーション活動援助法①～ホスピタリティとは～ 8. 介護福祉とレクリエーション活動援助法②～ホスピタリティ・トレーニング～ 9. レクリエーション活動援助法の計画と支援方法 ～ライフステージごとの課題とレクリエーション支援のポイント～ 10. 高齢者向けのレクリエーション活動と援助法①～高齢者の課題とレクリエーション支援のポイント～ 11. 高齢者向けのレクリエーション活動と援助法②～高齢者施設におけるレクリエーション支援の実践～ 12. レクリエーション活動援助法の計画と作成方法① ～福祉施設におけるレクリエーション行事作成のポイント～ 13. レクリエーション活動援助法の計画と作成方法② ～福祉施設におけるレクリエーション行事作成の実践～ 14. レクリエーション活動の安全管理(リスクマネジメント) 15. 本授業のまとめ、筆記試験について 筆記試験			
【準備学習】 授業時に配布した資料を参考に、ふりかえりを行ない指定した演習シートに取り組むこと。			
【使用テキスト・参考文献】 参考文献：『レクリエーション支援の基礎』 日本レクリエーション協会編 その他、適宜資料を配布		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 受講態度 20% 課題提出及びプレゼンテーション 20% ※プレゼンテーション後に講評を行う 期末試験 60%	

授業科目名 レクリエーション実技		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 菅野 清子	
授業の回数 15回		時間数 (単位数) 30時間・1 単位		配当年次・時期 1 年次・後期	
				必修・選択 選択	
【授業の目的】 レクリエーション援助を実践する際の基本的な考え方に従い、援助に必要な対人援助の技術やレクリエーション固有の援助技術などを学ばせる。 [※この講義は (公財) 日本レクリエーション協会公認資格レクリエーション・インストラクターの取得講座も兼ねている]					
【授業全体の内容の概要】 レクリエーション活動の援助計画に基づき、特に高齢者施設におけるレクリエーションの実践活動を積極的に展開させる。					
【授業終了時の到達目標】 レクリエーション活動の実践援助能力を習得させる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. ガイダンス 2. アイスブレイキングプログラムの体験 3. 地域貢献の具体的活動～バルーンアート他 4. レクリエーション活動の提供スキル①～同時発声同時動作の理解～ 5. レクリエーション活動の提供スキル②～同時発声同時動作の習得～ 6. レクリエーション活動の提供スキル③～目的に合わせたレクリエーション～ 7. レクリエーション活動の提供スキル④～対象に合わせたレクリエーション～ 8. レクリエーション活動の提供スキル⑤ハードル設定と CSS プロセスの体験と理解 9. レクリエーション活動の提供スキル⑥ハードル設定と CSS プロセスの習得 10. ホスピタリティの体験と理解 声かけの重要性 傾聴の方法 11. レクリエーションスキルの総合的活用①～総合演習のねらいと方法～ 12. レクリエーションスキルの総合的活用②～レクリエーション活動の企画～ 13. レクリエーションスキルの総合的活用③～レクリエーション活動の準備～ 14. 総合演習① 15. 総合演習②と本授業のまとめ、筆記試験について 筆記試験・実技発表 課題作成等					
【準備学習】 レクリエーションスキルを身につけるために、配布した実技資料は毎回確認して、いつでもできるように学んで欲しい。					
【使用テキスト・参考文献】 (テキスト) 授業に合わせ資料を配布 (参考書)「レクリエーション支援の基礎」(公益財団法人 日本レクリエーション協会) レクリエーションガイドブック29「楽しいアイスブレイキングゲーム集」(公益財団法人 日本レクリエーション協会) ほか随時紹介			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 (試験やレポートの評価基準など) 1. 受講態度：20％ 2. 試験：60％ 3. 発表等：20％ 人前での実技指導を行い、講評します		

授業科目名 情報処理概論		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 米岡 学							
授業の回数 15回		時間数（単位数） 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期							
必修・選択 選択											
【授業の目的】 現代は情報社会であり、その中で生きる私達がより快適な暮らしができるようにPC（パーソナルコンピュータ）やICT（情報通信技術）のハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する基本技術や知識を修得する。そして「情報活用検定（J検）3級」程度の資格取得を目指す。 【授業全体の内容の概要】 授業全体では、前半は主にPCやICTの技術面を学ぶ。後半はその技術の社会における運用面を学ぶ。これらより、情報社会の光と影の部分を理解し、健全に情報を取り扱い、情報活用するにはどのようにすれば良いかを学ぶ。 【授業終了時の到達目標】 PCやICTの基本技術や知識を身につけ、私達が情報社会をより良く生きるための情報活用能力を身につける。そして、J検3級・2級や「ITパスポート試験」の資格取得もできるよう指導する。											
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. ガイダンス 2. パソコンの基礎(1) パソコンの構成と仕組み 3. パソコンの基礎(2) 入力装置 4. パソコンの基礎(3) 出力装置 5. パソコンの基礎(4) 入出力インタフェース 6. パソコンの基礎(5) オペレーティングシステムとファイル管理 7. 情報の基礎(1) 情報とデータ 8. 情報の基礎(2) 情報を収集するための検索方法 9. インターネット(1) インターネットに接続する 10. インターネット(2) 接続のためのハードウェア 11. インターネット(3) Web ページの閲覧 12. インターネット(4) 電子メールの仕組み 13. アプリケーションソフトの利用 14. 情報モラル(1) 情報社会と情報モラル 15. 情報モラル(2) ネットワークの利用とエチケット 期末試験											
【準備学習】 毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。また、授業で配布した課題プリントは、次回の授業までに作成して提出すること。											
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「情報検定 情報活用試験3級テキスト」職業教育・キャリア教育財団 監修 実教出版 参考文献：「情報検定 情報活用試験3級 問題集」職業教育・キャリア教育財団 監修 実教出版			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 <table><tr><td>受講態度</td><td>10%</td></tr><tr><td>課題レポート提出</td><td>40%</td></tr><tr><td>期末試験</td><td>50%</td></tr></table> 課題レポートの講評を行う。			受講態度	10%	課題レポート提出	40%	期末試験	50%
受講態度	10%										
課題レポート提出	40%										
期末試験	50%										

授業科目名 マルチメディア論Ⅰ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 米岡 学	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
必修・選択 選択					
【授業の目的】 この授業では、本学のコンピュータシステム環境について説明し、活用、利用できるようにする。 【授業全体の内容の概要】 この授業では、まず、Windowsの基本操作、タッチタイピング（キーボードを見ないで、速く正確に 入力する技術）、電子メール、インターネットを利用した情報検索等を学習する。そして、ワードプロセ ッサを学び、文章作成ができるようにする。図形描画機能をマスターし、デジタル画像データ（デジタル カメラの写真等）を利用し、ビジュアル的に見栄えの良い文章を作成できるようにする。 【授業終了時の到達目標】 1. Windows、タッチタイピング、電子メール、インターネット検索等を活用できるようにする。 2. ワードプロセッサでビジネス文書を作成し、文書ファイル管理ができるようにする。 3. ビジュアル的に見栄えの良い文章やポスターを作成し、情報発信できるようにする。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. ガイダンス 2. Windowsの基本操作 3. タッチタイピングの練習 4. 電子メールの操作と仕組み 5. インターネットの概要とWWWブラウザの基本操作 6. サーチエンジンの活用と情報検索 7. ワードプロセッサ(1) Wordの基本画面 8. ワードプロセッサ(2) 基本編集 9. ワードプロセッサ(3) 書式設定 10. ワードプロセッサ(4) 文章作成 11. ワードプロセッサ(5) 表と罫線 12. ワードプロセッサ(6) 図形描画とオートシェイプ 13. ワードプロセッサ(7) 組織図とワードアート 14. ワードプロセッサ(8) クリップアートとデジタル画像処理 15. ワードプロセッサ(9) 総合演習 最終課題実習レポート等					
【準備学習】 毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。 また、授業中に提出できなかった実習課題等は、次回の授業までに完成させて提出すること。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「Office2010で学ぶコンピュータリテラシー」小野目如快 著 実教出版 参考文献：その都度、紹介する。			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 実習課題レポート提出 90% 受講態度 10% レポートの講評を行う。		

授業科目名 マルチメディア論Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 米岡 学	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・後期	
必修・選択 選択					
【授業の目的】 この授業は、「マルチメディア論Ⅰ」を履修した者、またはその履修者と同程度の能力を持っている者を対象として、進める予定である。ここでは、表計算ソフト Excel で表計算処理とグラフ作成処理を習得し、またプレゼンテーションソフト PowerPoint でスライドの作成ができるようにする。 【授業全体の内容の概要】 表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint の初心者でも、基本的なところから授業を始めるので、心配しないで受講して欲しい。表計算処理として、①表計算機能、②グラフ作成機能等を習得する。次にプレゼンテーション用の資料作成をするソフト Power Point を習得して、プレゼンテーション用のスライド作成ができることを目的とする。 【授業終了時の到達目標】 (1)与えられた課題について、表計算処理ができるようにする。(2)その表計算結果から、目的にあったグラフを作成できるようにする。(3)プレゼンテーションの資料であるスライドを作成できるようにする。(4)各自テーマを決めて、そのプレゼンテーション用資料スライドを作成できるようにする。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. ガイダンス 2. 基本操作(1) Excel の画面構成 3. 基本操作(2) 基本入力 4. 表計算処理(1) 表の作成 5. 表計算処理(2) 数式の入力 6. 表計算処理(3) 相対番地と絶対番地 7. 表計算処理(4) 関数 8. グラフ作成処理(1) グラフ作成 9. グラフ作成処理(2) グラフの諸設定 10. グラフ作成処理(2) グラフの応用設定 11. プレゼンテーションのスライド作成(1) 基本操作 12. プレゼンテーションのスライド作成(2) デジタル画像データ処理 13. プレゼンテーションのスライド作成(3) 発表用スライドの完成 14. プレゼンテーションの課題資料作成(1) 15. プレゼンテーションの課題資料作成(2) 最終課題実習レポート					
【準備学習】 毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。 また、授業中に提出できなかった実習課題等は、次回の授業までに完成させて提出すること。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「Office2010で学ぶコンピュータリテラシー」小野目如快 著 実教出版 参考文献：その都度、紹介する。			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 実習課題レポート提出 90% 受講態度 10% レポートの講評を行う。		

授業科目名 ウェブデザイン論		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 米岡 学	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・後期	
				必修・選択 選択	
【授業の目的】 最初に、Web ページの仕組みについて説明する。次に、デジタル画像データを取り扱えるようにして、Web ページに挿入できるようにする。また、見やすく、使いやすいデザインの Web ページを作成する方法を習得する。加えて、著作権の説明をし、違法コピーが犯罪であることを学ぶ。 【授業全体の内容の概要】 複数の Web ページを整理管理したものを Web サイトと言う。その Web サイトの設計やファイルの管理方法について学習する。コンピュータ教室で Web ページを作成する操作方法や HTML (Web ページを作成するプログラム言語) について解説をして、プログラミングをしながら理解できるように、授業を進める。学期の前半は、HTML 言語のプログラミングをマスターする。後半は、最終課題として各自がテーマを決めて、Web ページ、Web サイトを作成して、発表し、提出する。 【授業終了時の到達目標】 1. HTML をマスターして、基本的な Web ページが作成できるようにする。 2. 使いやすい Web サイトを構築し、情報を発信できるようにする。 3. デジタル画像データの加工・編集処理を習得する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. ガイダンス 2. Web サイト、Web ページの概要 3. Web ページの作成方法 4. HTML の概要 5. HTML プログラミング(1) 文章の作成 6. HTML プログラミング(2) 文字の設定 7. HTML プログラミング(3) 背景の設定 8. HTML プログラミング(4) デジタル画像データの挿入 9. HTML プログラミング(5) ハイパーリンクの設定 10. 最終課題 (各自で Web サイトを制作) の説明 11. Web サイトの制作(1) Web サイトのテーマを決める。 12. Web サイトの制作(2) 素材 (デジタル画像データ) を収集する。 13. Web サイトの制作(3) プログラミングをして各ページを作成する。 14. Web サイトの制作(4) 各 Web ページをリンクして Web サイトを完成する。 15. Web サイトの修正、発表、提出 最終実習課題提出					
【準備学習】 毎回授業終了時に、次回の授業で行う講義範囲を言うので、教科書を読んで予習してくること。また、授業中に提出できなかった実習課題等は、次回の授業までに完成させて提出すること。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「Web ページ作成入門—HTML/CSS/JavaScript の基礎—」松下孝太郎 他著、コロナ社 参考文献：「30時間アカデミック Web デザイン」影山明俊 他著、実教出版			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 最終実習課題レポート 50% 提出実習課題レポート 30% 受講態度 20% レポートの講評を行う。		

授業科目名 エッセンシャルスタディⅠ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 松寄 久実・平澤 泰子			
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期			
				必修・選択 必修			
【授業の目的】 学生として必要な読解力・表現力・記述力といった基礎的な学力を養う。自己学習の習慣を身につける。							
【授業全体の内容の概要】 授業内容を的確に把握できるようノートの取り方を学ぶ。地域と連携し地域の高齢者との触れ合いや新聞の切り抜き等から事実の把握、分析、感想を文字化することを学ぶ。専門用語の読み書きを修得し、適切な表現力を身につける。インターネット検索を学び、情報収集を行うことにより物事を多面的に捉える力をつける。補講を行うことにより基礎力を高める。							
【授業終了時の到達目標】 情報収集し記録する技術を身につけ、物事を自分の言葉で表現できる知識と技術を修得している。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. オリエンテーション 2. 基礎学力確認テスト 3. ノートテータキング 4. 地域課題を高齢者から学ぶ① 5. 地域課題を高齢者から学ぶ② 6. 新聞の切り抜き発表 7. インターネット検索と活用① 8. インターネット検索と活用② 9. 文章力入門① 10. 文章力入門② 11. 文章力入門③ 12. 文章力入門④ 13. 文章力入門⑤ 14. 文章力入門⑥ 15. 文章力入門⑦ 試験							
【準備学習】 毎月、新聞の切り抜きをして、抜き書き、要約、考察を書く。文章力入門では、毎回、文章を作成する課題が出題される。次の講義の前に提出して、評価を受けることで、学習の内容が深められる。十分でない提出物は再提出となる。文章力の基本となる熟語の読み書きの課題が出題されるので、期末試験までに、練習をする必要がある。							
【使用テキスト・参考文献】 適宜プリントを配付 樋口裕一：「文章力の鍛え方」ソーテック社			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト：40% 2. レポートおよび課題：60% 期末テストは返却時に講評を行う。レポートおよび課題はルーブリック評価を行うとともにコメントを記して戻す。				

授業科目名 エッセンシャルスタディⅠ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 松寄 久実・平澤 泰子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 学生として必要な読解力・表現力・記述力といった基礎的な学力を養う。自己学習の習慣を身につける。					
【授業全体の内容の概要】 授業内容を的確に把握できるようノートの取り方を学ぶ。地域と連携し地域の高齢者との触れ合いや新聞の切り抜き等から事実の把握、分析、感想を文字化することを学ぶ。専門用語の読み書きを修得し、適切な表現力を身につける。インターネット検索を学び、情報収集を行うことにより物事を多面的に捉える力をつける。補講を行うことにより基礎力を高める。					
【授業終了時の到達目標】 情報収集し記録する技術を身につけ、物事を自分の言葉で表現できる知識と技術を習得している。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. オリエンテーション 2. 基礎学力確認テスト 3. ノートテーキング 4. 地域課題を高齢者から学ぶ① 5. 地域課題を高齢者から学ぶ② 6. 新聞の切り抜き発表 7. インターネット検索と活用① 8. インターネット検索と活用② 9. 文章力入門① 10. 文章力入門② 11. 文章力入門③ 12. 文章力入門④ 13. 文章力入門⑤ 14. 文章力入門⑥ 15. 文章力入門⑦ 試験					
【準備学習】 毎月、新聞の切り抜きをして、抜き書き、要約、考察を書く。文章力入門では、毎回、文章を作成する課題が出題される。次の講義の前に提出して、評価を受けることで、学習の内容が深められる。十分でない提出物は再提出となる。文章力の基本となる熟語の読み書きの課題が出題されるので、期末試験までに、練習をする必要がある。					
【使用テキスト・参考文献】 適宜プリントを配付 樋口裕一：「文章力の鍛え方」ソーテック社			【単位認定の方法及び基準】 1. 期末テスト：40% 2. レポートおよび課題：60% 期末テストは返却時に講評を行う。レポートおよび課題はルーブリック評価を行うとともにコメントを記して戻す。		

授業科目名 エッセンシャルスタディⅡ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 松寄 久実・平澤 泰子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・後期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 データの収集と分析を行い、レポートを作成する方法を学ぶ。作成したレポートを推敲する方法を学び、介護福祉士としての実践力を学ぶ。					
【授業全体の内容の概要】 地域の高齢者と触れ合うなかで得た課題や新聞の切り抜きの追跡調査を行い、充実した完成レポートを作成する。エクセルやワードを活用してレポート作成に関する技術を修得する。補講を行うことにより基礎力を高める。レポートの到達目標はルーブリックで示され、評価される。					
【授業終了時の到達目標】 レポート作成に必要な技術を修得し、プレゼンテーションができるようになる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 読書感想文発表 2. 新聞の切り抜き発表① 3. 文章作成法① 4. 文章作成法② 5. 文章作成法③ 6. 文章作成法④ 7. 文章作成法⑤ 8. レポート作成の技術① 9. レポート作成の技術② 10. 新聞の切り抜き発表② 11. レポート指導① 12. レポート指導② 13. 地域課題の解決方法を探る① 14. 地域課題の解決方法を探る② 15. レポート作成の技術③ 試験					
【準備学習】 文章作成法では、毎回、文章を作成する課題が出題される。次の講義の前に提出して、評価をうけることで、学習の内容が深められる。十分でない提出物は再提出となる。 レポート完成の前に、各自レポートを作成して、添削指導を受ける。指導内容を反映した修正を各自で行う。作成したレポートは、評価の基準が示されているので、自己採点して書式等を完璧にする。					
【使用テキスト・参考文献】 適宜プリントを配付 樋口裕一：「文章力の鍛え方」ソーテック社			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト：40% 2. レポートおよび課題：60% 期末テストは返却時に講評を行う。レポートおよび課題はルーブリック評価を行うとともにコメントを記して戻す。		

授業科目名 エッセンシャルスタディⅡ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 松寄 久実・平澤 泰子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 1年次・後期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 データの収集と分析を行い、レポートを作成する方法を学ぶ。作成したレポートを推敲する方法を学び、介護福祉士としての実践力を学ぶ。 【授業全体の内容の概要】 地域の高齢者と触れ合うなかで得た課題や新聞の切り抜きの追跡調査を行い、充実した完成レポートを作成する。エクセルやワードを活用してレポート作成に関する技術を修得する。補講を行うことにより基礎力を高める。レポートの到達目標はルーブリックで示され、評価される。 【授業終了時の到達目標】 レポート作成に必要な技術を修得し、プレゼンテーションができるようになる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 読書感想文発表 2. 新聞の切り抜き発表① 3. 文章作成法① 4. 文章作成法② 5. 文章作成法③ 6. 文章作成法④ 7. 文章作成法⑤ 8. レポート作成の技術① 9. レポート作成の技術② 10. 新聞の切り抜き発表② 11. レポート指導① 12. レポート指導② 13. 地域課題の解決方法を探る① 14. 地域課題の解決方法を探る② 15. レポート作成の技術③ 試験					
【準備学習】 文章作成法では、毎回、文章を作成する課題が出題される。次の講義の前に提出して、評価をうけることで、学習の内容が深められる。十分でない提出物は再提出となる。 レポート完成の前に、各自レポートを作成して、添削指導を受ける。指導内容を反映した修正を各自で行う。作成したレポートは、評価の基準が示されているので、自己採点して書式等を完璧にする。					
【使用テキスト・参考文献】 適宜プリントを配付 樋口裕一：「文章力の鍛え方」ソーテック社			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト：40% 2. レポートおよび課題：60% 期末テストは返却時に講評を行う。レポートおよび課題はルーブリック評価を行うとともにコメントを記して戻す。		

授業科目名 キャリアデザイン I		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・ 鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・2単位	配当年次・時期 2年次・後期	必修・選択 選択	
【授業の目的】 介護福祉士として社会で活躍するために、一年と二年で学習した知識を総合的に活用する力を養う。 【授業全体の内容の概要】 4回の実習を踏まえて、今まで学習した内容がどのような意味を持つのか、実践と関連付けながら学習の振り返りを行う。また事例などから多面的な知識が求められていることを知り、知識を丁寧に整理し、習得するとともに、あらゆる可能性を駆使して利用者を理解することの大切さを学ぶ。 【授業終了時の到達目標】 ・介護におけるあらゆる場面で適切な対応を考察し、自ら工夫できる知識と技術を習得する。 ・介護福祉士の専門性を明確に持ち、全人的な視点で利用者を理解する。 ・介護福祉士としての仕事を自ら主体的に考える姿勢を持つことができる。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 実習体験の振り返り・オリエンテーション 2. 人間と社会1：人間の尊厳と自立と介護現場での支援の工夫 3. 人間と社会2：人間関係とコミュニケーションと介護現場での支援の工夫 4. 人間と社会3：社会の理解と介護現場での支援の工夫① 5. 人間と社会4：社会の理解と介護現場での支援の工夫② 6. 事例による検討 7. 介護1：介護の基本と介護現場での支援の工夫① 8. 介護2：介護の基本と介護現場での支援の工夫② 9. 介護3：コミュニケーション技術と介護現場での支援の工夫 10. 介護4：生活支援技術と介護現場での支援の工夫① 11. 介護5：生活支援技術と介護現場での支援の工夫② 12. 介護6：生活支援技術と介護現場での支援の工夫③ 13. 介護7：生活支援技術と介護現場での支援の工夫④ 14. 介護8：介護過程と介護現場での支援の工夫 15. 総論：介護現場の問題と解決 試験				
【準備学習】 介護実習の体験の中で、今まで学習した「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の授業内容を振り返り、学習が不十分だった点を考察しておくことが必要である。また、今後の学習を進めるポイントを考え、本授業を受けることが望ましい。配付資料は必ず自己学習に役立てる。				
【使用テキスト・参考文献】 (使用テキスト) 「新・介護福祉士養成講座」中央法規出版 (参考テキスト) 「介護福祉士受験ワークブック」上・下 中央法規出版		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. (知識・理解・思考・判断) 定期試験：30% 小テスト：30% 2. (関心・意欲・態度) 平常点：40%		

授業科目名 キャリアデザイン I		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・ 鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間・1 単位	配当年次・時期 2 年次・後期	必修・選択 選択	
【授業の目的】 介護福祉士として社会で活躍するために、一年と二年で学習した知識を総合的に活用する力を養う。 【授業全体の内容の概要】 4 回の実習を踏まえて、今まで学習した内容がどのような意味を持つのか、実践と関連付けながら学習の振り返りを行う。また事例などから多面的な知識が求められていることを知り、知識を丁寧に整理し、習得するとともに、あらゆる可能性を駆使して利用者を理解することの大切さを学ぶ。 【授業終了時の到達目標】 ・介護におけるあらゆる場面で適切な対応を考察し、自ら工夫できる知識と技術を習得する。 ・介護福祉士の専門性を明確に持ち、全人的な視点で利用者を理解する。 ・介護福祉士としての仕事を自ら主体的に考える姿勢を持つことができる。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 実習体験の振り返り・オリエンテーション 2. 人間と社会 1：人間の尊厳と自立と介護現場での支援の工夫 3. 人間と社会 2：人間関係とコミュニケーションと介護現場での支援の工夫 4. 人間と社会 3：社会の理解と介護現場での支援の工夫① 5. 人間と社会 4：社会の理解と介護現場での支援の工夫② 6. 事例による検討 7. 介護 1：介護の基本と介護現場での支援の工夫① 8. 介護 2：介護の基本と介護現場での支援の工夫② 9. 介護 3：コミュニケーション技術と介護現場での支援の工夫 10. 介護 4：生活支援技術と介護現場での支援の工夫① 11. 介護 5：生活支援技術と介護現場での支援の工夫② 12. 介護 6：生活支援技術と介護現場での支援の工夫③ 13. 介護 7：生活支援技術と介護現場での支援の工夫④ 14. 介護 8：介護過程と介護現場での支援の工夫 15. 総論：介護現場の問題と解決 試験				
【準備学習】 介護実習の体験の中で、今まで学習した「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の授業内容を振り返り、学習が不十分だった点を考察しておくことが必要である。また、今後の学習を進めるポイントを考え、本授業を受けることが望ましい。配付資料は必ず自己学習に役立てる。				
【使用テキスト・参考文献】 (使用テキスト) 「新・介護福祉士養成講座」中央法規出版 (参考テキスト) 「介護福祉士受験ワークブック」上・下 中央法規出版		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. (知識・理解・思考・判断) 定期試験：30% 小テスト：30% 2. (関心・意欲・態度) 平常点：40%		

授業科目名 キャリアデザインⅡ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・2単位	配当年次・時期 2年次・後期	必修・選択 選択	
【授業の目的】 介護福祉士として社会で活躍するために、一年と二年で学習した知識を総合的に活用する力を養う。 【授業全体の内容の概要】 4回の実習を踏まえて、今まで学習した内容がどのような意味を持つのか、実践と関連付けながら学習の振り返りを行う。介護現場を取りまくさまざまな問題に対し、それをどのように解決するのかを考察し、現代の介護福祉の諸問題を解決する方法を考察する。 【授業終了時の到達目標】 ・介護におけるあらゆる場面で適切な対応を考察し、自ら工夫できる知識と技術を習得する。 ・他職種の専門性について理解し、全人的な視点で利用者を理解する。 ・介護福祉士としての仕事を自ら主体的に考える姿勢を持つことができる。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. ころとからだのしくみ1：発達と老化の理解と介護現場での支援の工夫① 2. ころとからだのしくみ2：発達と老化の理解と介護現場での支援の工夫② 3. ころとからだのしくみ3：発達と老化の理解と介護現場での支援の工夫③ 4. ころとからだのしくみ4：認知症の理解と介護現場での支援の工夫① 5. ころとからだのしくみ5：認知症の理解と介護現場での支援の工夫② 6. ころとからだのしくみ6：認知症の理解と介護現場での支援の工夫③ 7. ころとからだのしくみ7：障害の理解と介護現場での支援の工夫① 8. ころとからだのしくみ8：障害の理解と介護現場での支援の工夫② 9. ころとからだのしくみ9：ころとからだのしくみと介護現場での支援の工夫 10. ころとからだのしくみ10：からだのしくみと介護現場での支援の工夫 11. ころとからだのしくみ11：ころのしくみと介護現場での支援の工夫 12. 総合事例：事例を元にした介護の展開① 13. 総合事例：事例を元にした介護の展開② 14. 学習の振り返り：総合的学習の振り返り① 15. 学習の振り返り：総合的学習の振り返り② 試験				
【準備学習】 介護実習の体験の中で、今まで学習した「人間と社会」「介護」「ころとからだのしくみ」「医療的ケア」の授業内容を振り返り、学習が不十分だった点を考察しておくことが必要である。また、今後の学習の改善策を考え、本授業を受けることが望ましい。配付資料は必ず自己学習に役立てる。				
【使用テキスト・参考文献】 (使用テキスト) 「新・介護福祉士養成講座」中央法規出版 (参考テキスト) 「介護福祉士受験ワークブック」上・下 中央法規出版		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. (知識・理解・思考・判断) 定期試験：30% 小テスト：30% 2. (関心・意欲・態度) 平常点：40%		

授業科目名 キャリアデザインⅡ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 青柳佳子・岡田圭祐・加藤英池子・嶋田美津江・ 鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・米岡学	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・1単位	配当年次・時期 2年次・後期		必修・選択 選択
【授業の目的】 介護福祉士として社会で活躍するために、一年と二年で学習した知識を総合的に活用する力を養う。 【授業全体の内容の概要】 4回の実習を踏まえて、今まで学習した内容がどのような意味を持つのか、実践と関連付けながら学習の振り返りを行う。介護現場を取りまくさまざまな問題に対し、それをどのように解決するのかを考察し、現代の介護福祉の諸問題を解決する方法を考察する。 【授業終了時の到達目標】 ・介護におけるあらゆる場面で適切な対応を考察し、自ら工夫できる知識と技術を習得する。 ・他職種の専門性について理解し、全人的な視点で利用者を理解する。 ・介護福祉士としての仕事を自ら主体的に考える姿勢を持つことができる。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. ころとからだのしくみ1：発達と老化の理解と介護現場での支援の工夫① 2. ころとからだのしくみ2：発達と老化の理解と介護現場での支援の工夫② 3. ころとからだのしくみ3：発達と老化の理解と介護現場での支援の工夫③ 4. ころとからだのしくみ4：認知症の理解と介護現場での支援の工夫① 5. ころとからだのしくみ5：認知症の理解と介護現場での支援の工夫② 6. ころとからだのしくみ6：認知症の理解と介護現場での支援の工夫③ 7. ころとからだのしくみ7：障害の理解と介護現場での支援の工夫① 8. ころとからだのしくみ8：障害の理解と介護現場での支援の工夫② 9. ころとからだのしくみ9：ころとからだのしくみと介護現場での支援の工夫 10. ころとからだのしくみ10：からだのしくみと介護現場での支援の工夫 11. ころとからだのしくみ11：ころのしくみと介護現場での支援の工夫 12. 総合事例：事例を元にした介護の展開① 13. 総合事例：事例を元にした介護の展開② 14. 学習の振り返り：総合的学習の振り返り① 15. 学習の振り返り：総合的学習の振り返り② 試験				
【準備学習】 介護実習の体験の中で、今まで学習した「人間と社会」「介護」「ころとからだのしくみ」「医療的ケア」の授業内容を振り返り、学習が不十分だった点を考察しておくことが必要である。また、今後の学習の改善策を考え、本授業を受けることが望ましい。配付資料は必ず自己学習に役立てる。				
【使用テキスト・参考文献】 (使用テキスト) 「新・介護福祉士養成講座」中央法規出版 (参考テキスト) 「介護福祉士受験ワークブック」上・下 中央法規出版		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1.(知識・理解・思考・判断)定期試験：30% 小テスト：30% 2.(関心・意欲・態度)平常点：40%		

介護福祉科目

(人間と社会)

授業科目名 人間の尊厳と自立		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 福島 猛行	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・後期	
必修・選択 必修					
【授業の目的】 人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。					
【授業全体の内容の概要】 人間の尊厳について、その必要性を学ぶとともに、現代社会における法制度や社会の構造、人びとの意識について演習などを通じて考察する。そして生活支援における自立・自律の考え方及び尊厳との関係についての基礎事項を学び、介護実践に生かせる能力を養う。					
【授業終了時の到達目標】 介護福祉士としての基礎的な人格的態度を養う。人権の基本的理解のうえに、権利擁護及び職業倫理を学び身につける。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 介護になぜ尊厳と自立の考えが必要なのか 2. 尊厳の思想成立の歴史的背景 3. 尊厳についての考察 4. 自立と自律の関係 5. 尊厳と自立の関係 6. 尊厳と自立の考察Ⅰ（映像からの考察1） 7. 尊厳と自立の考察Ⅱ（映像からの考察2） 8. 尊厳と自立の考察Ⅲ（演習） 9. 尊厳と自立の考察Ⅳ（演習の発表、講評） 10. 介護を取り巻く諸問題と尊厳と自立 11. 介護福祉士の倫理Ⅰ（人間の尊厳を支えるための倫理的課題1） 12. 介護福祉士の倫理Ⅱ（人間の尊厳を支えるための倫理的課題2） 13. 介護福祉士の倫理Ⅲ（対人支援者の職能倫理） 14. 介護福祉士の倫理Ⅳ（グループディスカッション） 15. 介護福祉士の倫理Ⅴ（発表と考察・ミニレポート） ＜試験＞					
【準備学習】 授業終了後にリアクションペーパーの提出を求めるので、授業内容を良く理解できるように次回授業内容分のテキストを良く予習しておくように。また、テキストの該当箇所終了時にミニテストを実施するため、授業終了後に学習内容を復習しておくこと。					
【使用テキスト・参考文献】 (使用テキスト) 「人間の尊厳と自立」中央法規出版 (参考文献) 「人間科学的生活支援論」 黒澤貞夫著 ミネルヴァ書房			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末試験：60％ 2. 課題提出・ミニテスト：20％ 3. 受講態度：20％ ※ミニテストはコメントを記して返却する。		

授業科目名 人間関係とコミュニケーション		授業の種類 (講義)・演習・実習)		授業担当者 岡田 圭祐			
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期			
				必修・選択 必修			
【授業の目的】 ・介護実践のために必要となる人間関係の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーションの能力を養う。 ・利用者に対するコミュニケーション、他職種協働でチームケアを進める際に必要となるコミュニケーション能力の基礎的理解を養う。							
【授業全体の内容の概要】 ・人間関係の理解を基礎に、コミュニケーションの構造的を分析的に理解するように支援する。介護福祉士として、援助関係形成のためのコミュニケーションの基礎的知識を備えるようにする。							
【授業終了時の到達目標】 ・自己覚知、他者理解を学び、人間関係の形成のための基盤を理解できる。 ・コミュニケーションを形成している構成要素を理解する。 ・援助形成のために必要となるコミュニケーション基礎知識を習得する。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 人間関係の形成① 自己覚知、他者理解とは何か 2. 人間関係の形成② 人間関係を理解するために 3. コミュニケーションの基礎的理解① 対人関係とコミュニケーションの概要 4. コミュニケーションの基礎的理解② 対人関係とコミュニケーションの意義 5. コミュニケーションの基礎的理解③ コミュニケーションを促すための環境づくり 6. コミュニケーション技法① 距離のもち方(心理的距離と物的距離について) 7. コミュニケーション技法② 言語的コミュニケーションの有効的な活用 8. コミュニケーション技法③ 非言語コミュニケーションの有効的な活用 9. コミュニケーション技法④ 援助関係形成のための援助者としての基本的態度 10. 道具を用いた言語的コミュニケーションの活用 11. コミュニケーションの実際① 特別養護老人ホームにおける事例 12. コミュニケーションの実際② 老人デイサービスセンター利用者の事例 13. コミュニケーションの実際③ 障害がある人の多様なコミュニケーション 14. 場面別でのコミュニケーションの活用① 15. 場面別でのコミュニケーションの活用② まとめ・評価							
【準備学習】 ①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返しておくこと ②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと ③授業後にノートや配布資料を整理すること							
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「人間の理解」中央法規 参考文献：「コミュニケーション技術」中央法規				【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト：60% 2. 提出物・小テスト：20% 3. 受講態度：20% *期末テスト・小テストは返却時に講評する。 *提出物はコメントを記し返却する。			

授業科目名 社会の理解 I		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 岡田 圭祐	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 1 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する。 2 わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする。					
【授業全体の内容の概要】 人間の生活と社会の関わり、自助から公助に至る過程を理解することにより、個人が自立した生活を営むということは何かを考え、理解すると共に、わが国における社会保障システムについても理解を深める。					
【授業終了時の到達目標】 1 個人が自立した生活を営むということは何かを理解する。 2 わが国の社会保障システムについて理解する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 生活と福祉(1)家族生活の基本機能 2. 生活と福祉(2)地域社会と組織 3. 生活と福祉(3)ライフスタイル、社会構造の変容 4. 生活と福祉(4)生活支援と福祉 5. 社会保障制度(1)社会保障の基本的な考え方 6. 社会保障制度(2)日本の社会保障制度の発達（日本の社会保障の基本的な考え方） 7. 社会保障制度(3)日本の社会保障制度の発達（憲法と社会保障） 8. 社会保障制度(4)日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解 9. 社会保障制度(5)日本の社会保障制度の発達（公的扶助） 10. 社会保障制度(6)日本の社会保障制度の発達（国民皆年金） 11. 社会保障制度(7)日本の社会保障制度の発達（国民皆保険） 12. 社会保障制度(8)日本の社会保障制度の発達（国民皆年金、国民皆保険、その他） 13. 社会保障制度(9)現代社会における社会保障制度 14. 社会保障制度(10)日本の社会保障制度の発達（社会保障の現状と今後の展望①） 15. 社会保障制度(11)日本の社会保障制度の発達（社会保障の現状と今後の展望②） まとめと評価					
【準備学習】 ①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと ②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと ③授業後にノートや配布資料を整理すること					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「社会と制度の理解」中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト：60％ 2. 提出物・小テスト：30％ 3. 受講態度：10％ ＊期末テスト・小テストは返却時に講評する。 ＊提出物はコメントを記し返却する。		

授業科目名 社会の理解Ⅱ	授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者 平澤 泰子・岡田 圭祐	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・2単位	配当年次・時期 2年次・後期	必修・選択 選択
【授業の目的】 1 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。 2 介護実践に必要とされる観点から個人情報保護や成年後見制度などの諸制度の基礎的知識を習得する。 【授業全体の内容の概要】 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化に関して理解を深め、介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得するとともに、個人情報保護や成年後見制度等の諸制度についても理解を深める。 【授業終了時の到達目標】 1 介護保険制度や障害者総合支援法について、基礎的知識を習得する。 2 個人情報保護や成年後見制度などの諸制度の基礎的知識を習得する。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 【高齢者に関する制度】 1. 介護保険制度① 介護保険制度創設の背景及び目的 2. 介護保険制度② 介護保険制度の動向 3. 介護保険制度③ 介護保険制度のしくみの基礎的理解 4. 介護保険制度④ 介護保険制度における組織、団体の役割 5. 介護保険制度⑤ 介護保険制度における専門職の役割 6. 介護実践に関連する諸制度① 個人の権利を守る制度、生活保護制度 7. 介護実践に関連する諸制度② 介護と関連領域との連携、保健医療福祉に関する政策 8. まとめ・評価 【障害がある人に関する制度】 9. 障害者総合支援法① 障害者総合支援法創設の背景 10. 障害者総合支援法② 障害者総合支援法の目的 11. 障害者総合支援法③ 障害者総合支援法の仕組み：サービスの種類と体系 12. 障害者総合支援法④ 障害者総合支援法の仕組み：事業所と施設、専門職の役割 13. 障害者総合支援法⑤ 指定サービス事業所、国、都道府県、市町村の機能と役割 14. 介護実践に関する諸制度③ 個人の権利を守る制度、生活保護制度 15. 介護実践に関する諸制度④ 介護と関連領域との連携、保健医療福祉に関する政策 まとめ・評価			
【準備学習】 介護保険制度や障害者総合支援法、そして介護実践に関する諸制度について、教科書を熟読し内容を把握して授業に臨むことが必要である。また、これらの制度は改正、変化していくため、タイムリーな情報の収集が必要である。新聞や雑誌などで、多くの今日の情報を提供している。教科書の予習とともに、それらの情報を得てくることが望ましい。			
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「社会と制度の理解」中央法規	【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 (試験やレポートの評価基準など) 1. 期末テスト：60% 2. 提出物・小テスト：20% 3. 受講態度：20% * 期末テスト・小テストは返却時に講評する。 * 提出物はコメントを記し返却する。		

授業科目名 社会の理解Ⅱ		授業の種類 (<u>講義</u> ・演習・実習)		授業担当者 平澤 泰子・岡田 圭祐	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・後期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 1 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。 2 介護実践に必要とされる観点から個人情報保護や成年後見制度などの諸制度の基礎的知識を習得する。 【授業全体の内容の概要】 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化に関して理解を深め、介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得するとともに、個人情報保護や成年後見制度等の諸制度についても理解を深める。 【授業終了時の到達目標】 1 介護保険制度や障害者総合支援法について、基礎的知識を習得する。 2 個人情報保護や成年後見制度などの諸制度の基礎的知識を習得する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 【高齢者に関する制度】 1. 介護保険制度① 介護保険制度創設の背景及び目的 2. 介護保険制度② 介護保険制度の動向 3. 介護保険制度③ 介護保険制度のしくみの基礎的理解 4. 介護保険制度④ 介護保険制度における組織、団体の役割 5. 介護保険制度⑤ 介護保険制度における専門職の役割 6. 介護実践に関連する諸制度① 個人の権利を守る制度、生活保護制度 7. 介護実践に関連する諸制度② 介護と関連領域との連携、保健医療福祉に関する政策 8. まとめ・評価 【障害がある人に関する制度】 9. 障害者総合支援法① 障害者総合支援法創設の背景 10. 障害者総合支援法② 障害者総合支援法の目的 11. 障害者総合支援法③ 障害者総合支援法の仕組み：サービスの種類と体系 12. 障害者総合支援法④ 障害者総合支援法の仕組み：事業所と施設、専門職の役割 13. 障害者総合支援法⑤ 指定サービス事業所、国、都道府県、市町村の機能と役割 14. 介護実践に関する諸制度③ 個人の権利を守る制度、生活保護制度 15. 介護実践に関する諸制度④ 介護と関連領域との連携、保健医療福祉に関する政策 まとめ・評価					
【準備学習】 介護保険制度や障害者総合支援法、そして介護実践に関する諸制度について、教科書を熟読し内容を把握して授業に臨むことが必要である。また、これらの制度は改正、変化していくため、タイムリーな情報の収集が必要である。新聞や雑誌などで、多くの今日の情報を提供している。教科書の予習とともに、それらの情報を得てくることが望ましい。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「社会と制度の理解」中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 (試験やレポートの評価基準など) 1. 期末テスト：60% 2. 提出物・小テスト：20% 3. 受講態度：20% * 期末テスト・小テストは返却時に講評する。 * 提出物はコメントを記し返却する。		

介護福祉科目

(介護)

授業科目名 介護の基本Ⅰ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 福島 猛行	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 介護福祉士が成立した時代的背景を理解し、現代の社会問題としての介護の在り方を理解する。 介護を取り巻く社会背景や尊厳の保持・自立生活支援の新しい考え方を持った介護福祉士の役割を理解する。 【授業全体の内容の概要】 介護福祉士は多様、複雑、高度な介護問題に対応する専門職としての社会的役割を期待されている。まずは介護とは何か、介護を巡る目まぐるしい社会的背景を学び、介護福祉士の役割は何かを理解する。 【授業終了時の到達目標】 介護福祉士が成立した過程と、時代背景、介護に対する今日的な役割を理解する。 介護が必要な人を理解する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. オリエンテーション 2. 介護福祉士養成の教育課程 3. 介護を必要とする人の理解① 介護を必要とする人の生活 1 4. 介護を必要とする人の理解② 介護を必要とする人の生活 2 5. 介護を必要とする人の理解③ 高齢者の暮らし (核家族化・小家族化・家に対する意識の変化) 6. 介護を必要とする人の理解④ 高齢者の暮らし(生活の改善と生活文化の変化) 7. 介護を必要とする人の理解⑤ 介護を必要とする人の意識の変化 1 8. 介護を必要とする人の理解⑥ 介護を必要とする人の意識の変化 2 9. 介護福祉士を取り巻く現状① 介護福祉士制度誕生の背景 10. 介護福祉士を取り巻く現状② 介護福祉士制度と専門職への歩み 11. 介護問題の背景① 介護保険制度と自立生活支援 12. 介護問題の背景② 介護の目指すものの変化 13. 介護の概念(理念・サービスの利用者) 14. 介護福祉士の社会的役割 15. 介護の概念(方法・提供者の資質) 〈試験〉					
【準備学習】 テキストを中心に授業を進めるため、授業中に指定されたテキストを十分に読んでおくように。また、テキストの各章終了時にミニテストを実施するため、授業終了後に学習内容を復習しておくこと。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト： 「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 筆記試験及び授業態度により総合的に判断する。 1. 期末試験：60% 2. 課題提出・ミニテスト：20% 3. 受講態度：20% ※ミニテストはコメントを記して返却する。		

授業科目名 介護の基本Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 平澤 泰子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 ・援助関係形成のために、介護を必要とする人の生活の視点から生活課題を把握する能力を養う。介護サービスを利用している高齢者の個別の生活環境を理解し、利用している福祉サービスとその体系を学び、生活に根ざした制度活用の実態を理解する。また、介護福祉士と他の専門職とのチームアプローチの実践の理解をする。 【授業全体の内容の概要】 ・介護を必要とする人の理解、介護サービスの体系と課題、介護実践における連携、地域連携について理解を深める。 【授業終了時の到達目標】 ・介護を必要とする人の多様な生活の実態を理解することができる。 ・介護を必要とする人の生活の理解を踏まえ、介護サービスの種類と活用されている実態、課題を整理することができる。 ・介護福祉士と連携する専門職種を理解し、チームアプローチの実態を理解することができる。 ・地域連携について、インフォーマルサービスの機能と活用を理解することができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 介護を必要とする人の理解① 高齢者の暮らし（人間の多様性、様々な生活の理解） 2. 介護を必要とする人の理解② 高齢者の暮らし（就労、雇用、社会活動の実態） 3. 介護サービスの体系と課題① 介護サービスの概要（介護保険制度創設の背景及び目的） 4. 介護サービスの体系と課題② 介護サービスの概要（介護保険制度の動向） 5. 介護サービスの体系と課題③ 介護サービスの概要（介護保険制度のしくみの基礎的理解） 6. 介護サービスの体系と課題④ 介護サービスの概要（介護保険制度における組織、団体の役割） 7. 介護サービスの体系と課題⑤ 介護サービスの概要（介護保険サービスの種類と体系） 8. 介護サービスの体系と課題⑥ 介護サービスの概要（ケアプランとケアマネジメント） 9. 介護サービスの体系と課題⑦ 介護サービスの概要（高齢者在宅福祉サービスの種類と特徴） 10. 介護サービスの体系と課題⑧ 介護サービスの概要（高齢者在宅福祉サービスの現状と課題） 11. 介護サービスの体系と課題⑨ 介護サービス提供の場の特性（高齢者施設サービスの種類と特徴） 12. 介護サービスの体系と課題⑩ 介護サービス提供の場の特性（高齢者施設サービスの種類と特徴） 13. 介護実践における連携① 介護福祉士と連携する専門職 14. 介護実践における連携② 地域包括支援センターの機能と役割 15. 介護実践における連携③ 高齢者の暮らしとインフォーマルサービス まとめ					
【準備学習】 授業は皆さん（学生）が予習してくることを前提に進めるので、授業日までにテキストの該当箇所を読んで内容を把握するとともに、わからない専門用語等は辞典等で調べておくこと。					
【使用テキスト・参考文献】 「介護の基本Ⅰ」中央法規 「介護の基本Ⅱ」中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト：60% 2. 課題・小テスト：20% 3. 受講態度：20% 期末テストおよび小テストは返却時に講評を行う。課題はコメントを記して戻す。		

授業科目名 介護の基本Ⅲ	授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 福島 猛行・三井 拓	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・2単位	配当年次・時期 1年次・後期	必修・選択 必修
【授業の目的】 ・介護実践における他職種、他機関の役割を理解し、チームアプローチのための知識を理解する。 ・リハビリテーションの理念・方法を理解し、尊厳の保持・自律支援の観点から介護実践できる能力を養う。 【授業全体の内容の概要】 ・利用者に対するチームアプローチの中での、他職種、他機関の役割の理解を深める。 ・理学療法、作業療法、言語聴覚療法、日常生活活動訓練、自立生活（IL）運動などの実質的訓練内容の理解および障がいの3段階とその対応の理解。さらには、生活機能訓練についても理解を深める。 【授業終了時の到達目標】 ・チームアプローチの中での介護福祉士の役割を理解し、他職種連携の中での支援の在り方が解る。 ・リハビリテーションの関連他職種とのチームワークによって、身体的、精神的に障がいを持つ人に対する全人間的復権の一翼を担える介護職を目指す。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 【福島】 1～8回 1. 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ（社会福祉士・介護福祉士法） 2. 介護実践における連携① 連携をする専門職と連携の実態 3. 介護実践における連携② チームアプローチの意義と目的 4. 介護実践における連携③ 自治体の機能と地域連携の目的と意義 5. 介護実践における連携④ インフォーマルサービスの機能と活用の実態 6. ケアマネージャーとケアマネジメントの役割 7. 地域包括支援センターの機能と役割 8. まとめ 【三井】 9～15回 9. 自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程）① リハビリテーション過程 10. 自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程）② 個人特性の把握 11. 自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程）③ 日常生活活動（ADL）評価 12. 自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程）④ 職業評価 13. 自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程）⑤ 社会参加の実施 14. リハビリテーションと介護① 日常生活の自立支援及び社会生活能力の維持・拡大への援助 15. リハビリテーションと介護② リハビリテーション分野の専門職との連携（チームアプローチ） 〈試験〉			
【準備学習】 テキストを中心に授業を進めるため、授業中に指定されたテキストを十分に読んでおくように。また、テキストの各章終了時にミニテストを実施するため、授業終了後に学習内容を復習しておくこと。			
【使用テキスト・参考文献】 テキスト： 「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規 「リハビリテーション医学」 医学映像教育センター（ビデオ） 「在宅介護の基礎と実践」太田仁史監修（ビデオ）	【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 筆記試験及び授業態度により総合的に判断する。 1. 期末試験：80% 2. 課題提出・ミニテスト：10% 3. 受講態度：10% ※ミニテストはコメントを記して返却する。		

授業科目名 介護の基本Ⅳ		授業の種類 (講義)・演習・実習)		授業担当者 岡田 圭祐	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・後期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 援助関係形成のために、介護を必要とする人の生活の視点から生活課題を把握する能力を養う。 介護サービスを利用している障害者個々の生活環境を理解し、利用している福祉サービスとその体系を学び、生活に根ざした制度活用の実際を理解する。 【授業全体の内容の概要】 介護を必要とする人の理解、特に障害者に対するサービスの体系、現状と課題について理解を深める。 【授業終了時の到達目標】 1 介護を必要とする人(障害者)の多様な生活の実態を理解することができる。 2 介護を必要とする人(障害者)の生活の理解を踏まえ、サービスの種類について整理することができる。 3 介護を必要とする人(障害者)の生活の理解を踏まえ、サービスの活用実態と課題について整理することができる。 4 介護を必要とする人(障害者)の生活の理解を踏まえ、諸制度を活用し、実際の支援にあたることができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 介護を必要とする人の理解① 障害のある人の暮らし (障害のある人の生活ニーズと多様なくらしのあり方) 2. 介護を必要とする人の理解② 障害のある人の暮らし(生活を支える諸制度) 3. 障害者支援サービスの体系と課題① サービスの概要(支援費制度と障害者総合支援法) 4. 障害者支援サービスの体系と課題② サービスの概要(障害者総合支援法の目的と成立までの歩み) 5. 障害者支援サービスの体系と課題③ サービスの概要(障害者総合支援法の概要) 6. 障害者支援サービスの体系と課題④ サービスの概要(障害者総合支援法のサービスの種類と体系①) 7. 障害者支援サービスの体系と課題⑤ サービスの概要(障害者総合支援法のサービスの種類と体系②) 8. 障害者支援サービスの体系と課題⑥ サービスの概要(障害者総合支援法のサービスの種類と体系③) 9. 障害者支援サービスの体系と課題⑦ サービスの概要(ケアプランとケアマネジメント) 10. 障害者支援サービスの体系と課題⑧ サービス提供の場の特性(障害者支援サービスの基礎的理解) 11. 障害者支援サービスの体系と課題⑨ サービス提供の場の特性(障害者支援事業の種類と特徴) 12. 障害者支援サービスの体系と課題⑩ サービス提供の場の特性(障害者支援事業の現状と課題①) 13. 障害者支援サービスの体系と課題⑪ サービス提供の場の特性(障害者支援事業の現状と課題②) 14. 障害者支援サービスの体系と課題⑫ サービス提供の場の特性(公的扶助と障害者支援) 15. 障害者支援サービスの体系と課題⑬ サービス提供の場の特性(障害者支援の現状と課題) まとめと評価					
【準備学習】 ①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと ②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと ③授業後にノートや配布資料を整理すること					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「介護の基本Ⅰ」中央法規 「介護の基本Ⅱ」中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 (試験やレポートの評価基準など) 1. 期末テスト：60% 2. 提出物・小テスト：30% 3. 受講態度：10% *期末テスト・小テストは返却時に講評する。 *提出物はコメントを記し返却する。		

授業科目名 介護の基本Ⅴ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 鄭 春姫	
授業の回数 15回		時間数（単位数） 30時間・2単位		配当年次・時期 2年次・前期	
必修・選択 選択					
【授業の目的】 ・介護従事者として必要な倫理観を養う ・リスクマネジメント等、利用者の安全・安心に配慮した介護を実践する能力を養う 【授業全体の内容の概要】 ・介護従事者として必要な倫理観を学ぶ ・利用者の安全・安心に配慮した介護について理解する 【授業終了時の到達目標】 ・介護従事者として必要な倫理観を身に付ける ・利用者の安全・安心に配慮した介護を実践することができる					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. オリエンテーション 2. 介護従事者の倫理① 職業倫理（介護従事者の倫理・介護実施の場で求められる倫理） 3. 介護従事者の倫理② 利用者の人権と介護（児童虐待） 4. 介護従事者の倫理③ 利用者の人権と介護（障害者虐待） 5. 介護従事者の倫理④ 利用者の人権と介護（高齢者虐待） 6. 介護従事者の倫理⑤ 利用者の人権と介護（権利擁護） 7. 介護従事者の倫理⑥ プライバシーの保護（個人情報保護、その他） 8. まとめ 9. 介護における安全の確保とリスクマネジメント① 介護における安全の確保（観察・技術） 10. 介護における安全の確保とリスクマネジメント② 介護における安全の確保（予測・分析） 11. 介護における安全の確保とリスクマネジメント③ 事故防止、安全対策 (転倒・転落の防止・骨折予防等) 12. 介護における安全の確保とリスクマネジメント④ 事故防止、安全対策 (セーフティマネジメント) 13. 介護における安全の確保とリスクマネジメント⑤ 事故防止、安全対策 (防火・防災対策、緊急連絡システム等) 14. 介護における安全の確保とリスクマネジメント⑥ 事故防止、安全対策 (利用者の生活の安全) 15. まとめ 期末（前期）テスト					
【準備学習】 授業は皆さん（学生）が予習してくることを前提に進めるので、授業日までにテキストの該当箇所を読んで内容を把握するとともに、わからない専門用語等は辞典等で調べておくこと。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、介護の基本Ⅱ 第4版 中央法規 参考文献：授業時に提示する。			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 成績評価の方法・基準 ①定期試験：60% ②受講態度：20% ③小テスト・課題：20% 2. 課題・成績評価のフィードバック 課題・小テストは返却する。		

授業科目名 介護の基本Ⅵ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 福島 猛行	
授業の回数 15回		時間数（単位数） 30時間・2単位		配当年次・時期 2年次・後期	
				必修・選択 選択	
【授業の目的】 ・利用者の安全・安心に配慮した介護を実践する能力を養う ・労働安全等、介護従事者の健康に配慮した介護を実践する能力を養う 【授業全体の内容の概要】 ・利用者の安全・安心に配慮した介護について理解する ・自らの健康にも配慮した介護についても理解を深める 【授業終了時の到達目標】 ・利用者の安全・安心に配慮した介護を実践することができる ・介護従事者が自らの健康を管理し、介護を実践することができる					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 介護における感染管理のための方策①（感染予防の意義と介護） 2. 介護における感染管理のための方策②（感染予防の基礎知識） 3. 介護における感染管理のための方策③（感染予防の技術） 4. 介護における感染管理のための方策④（感染管理、衛生管理） 5. まとめ 6. 介護従事者の安全 介護従事者の身体の健康管理（腰痛予防と対策） 7. 介護従事者の安全 介護従事者の心の健康管理（ストレス） 8. 介護従事者の安全 介護従事者の心の健康管理（燃え尽き症候群、その他） 9. 介護従事者の安全 労働安全 10. まとめ 11. 利用者の権利擁護・プライバシーの保護に関する総合知識 12. 介護における安全確保、安全対策 13. 感染予防及び対策、衛生管理 14. 介護従事者の安全：心身の健康管理及び介護従事者にかかわる諸制度 15. まとめ 期末（後期）テスト					
【準備学習】 授業は皆さん（学生）が予習してくることを前提に進めるので、授業日までにテキストの該当箇所を読んで内容を把握するとともに、わからない専門用語等は辞典等で調べておくこと。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、介護の基本Ⅱ 第4版 中央法規 参考文献：授業時に提示する。			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 成績評価の方法・基準 ①定期試験：60% ②受講態度：20% ③小テスト・課題：20% 2. 課題・成績評価のフィードバック 課題・小テストは返却する。		

授業科目名		授業の種類		授業担当者	
介護の基本Ⅰ		(講義・演習・実習)		福島 猛行・三井 拓	
授業の回数		時間数(単位数)		配当年次・時期	
30回		60時間・4単位		1年次・通年	
				必修・選択	
				必修	
【授業の目的】					
①介護を取りまく社会背景や尊厳の保持・自立生活支援の新しい介護の考え方をもった介護福祉士の役割を理解する。					
②リハビリテーションの理念・方法を理解し、尊厳の保持・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う					
【授業全体の内容の概要】					
①介護福祉士は多様、複雑、高度な介護課題に対応する専門職としての社会的役割を期待されている。まずは介護とは何か、介護を巡る目まぐるしい社会的背景を学び介護福祉士の役割は何かを理解する。					
②理学療法・作業療法・言語聴覚療法。日常生活活動訓練・自立生活（IL）運動等の実質的訓練内容の理解および障がいの3段階とその対応の理解。さらには、生活機能訓練についても理解を深める。					
【授業終了時の到達目標】					
①介護福祉士が成立した過程と介護に対する今日的な役割を理解する。					
②リハビリテーションの関連他職種とのチームワークによって、身体的・精神的に障がいを持つ人に対する全人間的復権の一翼を担える介護職を目指す。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数					
1. オリエンテーション（介護とはどのようなものか）					
2. 介護福祉士養成教育課程					
3. 介護福祉を取りまく状況 ①日本の歴史における介護の変遷（中世～戦前）					
4. 介護福祉を取りまく状況 ②日本の歴史における介護の変遷（戦後～）					
5. 介護福祉を取りまく状況 ③社会福祉制度の中の介護の位置付け					
6. 介護福祉を取りまく状況 ④介護福祉士制度誕生の背景					
7. 介護問題の背景 ①家族関係の変化					
8. 介護問題の背景 ②介護保険制度と自立生活支援					
9. 介護問題の背景 ③尊厳のある生活とは					
10. 介護の概念 ①理念・サービスの利用者					
11. 介護の概念 ②方法					
12. 介護の概念 ③提供者の資質					
13. 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ					
14. これからの介護福祉士に求められること（グループワーク）					
15. これからの介護福祉士に求められること（発表）					
授業到達目標達成判定の筆記試験					
16. 尊厳を支える介護（リハビリテーションの理念と基本原則） ①事業の発展と現代社会におけるリハビリテーションの普及					
17. 尊厳を支える介護（リハビリテーションの理念と基本原則） ②リハビリテーションの概念及び基本					
18. 尊厳を支える介護（リハビリテーションの理念と基本原則） ③リハビリテーションにおける総合的サービス体系、リハビリテーション関連職種の役割					
19. 障害の過程とその影響 ①老化による機能障害					
20. 障害の過程とその影響 ②障がい者の身体障がい・知覚障がい・精神障がい・重複障がい					
21. 障害の過程とその影響 ③障がい児の発達心理					
22. 自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程） ①リハビリテーション過程					
23. 自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程） ②個人特性の把握					
24. 自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程） ③日常生活活動（ADL）評価					
25. 自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程） ④職業評価					
26. 自立に向けた介護（リハビリテーションの展開過程） ⑤社会参加の実施					
27. リハビリテーションと介護 ①日常生活の自立支援及び社会生活能力の維持・拡大への援助					
28. リハビリテーションと介護 ②リハビリテーション分野の専門職との連携（チームアプローチ）					
29. 事例研究 障がい形態別の事例					
30. 事例研究 障がい形態別の事例					
〈授業到達目標達成度判定の筆記試験（記述式）〉（注）障がい者には障がい児も含む					
【準備学習】					
テキストを中心に授業を進めるため、授業中に指定されたテキストを十分に読んでおくように。また、テキストの各章終了時にミニテストを実施するため、授業終了後に学習内容を復習しておくこと。					
【使用テキスト・参考文献】					
テキスト：					
「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規					
「リハビリテーション医学」					
医学映像教育センター（ビデオ）					
「在宅介護の基礎と実践」太田仁史監修（ビデオ）					
【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】					
筆記試験及び授業態度により総合的に判断する。					
1. 期末試験：80%					
2. 課題提出・ミニテスト：10%					
3. 受講態度：10%					
※ミニテストはコメントを記して返却する。					

授業科目名 介護の基本Ⅱ		授業の種類 (講義)・演習・実習)		授業担当者 平澤 泰子・岡田 圭祐	
授業の回数 30回		時間数(単位数) 60時間・4単位		配当年次・時期 1年次・通年	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 ・援助関係形成のために、介護を必要とする人の生活の視点から生活課題を把握する能力を養う。介護サービスを利用している高齢者や障害者の個別の生活環境を理解し、利用している福祉サービスとその体系を学び、生活に根ざした制度活用の実態を理解する。また、介護福祉士と他の専門職とのチームアプローチの実践の理解をする。					
【授業全体の内容の概要】 ・介護を必要とする人の理解、介護サービスの体系と課題、介護実践における連携、地域連携について講義する。					
【授業終了時の到達目標】 ・介護を必要とする人の多様な生活の実態を理解することができる。 ・介護を必要とする人の生活の理解を踏まえ、介護サービスの種類と活用されている実態、課題を整理することができる。 ・介護福祉士と連携する専門職種を理解し、チームアプローチの実態を理解することができる。 ・地域連携について、インフォーマルサービスの活用の実態、市町村、都道府県の機能と役割を理解することができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数 1. 介護を必要とする人の理解① 人間の多様性、様々な生活の理解 2. 介護を必要とする人の理解② 高齢者の暮らし（核家族化、小家族化、家に対する意識の変化） 3. 介護を必要とする人の理解③ 高齢者の暮らし（就労、雇用、社会活動の実態） 4. 介護を必要とする人の理解④ 障害のある人の暮らし（障害のある人の生活ニーズと多様なくらしのあり方） 5. 介護を必要とする人の理解⑤ 障害のある人の暮らし（生活を支える諸制度） 6. 介護を必要とする人の理解⑥ 介護を必要とする人の生活環境 7. 介護サービスの体系と課題① 介護サービスの概要（介護保険サービスの種類と体系） 8. 介護サービスの体系と課題② 介護サービスの概要（ケアプランとケアマネジメント） 9. 介護サービスの体系と課題③ 介護サービスの概要（介護保険利用の手続きと権利擁護） 10. 介護サービスの体系と課題④ 介護サービス提供の場の特性（高齢者在宅福祉サービスの種類と特徴） 11. 介護サービスの体系と課題⑤ 介護サービス提供の場の特性（高齢者在宅福祉サービスの現状と課題） 12. 介護サービスの体系と課題⑥ 介護サービス提供の場の特性（高齢者施設の種類の種類と特徴） 13. 介護サービスの体系と課題⑦ 介護サービス提供の場の特性（高齢者福祉サービスの現状） 14. 介護サービスの体系と課題⑧ 介護サービス提供の場の特性（高齢者福祉サービスの課題） 15. 介護サービスの体系と課題⑨ 介護サービスの概要（障害者総合支援法のサービスの種類と体系） 期末（前期）テスト 16. 介護サービスの体系と課題⑩ 介護サービス提供の場の特性（障害者在宅福祉サービスの種類と特徴） 17. 介護サービスの体系と課題⑪ 介護サービス提供の場の特性（障害者在宅福祉サービスの現状と課題） 18. 介護サービスの体系と課題⑫ 介護サービス提供の場の特性（障害者総合支援法と「施設」の現状と課題） 19. 介護実践における連携① 介護福祉士と連携をする専門職種 20. 介護実践における連携② チームアプローチの意義と目的 21. 介護実践における連携③ 介護福祉士と保健医療職種の連携の実際① 22. 介護実践における連携④ 介護福祉士と保健医療職種の連携の実際② 23. 介護実践における連携⑤ 介護福祉士とその他の関連職種との連携① 24. 介護実践における連携⑥ 介護福祉士とその他の関連職種との連携② 25. 地域連携の目的と意義 26. インフォーマルサービスの機能と活用の実際①（高齢者のくらしとインフォーマルサービス） 27. インフォーマルサービスの機能と活用の実際②（障害のある人のくらしとインフォーマルサービス） 28. 地域包括支援センターの機能と役割 29. 介護を必要とする人と市町村の機能と役割 30. 介護を必要とする人と都道府県の機能と役割 期末（後期）テスト					
【準備学習】 授業は皆さん（学生）が予習してくることを前提に進めるので、授業日までにテキストの該当箇所を読んで内容を把握するとともに、わからない専門用語等は辞典等で調べておくこと。					
【使用テキスト・参考文献】 「介護の基本Ⅰ」中央法規 「介護の基本Ⅱ」中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト：60％ 2. 課題・小テスト：20％ 3. 受講態度：20％ 期末テストおよび小テストは返却時に講評を行う。課題はコメントを記して戻す。		

授業科目名 介護の基本Ⅲ	授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者 福島 猛行・鄭 春姫	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間・4単位	配当年次・時期 2年次・通年	必修・選択 選択
【授業の目的】 ・介護従事者として必要な倫理観を養う。 ・リスクマネジメント等、利用者の安全・安心に配慮した介護を実践する能力を養う。 ・利用者の安全・安心に配慮した介護を実践する能力を養う。 ・労働安全等、介護従事者の健康に配慮した介護を実践する能力を養う。 【授業全体の内容の概要】 ・利用者の安全・安心に配慮した介護について理解する。 ・自らの健康にも配慮した介護についても理解を深める。 【授業終了時の到達目標】 ・介護従事者として必要な倫理観を身に付ける。 ・利用者の安全・安心に配慮した介護を実践することができる。 ・介護従事者が自らの健康を管理し、介護を実践することができる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. オリエンテーション 2. 介護従事者の倫理① 職業倫理（介護従事者の倫理・介護実施の場で求められる倫理） 3. 介護従事者の倫理② 利用者の人権と介護（児童虐待） 4. 介護従事者の倫理③ 利用者の人権と介護（障害者虐待） 5. 介護従事者の倫理④ 利用者の人権と介護（高齢者虐待） 6. 介護従事者の倫理⑤ 利用者の人権と介護（権利擁護） 7. 介護従事者の倫理⑥ プライバシーの保護（個人情報保護、その他） 8. まとめ 9. 介護における安全の確保とリスクマネジメント① 介護における安全の確保（観察・技術） 10. 介護における安全の確保とリスクマネジメント② 介護における安全の確保（予測・分析） 11. 介護における安全の確保とリスクマネジメント③ 事故防止、安全対策（転倒・転落の防止・骨折予防等） 12. 介護における安全の確保とリスクマネジメント④ 事故防止、安全対策（セーフティマネジメント） 13. 介護における安全の確保とリスクマネジメント⑤ 事故防止、安全対策（防火・防災対策、緊急連絡システム等） 14. 介護における安全の確保とリスクマネジメント⑥ 事故防止、安全対策（利用者の生活の安全） 15. まとめ - 前期 期末（後期）テスト 16. 介護における感染管理のための方策①（感染予防の意義と介護） 17. 介護における感染管理のための方策②（感染予防の基礎知識） 18. 介護における感染管理のための方策③（感染予防の技術） 19. 介護における感染管理のための方策④（感染管理、衛生管理） 20. まとめ 21. 介護従事者の安全・介護従事者の身体健康管理（腰痛予防と対策） 22. 介護従事者の安全・介護従事者の心の健康管理（ストレス） 23. 介護従事者の安全・介護従事者の心の健康管理（燃え尽き症候群、その他） 24. 介護従事者の安全・労働安全 25. まとめ 26. 利用者の人権と介護 27. 利用者の権利擁護・プライバシーの保護に関する総合知識 28. 介護における安全確保、安全対策 29. 感染予防及び対策、衛生管理 30. 介護従事者の安全：心身の健康管理及び介護従事者にかかわる諸制度 - 期末（後期）テスト			
【準備学習】 授業は皆さん（学生）が<u>予習してくることを前提に進める</u>ので、授業日までにテキストの該当箇所を読んで内容を把握するとともに、わからない専門用語等は辞典等で調べておくこと。			
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、介護の基本Ⅱ 第4版 中央法規 参考文献：授業時に提示する。	【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 成績評価の方法・基準 ①定期試験：60% ②受講態度：20% ③小テスト・課題：20% 2. 課題・成績評価のフィードバック 課題・小テストは返却する。		

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅰ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 岡田 圭祐	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と、自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。					
【授業全体の内容の概要】 介護関係の形成のために介護におけるコミュニケーションの基礎からそれぞれの利用者の状況・状態に沿ったコミュニケーション技術を学び、チームでの支援のあり方を理解する力を養う。					
【授業終了時の到達目標】 チーム内におけるコミュニケーションを円滑に行うために、記録、報告、会議などを情報共有の手段として活用できる能力を習得する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 〔Ⅰ〕介護におけるコミュニケーションの基本 1. 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 2. 利用者・家族との関係づくり 〔Ⅱ〕介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実践 3. 話を聴く方法 利用者の感情表現を察する技法（気づき・洞察力など） 4. 納得と同意を得る技法―相談・助言・指導― 5. 意欲を引き出す技法 6. 利用者本人と家族の意向を図る技法 7. 介護におけるコミュニケーションの基本と実際（まとめ） 〔Ⅲ〕利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実践 8. 視覚障害の人とのコミュニケーション① 9. 視覚障害の人とのコミュニケーション② 10. 聴覚障害の人とのコミュニケーション① 11. 聴覚障害の人とのコミュニケーション② 12. 運動機能障害のある人とのコミュニケーション① 13. 運動機能障害のある人とのコミュニケーション② 14. 認知・知覚機能障害のある人とのコミュニケーション① 15. 認知・知覚機能障害のある人とのコミュニケーション② まとめと評価					
【準備学習】 ①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと ②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと ③授業後にノートや配布資料を整理すること ④オムニバス形式の授業となる 各教員の授業終了後に小テストを実施するので復習を欠かさないこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「コミュニケーション技術」中央法規 参考文献：「コミュニケーション技術」建帛社			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト・小テスト：80% 2. 提出物：10% 3. 受講態度：10% * 期末テスト・小テストは返却時に講評する。 * 提出物はコメントを記し返却する。		

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 平澤 泰子・宮田 明	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 1年次・後期	
必修・選択 必修					
【授業の目的】 人間としての尊厳を保持し、個々のコミュニケーション障害への対応方法を学ぶこと。また介護場面におけるチームケアの基礎となる能力を身につける。					
【授業全体の内容の概要】 介護関係を構築するために介護におけるそれぞれの利用者の状況・状態に沿ったコミュニケーション技術を学び、チームでの支援のあり方を理解する力を養う。					
【授業終了時の到達目標】 チーム内におけるコミュニケーションを円滑に行うために、記録、報告、会議などを情報共有の手段として活用できる能力を習得する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数 〔Ⅰ〕 1. 知的障害のある人とのコミュニケーション① 2. 知的障害のある人とのコミュニケーション② 3. 精神障害のある人とのコミュニケーション① 4. 精神障害のある人とのコミュニケーション② 5. まとめ 〔Ⅱ〕介護におけるチームのコミュニケーション 6. 記録による情報の共有化① 介護における記録の意義と目的 7. 記録による情報の共有化② 介護に関する記録の種類 8. 記録による情報の共有化③ 介護記録の方法と留意点・記録の管理 9. 記録による情報の共有化④ 介護記録の共有化 10. 記録による情報の共有化⑤ 情報通信技術（IT）を活用した介護記録の意義と活用の留意点・個人情報保護 11. 記録による情報の共有化⑥ 介護記録の活用 12. 報告による情報の共有化 介護における報告の意義と目的（報告・連絡・相談の方法と留意点） 13. 会議による情報の共有化① 介護における会議の意義と目的 14. 会議による情報の共有化② 介護における会議の種類と方法・留意点 15. まとめ 総合評価 試験					
【準備学習】 ①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと ②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと ③授業後にノートや配布資料を整理すること ④オムニバス形式の授業となる 各教員の授業終了後にテストを実施するので復習を欠かさないこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「コミュニケーション技術」中央法規 参考文献：「コミュニケーション技術」建帛社			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 (試験やレポートの評価基準など) 1. 期末テスト・小テスト：80％ 2. 提出物・受講態度：20％ ＊期末テスト・小テストは返却時に講評する。 ＊提出物はコメントを記し返却する。		

授業科目名 コミュニケーション技術		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 平澤泰子・岡田圭祐・宮田明	
授業の回数 30回		時間数 (単位数) 60時間・2 単位		配当年次・時期 1 年次・通年	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と、自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。					
【授業全体の内容の概要】 介護関係の形成のために介護におけるコミュニケーションの基礎からそれぞれの利用者の状況・状態に沿ったコミュニケーション技術を学び、チームでの支援のあり方を理解する力を養う。					
【授業終了時の到達目標】 チーム内におけるコミュニケーションを円滑に行うために、記録、報告、会議などを情報共有の手段として活用できる能力を習得する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数					
【Ⅰ】介護におけるコミュニケーションの基本 1. 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 2. 利用者・家族との関係づくり 【Ⅱ】介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際 3. 話を聴く方法 利用者の感情表現を察する技法(気づき・洞察力など) 4. 納得と同意を得る技法 ―相談・助言・指導― 5. 意欲を引き出す技法 6. 利用者本人と家族の意向を図る技法 7. まとめ 【Ⅲ】利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 8. 視覚障害の人とのコミュニケーション① 9. 視覚障害の人とのコミュニケーション② 10. 聴覚障害の人とのコミュニケーション① 11. 聴覚障害の人とのコミュニケーション② 12. 運動機能障害のある人とのコミュニケーション① 13. 運動機能障害のある人とのコミュニケーション② 14. 認知・知覚機能障害のある人とのコミュニケーション① 15. 認知・知覚機能障害のある人とのコミュニケーション② 中間評価 試験・レポート等 16. 知的障害のある人とのコミュニケーション① 17. 知的障害のある人とのコミュニケーション② 18. 精神障害のある人とのコミュニケーション① 19. 精神障害のある人とのコミュニケーション② 20. まとめ 【Ⅳ】介護におけるチームのコミュニケーション 21. 記録による情報の共有化① 介護における記録の意義と目的 22. 記録による情報の共有化② 介護に関する記録の種類 23. 記録による情報の共有化③ 介護記録の方法と留意点・記録の管理 24. 記録による情報の共有化④ 介護記録の共有化 25. 記録による情報の共有化⑤ 情報通信技術 (IT) を活用した介護記録の意義と活用 の留意点・個人情報保護 26. 記録による情報の共有化⑥ 介護記録の活用 27. 報告による情報の共有化 介護における報告の意義と目的 (報告・連絡・相談の方法と留意点) 28. 会議による情報の共有化① 介護における会議の意義と目的 29. 会議による情報の共有化② 介護における会議の種類と 方法・留意点 30. まとめ 総合評価 試験					
【準備学習】 ①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと ②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと ③授業後にノートや配布資料を整理すること ④オムニバス形式の授業となる 各教員の授業終了後に小テストを実施するので復習を欠かさないこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「コミュニケーション技術」中央法規 参考文献：「コミュニケーション技術」建帛社			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト・小テスト：80％ 2. 提出物：10％ 3. 受講態度：10％ ＊期末テスト・小テストは返却時に講評する。 ＊提出物はコメントを記し返却する。		

授業科目名 生活支援技術Ⅰ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫	
授業の回数 30回		時間数(単位数) 60時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 介護を必要とする利用者に対し、その尊厳の保持の観点から、その人にとっての自立・自律につながる潜在能力を生かした移動の支援のあり方と、具体的な支援方法を学ぶ。また、健康を維持し、快適な生活につながる食事支援のあり方と、具体的な支援方法を学ぶ。					
【授業全体の内容の概要】 ①人が生活を送るうえで基本となる「移動」について、その意義と目的を理解する。また、人の身体の自然な動きを理解し、それを支援するためのアセスメントや基礎的な介護技術を、グループワークを中心に学習する。 ②生命を維持するために必要な「食事」について、その意義と目的を理解する。また、健康を維持し、生活に楽しみや潤いを与える食事について理解し、それを支援するためのアセスメントや基礎的な介護技術を、グループワークを中心に学習する。					
【授業終了時の到達目標】 ①利用者の状態に応じた移動の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。 ②利用者の状態に応じた食事の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 〔Ⅰ〕自立に向けた移動の介護 1. 生活の理解と生活支援：生活の定義、生活形成のプロセス、生活経営について説明 2. 高齢者の心身の特徴：高齢者の心身の特徴について説明と高齢者疑似体験 3. 生活支援と環境整備①：寝室の環境整備とベッドメイキングについての説明と演習 4. 生活支援と環境整備②：感染症予防と手洗いについての説明と演習 5. 移動の意義と目的：移動と廃用症候群について説明 6. ICFの視点に基づく移動のアセスメント：移動を支援するためのアセスメントの視点の説明 7. 移動の介護とボディメカニクス：ボディメカニクスの説明と演習 8. 自立に向けた移動の介護①：座位と立位の重要性についての説明 9. 自立に向けた移動の介護②：端座位から立位への介助方法の説明と演習 10. 自立に向けた移動の介護③：歩行の介助（杖歩行）方法の説明と演習 11. 自立に向けた移動の介護④：車いすの種類と選び方の説明 12. 自立に向けた移動の介護⑤：車いすへの移乗方法についての説明と演習 13. 自立に向けた移動の介護⑥：車いすの操作方法についての説明と演習 14. 自立に向けた移動の介護⑦：第7回～13回授業のまとめ 15. ベッド上での移動の介護：体位変換、水平移動、上方移動、ストレッチャーの使用方法的説明と演習 16. 運動機能が低下している人への移動の介護：対麻痺、四肢麻痺がある場合の移動の方法の説明と演習 17. 感覚機能が低下している人への移動の介護：視覚障害者への歩行介助の説明と演習 18. 認知・知覚機能が低下している人への移動の介護：認知症等がある人への移動介護の留意点の説明 19. 移動の介護における多職種との連携：他職種の役割と協働について説明 20. 移動の介護まとめ：第5回～第19回授業のまとめ 〔Ⅱ〕自立に向けた食事の介護 21. 食事の意義と目的：食事の意義と目的について説明 22. 食事に関連したからだのしくみと食事に影響を及ぼす要因：食のメカニズムについての説明 23. ICFの視点に基づく食事のアセスメント：食事を支援するためのアセスメントの視点の説明 24. 美味しく食べることを支える介護方法：食事の環境整備と献立、自助具、介助方法の説明と演習 25. 自立に向けた食事の介護①：運動機能が低下している人への介護方法の説明と演習 26. 自立に向けた食事の介護②：感覚機能が低下している人への介護方法の説明と演習 27. 自立に向けた食事の介護③：認知・知覚機能が低下している人への介護方法の説明と演習 28. 誤嚥・窒息・脱水を予防するための介護方法：誤嚥・窒息・脱水についての説明と予防方法の説明 29. 食事の介護における多職種との連携：他職種の役割と協働について説明 30. 食事の介護まとめ 定期試験、提出課題（ワークシート、レポート等）					
【準備学習】 ①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること ②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること ③授業中に実施した演習内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ第3版（中央法規） 参考文献： ①井藤英樹、高橋龍太郎、是枝祥子監修、写真でわかる生活支援技術（インターメディアカ） ②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14こころからだのしくみ第3版（中央法規）			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験等：60％ 2. 提出物（ワークシート、レポート等）：20％ 3. 受講態度：20％ ＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。 ＊提出課題は、授業中に返却または講評する。		

授業科目名 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 嶋田美津江・青柳佳子・林雅美	
授業の回数 30回		時間数(単位数) 60時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 介護を必要としている利用者の尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律につながる潜在能力を活かし、身じたくへの支援や、プライバシーの保護に基づく状況に応じた排泄への適切な介護によって、健康を維持し、快適な生活が出来るための技術を学ぶ。					
【授業全体の内容の概要】 ①身じたくの意義・目的や効果について理解し、利用者の状態に応じた身じたくの技術を演習のなかで理解し、アセスメントや介護技術、他の領域の知識と連動させ、適切に提供できるよう、グループワークを中心に学ぶ。 ②利用者の心身状態へのアセスメントに基づき、自立・自律した生活への支援につながるような快適な排泄介護の工夫や支援のあり方についてグループワークを中心に学ぶ。					
【授業終了時の到達目標】 ①基本となる技術・知識を活用し、利用者の状態に応じた身じたくの介護についてアセスメントし、必要な介護内容を組み立て、実施できる。 ②基本となる技術・知識を活用し、利用者の状態に応じた排泄の介護についてアセスメントし、必要な介護内容を組み立て、実施できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 身じたくの意義と目的 2. ICFの視点に基づく身じたくのアセスメント 3. 生活習慣と装いの楽しみを支える介護の方法 4. 運動機能が低下している人への介護方法①(座位での着替えの介助) 5. 運動機能が低下している人への介護方法②(臥位での着替えの介助：洋服) 6. 運動機能が低下している人への介護方法③(臥位での着替えの介助：寝衣) 7. 整容の介護①(洗面、整髪、髭、爪、化粧など) 8. 整容の介護②(軟膏の塗布、点眼など) 9. 口腔ケアの意義と目的 10. 口腔ケアの方法(歯みがき、義歯洗浄など) 11. 感覚機能が低下している人への身じたくの介護 12. 認知・知覚機能が低下している人への身じたくの介護 13. 排泄の意義と目的 14. 排泄のメカニズムとICFの視点に基づく排泄のアセスメント 15. 排泄の場の環境づくり 16. 身体状況に応じた排泄用具 17. トイレでの排泄介護の方法 18. ポータブルトイレでの排泄介護の方法 19. 床上での排泄介護の方法①(尿器・差し込み便器①) 20. 床上での排泄介護の方法②(尿器・差し込み便器②) 21. 床上での排泄介護の方法③(紙おむつ) 22. 床上での排泄介護の方法④(布おむつ) 23. 感覚機能・運動機能・認知・知覚機能が低下している人への介助の留意点 24. 便秘、下痢の予防のための日常生活の留意点 25. 排泄回数が多い人、失禁時の介護の留意点 26. まとめ(身じたくの介護・排せつの介護) 27. 実技試験 28. 実技試験 29. 前期授業内容の振り返り① 30. 前期授業内容の振り返り② 評価・試験・レポート等					
【準備学習】 ①授業の前にテキストの該当部分を読んでくること ②授業の前に前回のノートや配布資料を読み返して くること ③授業の後に課題に沿ったワークシートの提出をすること ④授業の後に実施した演習内容に ついて振り返りの演習を行うこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第3版 中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 ①試験 60% ②提出物(ワークシート・レポート等) 20% ③受講態度 20% *試験終了後に講評・解説をする。 *ワークシート・レポート等は評価し返却する。 *演習への積極的な参加や発表状況を評価する。		

授業科目名 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 正宗 三枝	
授業の回数 15回		時間数 (単位数) 30時間・1 単位		配当年次・時期 1 年次・後期	
必修・選択 必修					
【授業の目的】 自立に向けた家事の介護を学ぶ。家事の介助に関する知識、技術を学び、利用者の個性に対応できる能力を習得する。 【授業全体の内容の概要】 家事介助を必要とする人の生活を重視し、個性を尊重した援助を行なうために、さまざまな家事介助の技法を、演習を通じて習得していく。 【授業終了時の到達目標】 ・「生活」、「生活形成のプロセス」、「生活経営」(マネジメント)、「生活支援の考え方」を理解する。 ・家事介助の意義及び目的を理解できる。 ・ICFの視点に基づく家事介助の必要性を理解する。 ・家事の介助の技法を習得する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 〔Ⅰ〕生活の理解と生活支援 1. 生活の理解と生活支援 ―生活の定義・生活形成のプロセス・生活経営について― 2. 生活支援の考え方 ―ICFの視点に基づくアセスメント他― 〔Ⅱ〕自立に向けた家事の介護 3. 家事の意義と目的 4. 家事に関する利用者のアセスメント ―家事への意欲を引き出す家事の工夫― 5. 洗濯／衣類・寝具の衛生管理 6. 掃除／ごみ捨て 7. 家計の管理／買い物 8. 調理の基本1 9. 調理の基本2 10. 加工食品の活用と保存 11. 配食サービスの利用について 12. 感覚機能が低下している人への調理の介護 13. 運動機能が低下している人への調理の介護 14. 認知・知覚機能が低下している人への調理の介護 15. まとめ 定期試験					
【準備学習】 ・テキストの該当部分を読んでくること。 ・ノートや配布資料を整理しておくこと。 ・日常生活においても家事をきちんとこなす姿勢で生活すること。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「生活支援技術Ⅰ」中央法規 参考文献：「お料理一年生」ベターホーム出版局			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末試験：60% 2. 課題提出：30% (レポートの講評を行い返却する) 3. 受講態度：10%		

授業科目名 生活支援技術Ⅳ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 福島 猛行									
授業の回数 15回		時間数（単位数） 30時間・1単位		配当年次・時期 1年次・後期									
				必修・選択 必修									
【授業の目的】 「尊厳の保持」「自立・自律支援」の視点から、介護を必要としている人に適切な介護技術を用いて、安全かつ潜在的な力を引き出す支援技術や知識について修得することを目的とする。 【授業全体の内容の概要】 利用者の生活史・文化史を通じて、利用者の生きてきた生活環境、社会参加、余暇活動などの支援の論理と技術を理解する。 【授業終了時の到達目標】 利用者の心身と生活の活性化となるアクティビティの意義と目的を理解したうえで、利用者の尊厳を保持し、利用者と同じステージに立てる支援技術（利用者理解・コミュニケーション能力・身体介護技術）を身に付け、利用者を理解した生活支援ができる。 【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. アクティビティの意義と目的 2. 生活支援としてのアクティビティ 3. 生活史、文化史の背景Ⅰ（利用者の生活文化：戦時中の生活文化） 4. 生活史、文化史の背景Ⅱ（利用者の生活文化：戦後復興期の生活文化） 5. 生活史、文化史の背景Ⅲ（利用者の生活文化：高度経済成長期の生活文化） 6. アクティビティ・サービス計画の基本的考え方 7. アクティビティ・プログラム計画上の留意点 8. アクティビティ・プログラムの実践Ⅰ（前期高齢者のアクティビティ） 9. アクティビティ・プログラムの実践Ⅱ（後期高齢者のアクティビティ） 10. アクティビティ・プログラムの実践Ⅲ（身体障害者のアクティビティ） 11. アクティビティ・プログラムの実践Ⅳ（QOLの低下した利用者のアクティビティ） 12. アクティビティ・プログラムの実践Ⅴ（終末期の利用者とアクティビティ） 13. アクティビティ・プログラムの演習 14. アクティビティ・プログラムの講評 15. アクティビティ・ワークの目指すもの 〈試験〉 【準備学習】 ・演習では、各グループごとに話し合い、事前準備を行うこと。 ・高齢者や障がい者の生活について、新聞やTVなどのメディアで取り上げられる内容について、常に興味を持って生活すること。 <table><tr><td>【使用テキスト・参考文献】</td><td>【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】</td></tr><tr><td>テキスト： 『アクティビティ・サービス』中央法規</td><td>1. 期末試験：60％</td></tr><tr><td>参考文献： 授業時間内に参考文献を紹介する。</td><td>2. 受講態度：20％</td></tr><tr><td></td><td>3. 課題提出：20％</td></tr></table>						【使用テキスト・参考文献】	【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】	テキスト： 『アクティビティ・サービス』中央法規	1. 期末試験：60％	参考文献： 授業時間内に参考文献を紹介する。	2. 受講態度：20％		3. 課題提出：20％
【使用テキスト・参考文献】	【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】												
テキスト： 『アクティビティ・サービス』中央法規	1. 期末試験：60％												
参考文献： 授業時間内に参考文献を紹介する。	2. 受講態度：20％												
	3. 課題提出：20％												

授業科目名 生活支援技術Ⅴ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫	
授業の回数 30回		時間数 (単位数) 60時間・2単位		配当年次・時期 1年次・後期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 介護を必要とする利用者に対し、その尊厳の保持の観点から、その人にとっての入浴の楽しみや、快適な生活を送るための入浴・保清の支援のあり方と、具体的な支援方法を学ぶ。また、健康を維持し、生活の質を高める睡眠支援のあり方と、具体的な支援方法を学ぶ。					
【授業全体の内容の概要】 ①「入浴」の意義や目的について理解するとともに、入浴が心身に与える影響を踏まえた上で、入浴・保清を支援するためのアセスメントや基礎的な介護技術を、グループワークを中心に学習する。 ②生命を維持するために必要な「睡眠」について、その意義と目的を理解する。また、健康を維持し、質の高い睡眠をとるために必要な支援方法を、グループワークを中心に学習する。					
【授業終了時の到達目標】 ①利用者の状態に応じた入浴・保清の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。 ②利用者の状態に応じた睡眠の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数 Ⅰ 自立に向けた入浴の介護 1. 生活支援技術Ⅰ・Ⅱの振り返り①：移動の介護、食事の介護の復習 2. 生活支援技術Ⅰ・Ⅱの振り返り②：身じたくの介護、排泄の介護の復習 3. 入浴の意義と目的、ICFの視点に基づく入浴・清潔のアセスメント：入浴の意義と目的、アセスメントの説明 4. バイタルサインと測定方法：バイタルサインについての説明と、測定方法の説明と演習 5. 爽快感・安楽を支える入浴介護の工夫：浴室の環境整備、入浴用具、介護方法についての説明 6. 温度や室温の管理：ヒートショックについての説明、湯の温度の変化についての説明と演習 7. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護①：片麻痺がある場合の一般浴での介護方法の説明と演習 8. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護②：シャワー浴での介護方法の説明と演習 9. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護③：機械浴での介護方法の説明と演習 10. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護④：身体の洗い方、洗髪の方法についての説明と演習 11. 入浴ができない場合の介護①：全身清拭、部分清拭の説明と演習 12. 入浴ができない場合の介護②：陰部洗浄の説明と演習 13. 入浴ができない場合の介護③：手浴の説明と演習 14. 入浴ができない場合の介護④：足浴の説明と演習 15. 入浴ができない場合の介護⑤：ドライシャンプーの説明と演習 16. 入浴ができない場合の介護⑥：ベッド上での洗髪の説明と演習 17. 感覚機能・運動機能・認知・知覚機能が低下している人の介護の留意点：介護の際の留意点について説明 18. 入浴・清潔介護のまとめ：第1回～第17回授業のまとめ Ⅱ 自立に向けた睡眠の介護 19. 睡眠の意義と目的、ICFの視点に基づく睡眠のアセスメント：睡眠の意義と目的、アセスメントの説明 20. 安眠のための介護の工夫①：寝室の環境整備について説明 21. 寝具の種類と特徴：寝具の種類と特徴について説明 22. 利用者が臥床している状態でのベッドメイキング：臥床している状態でのベッドメイキングの方法の説明と演習 23. 体位変換と安楽な体位の保持①：褥瘡の説明とその予防についての説明 24. 体位変換と安楽な体位の保持②：ポジショニングについての説明と演習 25. 安眠のための介護の工夫②：冷罎法の説明と演習 26. 安眠のための介護の工夫③：温罎法の説明と演習 27. 感覚機能・運動機能が低下している人への睡眠の介護：感覚機能・運動機能が低下している人への介護の留意点 28. 認知・知覚機能が低下している人への睡眠の介護：認知・知覚機能が低下している人への介護の留意点 29. 不眠時の対応：不眠の種類と特徴、対応方法の説明 30. 睡眠の介護のまとめ：第19回～第29回授業のまとめ 定期試験、提出課題（ワークシート、レポート等）					
【準備学習】 ①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること ②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること ③授業中に実施した演習内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ第3版（中央法規） 参考文献： ①井藤英樹、高橋龍太郎、是枝祥子監修、写真でわかる生活支援技術（インターメディアカ） ②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14こころからだのしくみ第3版（中央法規）			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験等：60％ 2. 提出物（ワークシート、レポート等）：20％ 3. 受講態度：20％ ＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。 ＊提出課題は、授業中に返却または講評する。		

授業科目名 生活支援技術Ⅵ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 平澤 泰子・林 雅美	
授業の回数 30回		時間数 (単位数) 60時間・2単位		配当年次・時期 2年次・前期	
				必修・選択 選択	
【授業の目的】 介護を必要とする利用者に対し、その尊厳の保持の観点から、居住環境の工夫や整備により、自立・自律を目指した介護のあり方や技法を学ぶ。また、利用者の生命・生活の質を最優先した終末期介護のあり方と、その支援方法について学ぶ。					
【授業全体の内容の概要】 ①利用者の生活史や価値観、現状のアセスメントに基づき、自立・自律した生活への支援につながるような、快適な生活環境整備の工夫と支援のあり方についてグループワークを中心に学ぶ。 ②終末期における心身状況を理解し、利用者や家族の生命・生活の質を最優先した終末期介護のあり方と介護福祉士の役割について、グループワークを中心に学ぶ。					
【授業終了時の到達目標】 ①利用者の自立支援のための住環境整備について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。 ②利用者の状態に応じた終末期の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 〔Ⅰ〕自立に向けた居住環境の整備 1. 居住環境整備の意義と目的：居住環境整備の意義と目的について説明 2. 生活空間と介護：住まいと生活の場への理解について説明 3. ICFの視点に基づく居住環境整備のアセスメント：居住環境整備のアセスメントについて説明 4. 安全で心地よい生活の場づくりの工夫：安全で心地よい生活の場づくりについての説明と演習 5. 住宅改修：住宅改修について説明 6. 施設で暮らす場合の居住環境への理解と工夫：施設で生活する利用者の居住環境整備について説明 7. バリアフリー化・ユニバーサルデザインなどの活用① 8. バリアフリー化・ユニバーサルデザインなどの活用② 9. 生活支援と福祉用具の活用：スライディングシートやボード、リフトなどの説明と演習 10. 居住環境整備のまとめ：第1回～第9回授業のまとめ 〔Ⅱ〕終末期の介護 11. 終末期介護の意義と目的：終末期介護の意義と介護職の役割について説明 12. 終末期における尊厳の保持と事前意思確認：本人の意思を尊重した終末期介護のあり方について説明 13. 終末期における心身の変化：終末期における心身の変化について説明 14. ICFの視点に基づく終末期のアセスメント①：終末期のアセスメントについて説明 15. ICFの視点に基づく終末期のアセスメント②：事例に基づいたアセスメントの演習 16. 薬の働きと服薬の介助：薬の種類とその働きについて説明、服薬介助の演習 17. 緊急時の対応①：骨折、熱傷などを起こしたときの応急手当てについての説明と演習 18. 緊急時の対応②：心肺蘇生法とAED操作法について説明と演習 19. 臨終時の介護①：エンゼルケアについて説明 20. 臨終時の介護②：エンゼルケアについて演習 21. 看取りのための制度：看取りのための制度について説明 22. 医療との連携：終末期ケアにおける多職種連携について説明 23. 家族ケア：グリーフケアについて説明 24. 施設における終末期介護の実践：施設利用者の事例に基づいて、終末期介護の実践を説明 25. 在宅における終末期介護の実践：在宅利用者の事例に基づいて、終末期介護の実践を説明 26. 終末期介護のまとめ：第11回～第24回授業のまとめ 27. 生活支援技術Ⅰ～Ⅵまとめ①：国試対策模擬試験の実施 28. 生活支援技術Ⅰ～Ⅵまとめ②：実技試験の実施 29. 生活支援技術Ⅰ～Ⅵまとめ③：国試対策模擬試験の解答と解説 30. 生活支援技術Ⅰ～Ⅵまとめ④：実技試験の解答と解説 定期試験、実技試験、課題提出（ワークシート、レポート等）					
【準備学習】 ①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること ②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること ③授業中に実施した演習内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ（中央法規） 参考文献： ①介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座6生活支援技術Ⅰ（中央法規） ②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14こころとからだのしくみ（中央法規）			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験等：60％ 2. 提出物（ワークシート、レポート等）：20％ 3. 受講態度：20％ 試験等は返却時に講評を行う。提出物はコメントを記して戻す。		

授業科目名	授業の種類	授業担当者	
生活支援技術Ⅰ	(講義・演習・実習)	正宗 三枝	
授業の回数	時間数 (単位数)	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修
【授業の目的】 自立に向けた家事の介護を学ぶ。家事の介助に関する知識、技術を学び、利用者の個性に対応できる能力を習得する。 【授業全体の内容の概要】 家事介助を必要とする人の生活を重視し、個性を尊重した援助を行なうために、さまざまな家事介助の技法を、演習を通じて習得していく。 【授業終了時の到達目標】 ・「生活」、「生活形成のプロセス」、「生活経営」(マネジメント)、「生活支援の考え方」を理解する。 ・家事介助の意義及び目的を理解できる。 ・ICFの視点に基づく家事介助の必要性を理解する。 ・家事の介助の技法を習得する。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 〔Ⅰ〕生活の理解と生活支援 1．生活の理解と生活支援 ―生活の定義・生活形成のプロセス・生活経営について― 2．生活支援の考え方 ―ICFの視点に基づくアセスメント他― 〔Ⅱ〕自立に向けた家事の介護 3．家事の意義と目的 4．家事に関する利用者のアセスメント ―家事への意欲を引き出す家事の工夫― 5．洗濯／衣類・寝具の衛生管理 6．掃除／ごみ捨て 7．家計の管理／買い物 8．調理の基本1 9．調理の基本2 10．加工食品の活用と保存 11．配食サービスの利用について 12．感覚機能が低下している人への調理の介護 13．運動機能が低下している人への調理の介護 14．認知・知覚機能が低下している人への調理の介護 15．まとめ 定期試験			
【準備学習】 ・テキストの該当部分を読んでくること。 ・ノートや配布資料を整理しておくこと。 ・日常生活においても家事をきちんとこなす姿勢で生活すること。			
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「生活支援技術Ⅰ」中央法規 参考文献：「お料理一年生」ベターホーム出版局		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1．期末試験：60% 2．課題提出：30% (レポートの講評を行い返却する) 3．受講態度：10%	

授業科目名 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 福島 猛行	
授業の回数 15回		時間数 (単位数) 30時間・1 単位		配当年次・時期 1 年次・後期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 「尊厳の保持」「自立・自律支援」の視点から、介護を必要としている人に適切な介護技術を用いて、安全かつ潜在能力を引き出す支援技術や知識について習得することを目的とする。					
【授業全体の内容の概要】 「自立に向けた移動の介護」を重点課題とし、利用者の生活史・文化史を通して、利用者の生きてきた生活環境、社会参加、余暇活動等の支援の理論と技術を理解させる。					
【授業終了時の到達目標】 利用者の心身と生活の活性化となる「移動」の意義と目的を理解した上で、利用者の尊厳を保持し、利用者と同一ステージに立てるコミュニケーション能力を身につけ、利用者を理解した生活支援ができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 「生活支援技術Ⅱ」に関するオリエンテーション 2. 高齢者の「自立」と「移動」の理解 3. 高齢者を活性化させることの理解 4. 生活の快さとは「安全で的確な移動・移乗の介助から」 5. 日常生活支援の基本はコミュニケーション・ワーク 6. 日常生活支援を支えるアクティビティ・サービス 7. アクティビティ・サービスの側面 8. アクティビティ・サービスの効果 9. 高齢者の尊厳を支える援助者の資質 10. 高齢者の権利の保障と援助者自身の気づき 11. 日常生活支援の体系と他職種との協働 12. 日常生活支援のための専門職・仕事の内容 13. 日常生活支援のための人間理解・感覚機能低下の人 14. 日常生活支援のための人間理解・運動機能低下の人 15. 日常生活支援のための人間理解・認知・知覚機能低下の人 試験等					
【準備学習】 ・演習では、各グループごとに話し合い、事前準備を行うこと。 ・高齢者や障がい者の生活について、新聞やTVなどのメディアで取り上げられる内容について、常に興味を持って生活すること。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト： 『アクティビティ・サービス』中央法規 参考文献： 授業時間内に参考文献を紹介する。			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末試験：60％ 2. 受講態度：20％ 3. 課題提出：20％		

授業科目名 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫・林雅美	
授業の回数 30回		時間数(単位数) 60時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 介護の利用者の尊厳の保持の観点から、その人にとっての自立・自律につながる潜在能力を生かした身じたくへの支援のあり方や食事の楽しみ、適切な介護によって、健康を維持し、快適な生活ができるための技術を学ぶ。					
【授業全体の内容の概要】 ①身じたくの意義や効果について理解し、事例展開による利用者の状態に応じた身じたくの技術を演習のなかで理解し、アセスメントや介護技術、他の領域の知識と連動させ、適切に提供できるようグループワークを中心に学ぶ。 ②利用者の食文化や現状へのアセスメントに基づき、自立・自律した生活への支援につながるような快適な食事介護の工夫や支援のあり方についてグループワークを中心に学ぶ。					
【授業終了時の到達目標】 ①利用者の状態に応じた身じたくの介護についてアセスメントし、適切な技法を活用して支援することが出来る。 ②利用者の状態に応じた食事の介護についてアセスメントし、適切な技法を活用して支援することが出来る。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 〔Ⅰ〕自立に向けた身じたくの介護 1. 身じたくの意義と目的① 2. 身じたくの意義と目的② 3. ICFの視点にもとづく身じたくに関する利用者のアセスメント① 4. ICFの視点にもとづく身じたくに関する利用者のアセスメント② 5. 生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫① 6. 生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫② 7. 感覚機能が低下している人の整容や更衣、衣服の選択などの行為を支える介護の技法① 8. 感覚機能が低下している人の整容や更衣、衣服の選択などの行為を支える介護の技法② 9. 運動機能が低下している人の整容や更衣、衣服の選択などの行為を支える介護の技法① 10. 運動機能が低下している人の整容や更衣、衣服の選択などの行為を支える介護の技法② 11. 運動機能が低下している人の整容や更衣、衣服の選択などの行為を支える介護の技法③ 12. 運動機能が低下している人の整容や更衣、衣服の選択などの行為を支える介護の技法④ 13. 認知機能が低下している人の整容や更衣、衣服の選択などの行為を支える介護の技法① 14. 認知機能が低下している人の整容や更衣、衣服の選択などの行為を支える介護の技法② 15. まとめ（自立に向けた身じたくの介護） 評価・試験・レポート等 〔Ⅱ〕自立に向けた食事の介護 16. 食事の意義と目的 17. ICFの視点にもとづく、食事に関する利用者のアセスメント 18. おいしく食べることが支える介護の工夫 19. 安全で的確な食事介助の技法 誤嚥・窒息の予防のための留意点① 20. 安全で的確な食事介助の技法 誤嚥・窒息の予防のための留意点② 21. 安全で的確な食事介助の技法 脱水の予防のための留意点① 22. 安全で的確な食事介助の技法 脱水の予防のための留意点② 23. 安全で的確な食事介助の技法 口腔の清潔① 24. 安全で的確な食事介助の技法 口腔の清潔② 25. 感覚機能が低下している人の食事介助の留意点① 26. 感覚機能が低下している人の食事介助の留意点② 27. 運動機能が低下している人の食事介助の留意点① 28. 運動機能が低下している人の食事介助の留意点② 29. 認知機能が低下している人の食事介助の留意点 30. まとめ（自立に向けた食事の介護） 評価・試験・レポート等					
【準備学習】 ①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること ②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること ③授業中に実施した演習内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ第3版（中央法規） 参考文献： ①井藤英樹、高橋龍太郎、是枝祥子監修、写真でわかる生活支援技術（インターメディアカ） ②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14こころからだのしくみ第3版（中央法規）			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験等：60％ 2. 提出物（ワークシート、レポート等）：20％ 3. 受講態度：20％ ＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。 ＊提出課題は、授業中に返却または講評する。		

授業科目名 生活支援技術Ⅳ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫・林雅美	
授業の回数 30回		時間数 (単位数) 60時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 介護の利用者の尊厳の保持の観点から、その人にとっての自立・自律につながる潜在能力を生かした移動への支援のあり方やプライバシーの保護や状況に応じた排泄への適切な介護によって、健康を維持し、快適な生活ができるための技術を学ぶ。					
【授業全体の内容の概要】 ①生活における移動の意義や目的について理解し、事例展開による利用者の状態に応じた移動の技術を演習のなかで理解し、アセスメントや介護技術、他の領域の知識と連動させ、適切に提供できるようグループワークを中心に学ぶ。 ②利用者の心身の状態へのアセスメントに基づき、自立・自律した生活への支援につながるような快適な排泄介護の工夫や支援のあり方についてグループワークを中心に学ぶ。					
【授業終了時の到達目標】 ①利用者の状態に応じた移動の介護についてアセスメントし、適切な技法を活用して支援することが出来る。 ②利用者の状態に応じた排泄の介護についてアセスメントし、適切な技法を活用して支援することが出来る。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 〔Ⅰ〕自立に向けた移動の介護 1. 移動の意義と目的① 2. 移動の意義と目的② 3. ICFの視点にもとづく、移動に関する利用者のアセスメント① 4. ICFの視点にもとづく、移動に関する利用者のアセスメント② 5. 安全で的確な移動・移乗の介助 座位・立位・歩行の介助① 6. 安全で的確な移動・移乗の介助 座位・立位・歩行の介助② 7. 安全で的確な移動・移乗の介助 車椅子の介助① 8. 安全で的確な移動・移乗の介助 車椅子の介助② 9. 安全で的確な移動・移乗の介助 車椅子の介助③ 10. 体位変換・安楽な体位の保持 11. 感覚機能が低下している人の移動・移乗介助の留意点 12. 認知機能が低下している人の移動・移乗介助の留意点 13. 運動機能が低下している人の移動・移乗介助の留意点① 14. 運動機能が低下している人の移動・移乗介助の留意点② 15. まとめ (自立に向けた移動の介護) 評価・試験・レポート等 〔Ⅱ〕自立に向けた排泄の介護 16. 排泄の意義と目的 17. ICFの視点にもとづく、排泄に関する利用者のアセスメント① 18. ICFの視点にもとづく、排泄に関する利用者のアセスメント② 19. 気持ちよい排泄を支える介護の工夫 20. 安全で的確な排泄介助の技法 便秘・下痢の予防と介護の留意点 21. 安全で的確な排泄介助の技法 頻尿の人への介護の留意点 22. 感覚機能が低下している人の排泄介助の留意点 トイレ介助・ポータブルトイレ介助 23. 運動機能が低下している人の排泄介助の留意点 採尿器・差込便器の介助 24. 運動機能が低下している人の排泄介助の留意点 車椅子トイレ介助 25. 運動機能が低下している人の排泄介助の留意点 失禁時の介助 26. 運動機能が低下している人の排泄介助の留意点 オムツ介助 27. 認知機能が低下している人の排泄介助の留意点 失禁時の介助 28. 認知機能が低下している人の排泄介助の留意点 トイレ誘導 29. 認知機能が低下している人の排泄介助の留意点 おむつ介助 30. まとめ (自立に向けた排泄の介護) 評価・試験・レポート等					
【準備学習】 ①授業の前にテキストの該当部分を読んでくること ②授業の前に前回のノートや配布資料を読み返して くること ③授業の後に課題に沿ったワークシートの提出をすること ④授業の後に実施した演習内容に ついて振り返りの演習を行うこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第3版 中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 ①試験 60% ②提出物 (ワークシート・レポート等) 20% ③受講態度 20% ＊試験終了後に講評・解説をする。 ＊ワークシート・レポート等は評価し返却する。 ＊演習への積極的な参加や発表状況を評価する。		

授業科目名 生活支援技術Ⅴ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 平澤 泰子・林 雅美			
授業の回数 30回		時間数(単位数) 60時間・2単位		配当年次・時期 2年次・前期		必修・選択 選択	
【授業の目的】 介護の利用者への尊厳の保持の観点から、その人にとっての入浴の楽しみや、保清による快適な生活支援を学ぶ。 利用者の生活文化や現状を理解し、居住環境の工夫や整備により自立、自律を目指した介護のあり方や技法を学ぶ。							
【授業全体の内容の概要】 ①入浴の意義や効果について理解し、事例展開による利用者の状態に応じた入浴や保清の技術を演習のなかで理解し、アセスメントや介護技術、他の領域の知識と連動させ、適切に提供できるようグループワークを中心に学ぶ。 ②利用者の生活史や価値観、現状のアセスメントに基づき、自立・自律した生活への支援につながるような快適な生活環境整備への工夫と支援のあり方についてグループワークを中心に学ぶ。							
【授業終了時の到達目標】 ①利用者の状態に応じた入浴・保清の介護を通して入浴の楽しみや快適な生活を支援することが出来る。 ②利用者の自立支援のための住環境の整備への理解と適切な支援方法についてアセスメントに基づき計画作成できる。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 〔Ⅰ〕自立に向けた入浴・清潔保持の介護 1. 入浴の意義と目的① 2. 入浴の意義と目的② 3. ICFの視点にもとづく、入浴に関する利用者のアセスメント① 4. ICFの視点にもとづく、入浴に関する利用者のアセスメント② 5. 入浴を楽しむ環境の工夫 6. 爽快感をもたらし、安楽に入浴するための介護の工夫 7. 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 入浴・シャワー浴・洗髪① 8. 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 入浴・シャワー浴・洗髪② 9. 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 全身清拭・陰部洗浄・足浴・手浴① 10. 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 全身清拭・陰部洗浄・足浴・手浴② 11. 感覚機能が低下している人の入浴介助の留意点① 12. 感覚機能が低下している人の入浴介助の留意点② 13. 運動機能が低下している人の入浴介助の留意点① 14. 運動機能が低下している人の入浴介助の留意点② 15. 認知機能が低下している人の入浴介助の留意点 16. まとめ（自立に向けた入浴・清潔保持の介護） 評価・試験・レポート等 〔Ⅱ〕自立に向けた居住環境の整備 17. 居住環境整備の意義と目的① 18. 居住環境整備の意義と目的② 19. 生活空間と介護 利用者の生活の歴史や文化を尊重した住まいと生活の場への理解① 20. 生活空間と介護 利用者の生活の歴史や文化を尊重した住まいと生活の場への理解② 21. 居住環境のアセスメント ICFの視点に基づく利用者の生活全体へのアセスメント① 22. 居住環境のアセスメント ICFの視点に基づく利用者の生活全体へのアセスメント② 23. 安全で心地よい生活の場づくり 安全で心地よい生活の場づくりの工夫① 24. 安全で心地よい生活の場づくり 安全で心地よい生活の場づくりの工夫② 25. 安全で心地よい生活の場づくり 住宅改修 26. 安全で心地よい生活の場づくり バリアフリー化・ユニバーサルデザインなどの活用① 27. 安全で心地よい生活の場づくり バリアフリー化・ユニバーサルデザインなどの活用② 28. 集合で暮らす場合の居住環境について 施設で暮らす場合の居住環境への理解と工夫 29. 生活支援と福祉用具の活用① 30. 生活支援と福祉用具の活用② 評価・試験・レポート等							
【準備学習】 ①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること ②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること ③授業中に実施した演習内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと							
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座Ⅶ生活支援技術Ⅱ（中央法規） 参考文献： ①介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座Ⅵ生活支援技術Ⅰ（中央法規） ②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座Ⅽ生活支援技術Ⅲ（中央法規）				【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験等：60％ 2. 提出物（ワークシート、レポート等）：20％ 3. 受講態度：20％ 試験等は返却時に講評を行う。提出物はコメントを記して戻す。			

授業科目名 生活支援技術Ⅵ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 嶋田美津江・青柳佳子・鄭春姫	
授業の回数 30回		時間数 (単位数) 60時間・2単位		配当年次・時期 2年次・後期	
				必修・選択 選択	
【授業の目的】 健康を維持し、生活の質を高める睡眠支援のあり方と、具体的な支援方法を学ぶ。また、利用者の生命・生活の質を最優先した終末期介護のあり方と、その支援方法について学ぶ。					
【授業全体の内容の概要】 ①生命を維持するために必要な「睡眠」について、その意義と目的を理解する。また、健康を維持し、質の高い睡眠をとるために必要な支援方法を、グループワークを中心に学習する。 ②終末期における心身状況を理解し、利用者や家族の生命・生活の質を最優先した終末期介護のあり方と介護福祉士の役割について、グループワークを中心に学ぶ。					
【授業終了時の到達目標】 ①利用者の状態に応じた睡眠の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。 ②利用者の状態に応じた終末期の介護について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 〔Ⅰ〕自立に向けた睡眠の介護 1. 睡眠の意義と目的・ICFの視点に基づく睡眠のアセスメント：睡眠の意義と目的、アセスメントの説明 2. 安眠のための介護の工夫①：寝室の環境整備について説明 3. 寝具の種類と特徴：寝具の種類と特徴について説明 4. 利用者が臥床している状態でのベッドメイキング：臥床している状態でのベッドメイキングの方法の説明と演習 5. 体位変換と安楽な体位の保持①：褥瘡の説明とその予防についての説明 6. 体位変換と安楽な体位の保持②：ポジショニングについての説明と演習 7. 安眠のための介護の工夫②：冷電法の説明と演習 8. 安眠のための介護の工夫③：温電法の説明と演習 9. 感覚機能・運動機能が低下している人への睡眠の介護：感覚機能・運動機能が低下している人への介護の留意点 10. 認知・知覚機能が低下している人への睡眠の介護：認知・知覚機能が低下している人への介護の留意点 11. 不眠時の対応：不眠の種類と特徴、対応方法の説明 〔Ⅱ〕終末期の介護 12. 終末期介護の意義と目的：終末期介護の意義と介護職の役割について説明 13. 終末期における尊厳の保持と事前意思確認：本人の意思を尊重した終末期介護のあり方について説明 14. 終末期における心身の変化：終末期における心身の変化について説明 15. ICFの視点に基づく終末期のアセスメント①：終末期のアセスメントについて説明 16. ICFの視点に基づく終末期のアセスメント②：事例に基づいたアセスメントの演習 17. 薬の働きと服薬の介助：薬の種類とその働きについて説明、服薬介助の演習 18. 緊急時の対応①：骨折、熱傷などを起こしたときの応急手当てについての説明と演習 19. 緊急時の対応②：心肺蘇生法とAED操作法について説明と演習 20. 臨終時の介護①：エンゼルケアについて説明 21. 臨終時の介護②：エンゼルケアについて演習 22. 看取りのための制度：看取りのための制度について説明 23. 医療との連携：終末期ケアにおける多職種連携について説明 24. 家族ケア：グリーフケアについて説明 25. 施設における終末期介護の実践：施設利用者の事例に基づいて、終末期介護の実践を説明 26. 在宅における終末期介護の実践：在宅利用者の事例に基づいて、終末期介護の実践を説明 27. 事例に基づいた睡眠の介護①：グループワーク発表 28. 事例に基づいた睡眠の介護②：グループワーク発表 29. 睡眠の介護まとめ：第1回～第11回、第27回、28回授業のまとめ 30. 終末期介護のまとめ：第12回～第26回授業のまとめ 定期試験、提出課題（ワークシート、レポート等）					
【準備学習】 ①授業の前に、テキストの該当部分を読んでくること ②配布資料は整理し、授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること ③授業中に実施した演習内容について、振り返りの演習を自主的に行うこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅵ第3版（中央法規） 参考文献： ①井藤英樹、高橋龍太郎、是枝祥子監修、写真でわかる生活支援技術（インターメディアカ） ②介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座14こころからだのしくみ第3版（中央法規）			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験等：60％ 2. 提出物（ワークシート、レポート等）：20％ 3. 受講態度：20％ ＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。 ＊提出課題は、授業中に返却または講評する。		

授業科目名 介護過程Ⅰ（意義と展開）		授業の種類 （講義・演習・実習）		授業担当者 平澤 泰子	
授業の回数 15回		時間数（単位数） 30時間・2 単位		配当年次・時期 1 年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 介護福祉士は、介護を必要としている人の人生や日常生活に関わるが、育った環境や生活習慣は人それぞれ異なる。つまり介護福祉士は、単に利用者の日常生活を支援するのみでなく、個別性のある「その人らしい」「より良い生活」「より良い人生」を支援していく必要がある。介護過程とは、この個別性のある介護を提供するために必要な思考過程のことを指す。 介護過程Ⅰでは、介護過程を構成する「アセスメント」、「計画の立案」、「実施」、「評価」について学習し、介護を提供するうえで、なぜ介護過程を展開する必要があるのか、その意義と目的を理解する。 【授業全体の内容の概要】 講義を中心に、介護過程の意義や目的、構成要素について説明していく。また、事例をもとに実際に介護過程を展開しながら、介護過程の構成要素の具体的内容について学習する。 【授業終了時の到達目標】 ①介護過程とは何かを説明することができる。 ②介護過程の構成要素とその具体的内容について説明できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 介護過程とは何か・介護過程の意義と目的：介護過程とは何か、その意義と目的について説明 2. 介護サービス計画と介護過程：介護サービス計画とは何か、介護過程との関連について説明 3. 介護過程の構成要素：介護過程の構成要素について、その概要を説明 4. アセスメントとは何か：アセスメントの要素（情報収集、課題分析、生活課題の明確化）について説明 5. 情報収集の目的と方法：情報収集の目的と方法について説明 6. ICF の構成要素と情報収集：ICF の構成要素と、ICF に基づいた情報収集の方法について説明 7. 課題分析とは何か①：情報の解釈、関連づけ、統合化について説明 8. 課題分析とは何か②：情報の解釈、関連づけ、統合化について説明 9. 課題とは何か①：生活課題の明確化について説明 10. 課題とは何か②：生活課題の明確化について説明 11. 介護計画とは何か①：目標の設定について説明 12. 介護計画とは何か②：計画の立案について説明 13. 実施の意義と実施時の留意点：計画を実施する意味と、実施時の留意点について説明 14. 評価とは何か：評価の意義と手順について説明 15. まとめ：第1回～14回授業のまとめ 定期試験・課題提出					
【準備学習】 ①事前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 ②授業で配布したプリントを整理するとともに、次回授業までに再度目を通し、前回授業を復習しておくこと。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座 9 介護過程第3 版（中央法規） 参考文献：介護福祉教育研究会、改訂第2 版楽しく学ぶ介護過程（久美出版）			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験等：60% 2. 提出物：20% 3. 受講態度：20% ＊ミニテストや試験は、実施後解答を示す。 ＊提出課題は、授業中に講評する。		

授業科目名 介護過程 I (意義と展開)		授業の種類 (講義)・演習・実習		授業担当者 平澤 泰子	
授業の回数 15回		時間数 (単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 介護サービスの提供を受ける人・場によらずあらゆる介護場面に活用できるように生活支援行為の本質に即した目標志向的なアプローチによる介護の方法を学ぶ。 【授業全体の内容の概要】 一人ひとりの利用者の事例をとおして利用者とのコミュニケーションから介護実践まで及び実践後の振り返りのプロセスを検討することで一人ひとりの利用者の生活を統合して理解し、介護実践に生かす考え方を学ぶ。 【授業終了時の到達目標】 介護の展開がサイエンスとヒューマンティのプロセスであることを理解できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 介護過程の意義 2. 介護過程の目的 3. 介護が社会的に制度化するために必要なサイエンスとヒューマンティ 4. 介護概念と介護過程の関係 5. 介護過程の展開 (事例をとおしてイメージ) 6. 介護過程の前提としてのニーズを見る視点 7. 相談から始まり相談に終わる介護過程 8. アセスメントの仕組み ①アセスメントとは何か 9. アセスメントの仕組み ②アセスメントの方法 10. ICF の介護過程への活用 11. 介護計画の立案 ①介護計画の仕組み 12. 介護計画の立案 ②介護の理念価値をめざす介護計画の実践価値 13. 介護過程の実施の意義と実施時の留意点 14. 介護過程の評価と修正 ①評価の意義と評価の手順 ②評価の記録の書き方 15. 介護過程とチームアプローチ まとめと評価					
【準備学習】 ①事前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 ②授業で配布したプリントを整理するとともに、次回授業までに再度目を通し、前回授業を復習しておくこと。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座 9 介護過程第 3 版 (中央法規) 参考文献：介護福祉教育研究会、改訂第 2 版楽しく学ぶ介護過程 (久美出版)			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験等：60% 2. 提出物：20% 3. 受講態度：20% * ミニテストや試験は、実施後解答を示す。 * 提出課題は、授業中に講評する。		

授業科目名 介護過程Ⅱ（実践的展開Ⅰ）		授業の種類 （ 講義・演習・実習 ）		授業担当者 嶋田美津江							
授業の回数 15回		時間数（単位数） 30時間・1単位		配当年次・時期 1年次・後期							
				必修・選択 必修							
【授業の目的】 介護過程の意義や展開の思考過程の学習を基礎とし、自立支援の理念に基づき、利用者の意思や主体性を尊重した適切な介護の提供が実際の生活場面で出来るよう、他の科目で学習した知識・技術を統合し、介護過程を展開、介護計画の作成が出来るようにする。 【授業全体の内容の概要】 加齢による心身機能低下や、障害などからの介護の必要性のある事例に基づき授業を展開、実習の学びや現場の臨床例なども交え、実践力を養えるよう、ワークシートの作成やグループワークなどによる授業展開とする。 【授業終了時の到達目標】 ・介護過程の思考過程を用いた展開をすることによって、介護計画の作成が出来る。 ・介護計画の作成を通して、利用者の状況に応じた適切な介護の提供が出来ることを理解する事が出来る。											
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 介護過程の意義と目的（介護過程Ⅰ復習） 2. 介護過程の構成要素と展開①（介護過程Ⅰ復習：情報収集と課題分析） 3. 介護過程の構成要素と展開②（介護過程Ⅰ復習：生活課題と介護計画） 4. 介護過程の構成要素と展開③（介護過程Ⅰ復習：実施と評価） 5. 介護過程の展開①（事例に基づく介護過程の展開：情報収集と課題分析） 6. 介護過程の展開②（事例に基づく介護過程の展開：課題分析と生活課題） 7. 介護過程の展開③（事例に基づく介護過程の展開：生活課題と計画の立案） 8. 介護過程の展開④（事例に基づく介護過程の展開：計画の立案～評価） 9. まとめ（事例に対する介護過程の展開例の説明） 10. 介護過程の実践的展開①（事例に基づく介護過程の展開：情報収集と課題分析：グループワーク） 11. 介護過程の実践的展開②（事例に基づく介護過程の展開：課題分析と生活課題：グループワーク） 12. 介護過程の実践的展開③（事例に基づく介護過程の展開：生活課題と計画の立案：グループワーク） 13. 介護過程の実践的展開④（事例に基づく介護過程の展開：計画の立案～評価：グループワーク） 14. グループワーク発表 15. まとめ 評価・試験・レポート等											
【準備学習】 ①授業の前に、介護過程Ⅰの学びを振り返り、配布資料・作成ノート等を読んでおくこと ②授業の前に、前回のノートや配布資料を読み返してくること ③アセスメント等に活用出来るよう、必要に応じて関連の専門科目の知識を調べる等の自己学習をしておくこと											
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：新・介護福祉士養成テキスト 第3版 介護過程 中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 <table><tr><td>1. 試験・レポート等</td><td>60%</td></tr><tr><td>2. 提出物</td><td>20%</td></tr><tr><td>3. 受講態度</td><td>20%</td></tr></table> * 試験・レポート等は、実施後確認評価し、返却する。			1. 試験・レポート等	60%	2. 提出物	20%	3. 受講態度	20%
1. 試験・レポート等	60%										
2. 提出物	20%										
3. 受講態度	20%										

授業科目名 介護過程Ⅱ（実践的展開Ⅰ）		授業の種類 （ 講義・演習・実習 ）		授業担当者 嶋田美津江			
授業の回数 15回		時間数（単位数） 30時間・1単位		配当年次・時期 1年次・後期			
				必修・選択 必修			
【授業の目的】 介護過程の意義や展開の思考過程の学習を基礎とし、実際の生活場面での利用者の状況に応じた適切な介護の提供が出来るよう、他の科目で学習した知識・技術を統合し、介護過程を展開、介護計画の作成が出来るようにする。							
【授業全体の内容の概要】 加齢による心身機能低下や運動機能低下からの介護の必要性のある事例に基づき授業を行う。独居の方への支援や家族への支援を含め、生活環境など、複数の視点によるアセスメントが出来る力を養うよう、ワークシートの作成やグループワークなどによる授業展開。							
【授業終了時の到達目標】 介護過程の展開、介護計画作成において、自立支援の理念に基づき、利用者の意思や主体性を尊重した適切な介護の支援への理解が出来る。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】							
コマ数 介護過程の実践的展開 〔Ⅰ〕加齢による心身機能の低下があり、在宅で独居で暮らしている人への介護過程の展開と介護計画作成 1. 1 事例の理解（信頼関係の形成） 2. 2 アセスメント（情報の収集・解釈・分析） 3. 3 ケースカンファレンス 4. 4 介護過程とケアプラン（居宅介護サービス計画） 5. 5 実施・記録（ロールプレイ） 6. 6 評価（サービス担当者会議：ロールプレイ） 7. 7 まとめ（グループワーク・発表） 〔Ⅱ〕在宅で暮らしている運動機能障害のある高齢者世帯の利用者への介護過程の展開と介護計画作成 8. 1 事例の理解（信頼関係の形成） 9. 2 アセスメント（情報の収集・解釈・分析） 10. 3 ケースカンファレンス 11. 4 介護過程とケアプラン（居宅介護サービス計画） 12. 5 実施・記録（ロールプレイ） 13. 6 評価（サービス担当者会議：ロールプレイ） 14. 7 まとめ（グループワーク・発表） 15. まとめ（〔Ⅰ〕の事例、〔Ⅱ〕の事例） 評価 試験、レポート等							
【準備学習】 ①授業の前に、介護過程Ⅰの学びを振り返り、配布資料・作成ノート等を読んでおくこと ②授業の前に、前回のノートや配布資料を読み返してくる こと ③アセスメント等に活用出来るよう、必要に応じて関連の専門科目の知識を調べる等の自己学習をしておくこと							
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：新・介護福祉士養成テキスト 第3版 介護過程 中央法規				【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験・レポート等 60％ 2. 提出物 20％ 3. 受講態度 20％ ＊試験・レポート等は、実施後確認評価し、返却する。			

授業科目名 介護過程Ⅲ（実践的展開Ⅱ）		授業の種類 （ 講義・演習・実習 ）		授業担当者 青柳 佳子	
授業の回数 15回		時間数（単位数） 30時間・1単位		配当年次・時期 2年次・前期	
				必修・選択 選択	
【授業の目的】 介護過程の意義や展開の思考過程の学習を基礎とし、実際の生活場面での利用者の状況に応じた適切な介護の提供ができるよう、他の科目で学習した知識・技術を統合し、実践的な介護過程の展開方法を身につける。 【授業全体の内容の概要】 高齢者、障害者の事例をもとに授業を行う。実習の学びや介護現場の臨床例などから実践力を養えるよう、ワークシートの作成やグループワークなどにより授業を展開していく。 【授業終了時の到達目標】 ①尊厳の保持、自立支援の理念に基づき、利用者の意思や主体性を尊重した介護過程を展開できる。 ②他科目で学習した知識・技術を統合し、利用者の状態に適した介護方法を判断し、その根拠を説明することができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 介護過程の意義と目的：介護過程ⅠおよびⅡの復習 2. 高齢者施設とケアマネジメント：ケアマネジメントについての説明と、実習中の介護過程の展開について説明 3. 介護過程の構成要素と展開①：情報収集、課題分析、生活課題についての説明 4. 介護過程の構成要素と展開②：介護計画、実施、評価について説明 5. 介護過程の実践的展開①：施設で生活する高齢者の事例に基づく介護過程の展開（情報収集、課題分析） 6. 介護過程の実践的展開②：施設で生活する高齢者の事例に基づく介護過程の展開（課題分析、生活課題） 7. 介護過程の実践的展開③：施設で生活する高齢者の事例に基づく介護過程の展開（生活課題、計画の立案） 8. 介護過程の実践的展開④：施設で生活する高齢者の事例に基づく介護過程の展開（計画の立案、実施、評価） 9. 介護過程の実践的展開⑤：事例に対する介護過程の展開例の説明とまとめ 10. 障害者支援施設と障害ケアマネジメント：障害ケアマネジメントについての説明 11. 介護過程の実践的展開⑥：施設で生活する障害者の事例に基づく介護過程の展開（情報収集、課題分析） 12. 介護過程の実践的展開⑦：施設で生活する障害者の事例に基づく介護過程の展開（課題分析、生活課題） 13. 介護過程の実践的展開⑧：施設で生活する障害者の事例に基づく介護過程の展開（生活課題、計画の立案） 14. 介護過程の実践的展開⑨：施設で生活する障害者の事例に基づく介護過程の展開（計画の立案、実施、評価） 15. 介護過程の実践的展開⑩：事例に対する介護過程の展開例の説明とまとめ 定期試験・課題提出					
【準備学習】 ①事前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 ②授業で配布したプリントを整理するとともに、次回授業までに再度目を通し、前回授業を復習しておくこと。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座9 介護過程第3版（中央法規） 参考文献：森繁樹、事例で読み解く介護過程の展開（中央法規）			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験等：60% 2. 提出物：20% 3. 受講態度：20% *ミニテストや試験は、実施後解答を示す。 *提出課題は、授業中に返却または講評する。		

授業科目名 介護過程Ⅲ(実践的展開Ⅱ)		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 青柳 佳子			
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 2年次・前期			
				必修・選択 選択			
【授業の目的】 介護過程の意義や展開の思考過程の学習を基礎とし、実際の生活場面での利用者の状況に応じた適切な介護の提供が出来るよう、他の科目で学習した知識・技術を統合し、介護過程を展開、介護計画の作成が出来るようにする。							
【授業全体の内容の概要】 複数の障害形態や生活の課題を抱える方の事例を基に授業を行う。実習の学びや現場の臨床例なども交え実践力を養えるよう、ワークシートの作成やグループワークなどによる授業展開。							
【授業終了時の到達目標】 介護過程の展開、介護計画作成において、自立支援の理念に基づき、利用者の意思や主体性を尊重した適切な介護の支援への理解が出来る。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】							
コマ数 介護過程の実践的展開 〔Ⅰ〕施設で暮らす認知症高齢者への介護過程の展開と介護計画作成 1. 1 事例の理解(信頼関係の形成) 2. 2 アセスメント(情報の収集・解釈・分析) 3. 3 ケースカンファレンス 4. 4 介護過程とケアプラン(居宅介護サービス計画) 5. 5 実施・記録(ロールプレイ) 6. 6 評価(サービス担当者会議：ロールプレイ) 7. 7 まとめ(グループワーク・発表) 〔Ⅱ〕保健・医療との連携の必要性のある人への介護過程の展開と介護計画作成 8. 1 事例の理解(信頼関係の形成) 9. 2 アセスメント(情報の収集・解釈・分析) 10. 3 ケースカンファレンス 11. 4 介護過程とケアプラン(施設介護サービス計画) 12. 5 実施・記録(ロールプレイ) 13. 6 評価(サービス担当者会議：ロールプレイ) 14. 7 まとめ(グループワーク・発表) 15. まとめ〔Ⅰ〕の事例、〔Ⅱ〕の事例) 評価 試験、レポート等							
【準備学習】 ①事前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 ②授業で配布したプリントを整理するとともに、次回授業までに再度目を通し、前回授業を復習しておくこと。							
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座9介護過程第3版(中央法規) 参考文献：森繁樹、事例で読み解く介護過程の展開(中央法規)			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 試験等：60% 2. 提出物：20% 3. 受講態度：20% *ミニテストや試験は、実施後解答を示す。 *提出課題は、授業中に返却または講評する。				

授業科目名 介護過程Ⅳ(居宅)		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 織田つや子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 2年次・後期	
必修・選択 選択					
【授業の目的】 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる能力を養う学習とする。 【授業全体の内容の概要】 利用者が住みなれた地域で、暮らし続けることができるように、利用者の思いを大切に介護過程を展開するための、在宅介護の知識と介護計画作成の方法を学ぶ。 【授業終了時の到達目標】 在宅分野における介護計画を作成、実施、評価することができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 在宅利用者への介護過程とチームアプローチ 1. 在宅介護の意義 2. 在宅介護の概念 3. 在宅介護の実際 4. 在宅サービスの種類 5. 介護過程とケアプラン（居宅サービス計画） 6. 介護計画の作成、実施、評価 7. 介護計画 ①情報収集 8. 介護計画 ②計画の作成 1 9. 介護計画 ③計画の作成 2 10. 介護計画 ④計画の実施 11. 介護計画 ⑤計画の評価 12. ケースカンファレンス 13. サービス担当者会議 14. 他職種との連携 15. まとめ 評価・レポート					
【準備学習】 (授業への心構え) この授業は演習なので、毎回提出物がある。また、介護計画の作成から評価までの6～11回目の授業は、一つの事例を段階を追って演習する。欠席しないように、体調管理に十分気をつけて授業に臨むこと。					
【使用テキスト・参考文献】 (参考文献) 介護福祉士養成テキスト12巻『介護過程の展開』 建帛社 新・介護福祉士養成講座9巻『介護過程』中央法規 朝倉美江『在宅介護支援の今日と明日』一橋出版			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 授業態度・演習・レポートでの総合評価 1. 演習(提出物)：60% 2. 演習(テスト)：15% 3. レポート：15% 4. 受講態度：10%		

授業科目名 介護過程Ⅴ(施設)		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 平澤 泰子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 2年次・後期	
必修・選択 選択					
【授業の目的】 基本的な介護の知識や技術を踏まえた上で、施設利用者の自立に向けた適切な生活支援を行うためのチームケアの介護過程の展開方法を学ぶ。 【授業全体の内容の概要】 施設利用者の事例を用いて介護過程に沿った施設介護サービス計画作成、チームアプローチに必要なサービス担当者会議の持ち方、ケースカンファレンス、進め方などの具体的な方法を演習する。 【授業終了時の到達目標】 施設利用者の自立に向けた介護過程の展開ができるようになると共に、ケアプランに基づいたサービスの流れにおける他の職種間とのチームケアを適切に行うための能力を習得する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 高齢者施設とケアマネジメント 2. 障害者支援施設と障害ケアマネジメント 3. 多職種の役割と介護福祉士の役割 4. 施設における介護過程とチームアプローチ①(サービス担当者会議) 5. 施設における介護過程とチームアプローチ②(ケースカンファレンス) 6. 施設における介護過程とチームアプローチ③(多職種との連携：高齢者) 7. 施設における介護過程とチームアプローチ④(多職種との連携：障害者) 8. 様々なケアマネジメント①(栄養ケアマネジメント) 9. 様々なケアマネジメント②(口腔ケアマネジメント) 10. 様々なケアマネジメント③(リハビリテーションマネジメント) 11. 様々なケアマネジメント④(介護予防ケアマネジメント) 12. 施設サービスと在宅サービスの連携 13. 施設における介護過程の展開のまとめ① 14. 施設における介護過程の展開のまとめ② 15. まとめ 試験					
【準備学習】 1年次前期から連続して学んでいくものであり、教科書で予習をしてくることは勿論必要であるが、介護過程Ⅰ(意義と展開)・Ⅱ(実践的展開Ⅰ)・Ⅲ(実践的展開Ⅱ)・Ⅳ(居宅)を繰り返し復習しておくことが望ましい。つまり、介護過程の意義や展開方法をしっかり身につけた上で、施設利用者への介護過程とチームアプローチを学ぶことが望ましい。					
【使用テキスト・参考文献】 適宜プリントを配付 参考文献：「介護過程」中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト：40% 2. レポートおよび課題：40% 3. 受講態度：20% 期末テストは返却時に講評を行う。レポートおよび課題はコメントを記して戻す。		

授業科目名 介護過程Ⅴ(施設)		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 平澤 泰子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 2年次・後期	
				必修・選択 選択	
【授業の目的】 基本的な介護の知識や技術を踏まえた上で、施設利用者の自立に向けた適切な生活支援を行うためのチームケアの介護過程の展開方法を学ぶ。 【授業全体の内容の概要】 施設利用者の事例を用いて介護過程に沿った施設介護サービス計画作成、チームアプローチに必要なケースカンファレンス、サービス担当者会議の持ち方、進め方などの具体的な方法を演習する。 【授業終了時の到達目標】 施設利用者の自立に向けた介護過程の展開ができるようになると共に、ケアプランに基づいたサービスの流れにおける他の職種間とのチームケアを適切に行うための能力を習得する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 施設利用者への介護過程とチームアプローチ 〔Ⅰ〕特別養護老人ホームの利用者への介護過程とチームアプローチ 1. 1 事例の理解 2. 2 ケースカンファレンス 3. 3 サービス担当者会議 4. 4 介護過程とケアプラン（施設介護サービス計画） 5. 5 他の職種との連携 〔Ⅱ〕老人保健施設の利用者への介護過程とチームアプローチ 6. 1 事例の理解 7. 2 ケースカンファレンス 8. 3 サービス担当者会議 9. 4 介護過程とケアプラン（施設介護サービス計画） 10. 5 他の職種との連携 〔Ⅲ〕グループホームの利用者への介護過程とチームアプローチ 11. 1 事例の理解 12. 2 ケースカンファレンスと他の職種との連携 13. 3 サービス担当者会議 14. 4 介護過程とケアプラン（施設介護サービス計画） 15. まとめ 試験					
【準備学習】 1年次前期から連続して学んでいくものであり、教科書で予習をしてくることは勿論必要であるが、介護過程Ⅰ(意義と展開)・Ⅱ(実践的展開Ⅰ)・Ⅲ(実践的展開Ⅱ)・Ⅳ(居宅)を繰り返し復習しておくことが望ましい。つまり、介護過程の意義や展開方法をしっかり身につけた上で、施設利用者への介護過程とチームアプローチを学ぶことが望ましい。					
【使用テキスト・参考文献】 適宜プリントを配付 参考文献：「介護過程」中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト：40% 2. レポートおよび課題：40% 3. 受講態度：20% 期末テストは返却時に講評を行う。レポートおよび課題はコメントを記して戻す。		

授業科目名 介護総合演習Ⅰ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 青柳佳子・嶋田美津江・ 鄭春姫・林雅美・井内由美子			
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 1年次・前期		必修・選択 必修	
【授業の目的】 ①学内の授業と介護実習とのつながりを踏まえ、介護実習への動機づけを図る。②介護実習Ⅰ～Ⅳの体系を理解する。③介護実習Ⅰにおける実習目標を設定し、実習終了後には個別の課題を整理し次の実習への準備を行う。 【授業全体の内容の概要】 ①体験見学を通し、実習施設と介護実習に対する動機づけをする。②介護実習Ⅰの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行い、実習後には介護実習Ⅰを振り返り個別の課題を整理する。 【授業終了時の到達目標】 ①実習施設の種別と特徴を理解する。また、実習に臨む基本的姿勢を理解することができる。②実習に関わる書類の記入方法を学び、介護実習Ⅰの実習目標を明確にできる。③配布資料や課題レポート、授業の振り返り記録をとり、介護実習Ⅰで活用できるポートフォリオを作成する。④実習後には次回実習に向けての自己の課題を整理することができる。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. オリエンテーション：介護実習の意義と目的、介護総合演習の授業について 2. 施設体験学習①：体験施設の概要について 3. 施設体験学習②：介護老人福祉施設の見学 4. 施設体験学習③：介護老人保健施設の見学 5. 施設体験学習④：体験見学の報告会 6. 実習にあたっての心構えと専門職倫理：介護実習に臨む際の心構えと専門職倫理について 7. 介護実習Ⅰ事前学習①：個人票の作成と実習目標の立て方 8. 介護実習Ⅰ事前学習②：事前訪問、実習のマナー 9. 介護実習Ⅰ事前学習③：実習記録の理解①（介護実習記録の意義と目的） 10. 介護実習Ⅰ事前学習④：実習記録の理解②（介護実習記録の書き方①） 11. 介護実習Ⅰ事前学習⑤：実習記録の理解③（介護実習記録の書き方②） 12. 介護実習Ⅰ事前学習⑥：実習生の基本的姿勢 13. 介護実習Ⅰまとめの学習①：反省会、目標達成リストの確認、記録の確認、自己評価 14. 介護実習Ⅰまとめの学習②：実習総括の記入 15. 介護実習Ⅰまとめの学習③：施設へのお礼状作成 提出課題（体験レポート・記録の理解）							
【準備学習】 ①実習の手引きの授業該当部分を事前に読んでおくこと ②体験見学施設の資料等を授業前によく読んで理解しておくこと ③記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認しておくこと ④配布された資料は整理し、次回授業までに再度目を通しておくこと。							
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護実習の手引き（学科内作成） 参考文献：介護福祉士養成講座編集委員会，新介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第3版（中央法規）				【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 課題とその内容：60% 2. 受講態度：40% *課題については、ルーブリック評価を行う。また評価基準は授業中に詳細を示す。 *課題は、内容を確認後返却する。			

授業科目名 介護総合演習Ⅰ		授業の種類 (講義・<u>演習</u>・実習)		授業担当者 青柳佳子・嶋田美津江・ 鄭春姫・林雅美・井内由美子			
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 1年次・前期		必修・選択 必修	
【授業の目的】 学内の授業と介護実習とのつながりを踏まえ、介護実習への動機づけを図る。介護実習Ⅰ～Ⅳの体系を理解し、特に介護実習Ⅰにおける実習目標を設定し、実習終了後には個別の課題を整理し次の実習への準備を行う。							
【授業全体の内容の概要】 ①体験見学を通し、実習施設と介護実習に対する動機づけをする。 ②介護実習Ⅰの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行い、実習後には介護実習Ⅰを振り返り個別の課題を整理する。							
【授業終了時の到達目標】 ①実習施設の種別と特徴を理解する。また、実習に臨む基本的姿勢を理解することができる。 ②実習に関わる書類の記入方法を学び、介護実習Ⅰの実習目標を明確にできる。また、実習後には次回実習に向けての自己の課題を整理することができる。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. オリエンテーション：介護実習の意義と目的、介護総合演習の授業について 2. 施設体験学習①：体験施設の概要について 3. 施設体験学習②：介護老人福祉施設の見学 4. 施設体験学習③：介護老人保健施設の見学 5. 施設体験学習④：体験見学の報告会 6. 実習にあたっての心構えと専門職倫理：介護実習に臨む際の心構えと専門職倫理について 7. 介護実習Ⅰ事前学習①：個人票の作成と実習目標の立て方 8. 介護実習Ⅰ事前学習②：事前訪問、実習のマナー 9. 介護実習Ⅰ事前学習③：実習記録の理解①（介護実習記録の意義と目的） 10. 介護実習Ⅰ事前学習④：実習記録の理解②（介護実習記録の書き方①） 11. 介護実習Ⅰ事前学習⑤：実習記録の理解③（介護実習記録の書き方②） 12. 介護実習Ⅰ事前学習⑥：実習生の基本的姿勢 13. 介護実習Ⅰまとめの学習①：反省会、目標達成リストの確認、記録の確認、自己評価 14. 介護実習Ⅰまとめの学習②：実習総括の記入 15. 介護実習Ⅰまとめの学習③：施設へのお礼状作成 提出課題（体験レポート・記録の理解）							
【準備学習】 ①実習の手引き、ワークブックの授業該当部分を事前に読んでおくこと ②体験見学施設の資料等を授業前によく読んで理解しておくこと ③記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認しておくこと ④配布された資料は整理し、次回授業までに再度目を通しておくこと。							
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護実習の手引き（学科内作成） ワークブック（学科内作成） 参考文献：介護福祉士養成講座編集委員会，新介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第3版（中央法規）				【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 提出物とその内容：60％ （評価基準は授業中に詳細を示す） 2. 受講態度：40％ * 課題は、内容を確認後返却する。			

授業科目名 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 青柳佳子・嶋田美津江・鄭春姫・井内由美子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 1年次・後期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 ①学内の授業と介護実習とのつながりを踏まえ、介護実習への動機づけを図る。 ②介護実習Ⅰを振り返り個別の課題を整理するとともに、介護実習Ⅱへ向けた準備を行う。					
【授業全体の内容の概要】 ①介護実習Ⅰを振り返り報告書としてまとめ、自己の課題を整理する。 ②介護実習Ⅱの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行い、実習後には介護実習Ⅱを振り返り個別の課題を整理する。					
【授業終了時の到達目標】 ①実習施設の種別と特徴を理解する。また、実習に臨む基本的姿勢を理解することができる。②実習に関わる書類の記入方法を学び、介護実習Ⅱの実習目標を明確にできる。③配布資料や課題レポート、授業の振り返り記録をとり、介護実習Ⅱで活用できるポートフォリオを作成する。④実習後には次回実習に向けての自己の課題を整理することができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数 1. 介護実習Ⅰの振り返り①：報告書の書き方、報告書の作成 2. 介護実習Ⅰの振り返り②：報告書発表会 3. 介護実習Ⅱ事前学習①：介護実習Ⅱオリエンテーション 4. 介護実習Ⅱ事前学習②：実習施設の理解①（訪問介護事業所、グループホーム） 5. 介護実習Ⅱ事前学習③：実習施設の理解②（通所介護、障害者支援施設） 6. 介護実習Ⅱ事前学習④：実習目標の作成① 7. 介護実習Ⅱ事前学習⑤：実習目標の作成② 8. 介護実習Ⅱ事前学習⑥：実習施設への経路検索、個人票作成 9. 介護実習Ⅱ事前学習⑦：日々の記録の書き方① 10. 介護実習Ⅱ事前学習⑧：日々の記録の書き方② 11. 介護実習Ⅱ事前学習⑨：実習目標の確認と実習のマナー 12. 2年生から学ぶ①：介護福祉実践研究レポート発表会① 13. 2年生から学ぶ②：介護福祉実践研究レポート発表会② 14. 2年生から学ぶ③：介護福祉実践研究レポート発表会③ 15. 介護実習Ⅱまとめの学習：実習記録のまとめ、お礼状の作成 課題提出（介護実習Ⅰ報告書、記録の書き方）					
【準備学習】 ①実習の手引きの授業該当部分を事前に読んでおくこと ②記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認しておくこと ③配布された資料は整理し、次回授業までに再度目を通しておくこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護実習の手引き（学科内作成） 参考文献：介護総合演習・介護実習第3版、介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規)			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 課題とその内容：60％ 2. 受講態度：40％ ＊課題については、ルーブリック評価を行う。また評価基準は授業中に詳細を示す。 ＊課題は、内容を確認後返却する。		

授業科目名 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 青柳佳子・嶋田美津江・鄭春姫・井内由美子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・1単位		配当年次・時期 1年次・後期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 学内の授業と介護実習とのつながりを踏まえ、介護実習への動機づけを図る。介護実習Ⅰ～Ⅳの体系を理解し、特に介護実習Ⅰを振り返り個別の課題を整理するとともに、介護実習Ⅱへ向けた準備を行う。					
【授業全体の内容の概要】 ①介護実習Ⅰを振り返り報告書としてまとめ、自己の課題を整理する。 ②介護実習Ⅱの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の方法、目標の設定を行い、実習後には介護実習Ⅱを振り返り個別の課題を整理する。					
【授業終了時の到達目標】 ①実習施設の種別と特徴を理解する。また、実習に臨む基本的姿勢を理解することができる。 ②実習に関わる書類の記入方法を学び、介護実習Ⅱの実習目標を明確にできる。また、実習後には次回実習に向けての自己の課題を整理することができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数					
1. 介護実習Ⅰの振り返り①：報告書の書き方、報告書の作成					
2. 介護実習Ⅰの振り返り②：報告書発表会					
3. 介護実習Ⅱ事前学習①：介護実習Ⅱオリエンテーション					
4. 介護実習Ⅱ事前学習②：実習施設の理解①（訪問介護事業所、グループホーム）					
5. 介護実習Ⅱ事前学習③：実習施設の理解②（通所介護、障害者支援施設）					
6. 介護実習Ⅱ事前学習④：実習目標の作成①					
7. 介護実習Ⅱ事前学習⑤：実習目標の作成②					
8. 介護実習Ⅱ事前学習⑥：実習施設への経路検索、個人票作成					
9. 介護実習Ⅱ事前学習⑦：日々の記録の書き方①					
10. 介護実習Ⅱ事前学習⑧：日々の記録の書き方②					
11. 介護実習Ⅱ事前学習⑨：実習目標の確認と実習のマナー					
12. 2年生から学ぶ①：介護福祉実践研究レポート発表会①					
13. 2年生から学ぶ②：介護福祉実践研究レポート発表会②					
14. 2年生から学ぶ③：介護福祉実践研究レポート発表会③					
15. 介護実習Ⅱまとめの学習：実習記録のまとめ、お礼状の作成					
課題提出（介護実習Ⅰ報告書、記録の書き方）					
【準備学習】 ①実習の手引き、ワークブックの授業該当部分を事前に読んでおくこと ②記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認しておくこと ③配布された資料は整理し、次回授業までに再度目を通しておくこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護実習の手引き（学科内作成） ワークブック（学科内作成） 参考文献：介護総合演習・介護実習第3版、介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規)			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 提出物とその内容：60％ （評価基準は授業中に詳細を示す） 2. 受講態度：40％ ＊課題は、内容を確認後返却する。		

授業科目名 介護総合演習Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 嶋田美津江・鄭春姫・岡田圭祐・平澤泰子・福島猛行・井内由美子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・1単位	配当年次・時期 2年次・前期	必修・選択 選択	
【授業の目的】 ・介護実習Ⅲを行うための事前指導、実習終了後のまとめを行い、各自の課題を整理する。 ・1年生に対し実習で体験したことを伝える機会を設け、自身の体験を様々な場面で伝える能力を備える。 ・ケアスタディを作成し、介護実習と教科学習の振り返りを行う。 【授業全体の内容の概要】 ・学内の授業と介護実習で得た知識や技術を総合し、介護過程が展開できる能力を備えるように個別の支援を行う。 ・グループでの発表や1年生に対する発表を通じ、個々人の体験を多様な場面で伝える能力を養う。 ・ケアスタディ作成等の個別指導を行う。 【授業終了時の到達目標】 ・体験した介護実習を生かし、ケアスタディの作成をし、発表する。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 介護実習Ⅲ事前学習1：個人票の作成と実習目標の作成① 2. 介護実習Ⅲ事前学習2：個人票の作成と実習目標の作成② 3. 介護実習Ⅲ事前学習3：実習施設の理解（特養と老健の理解） 4. 介護実習Ⅲ事前学習4：研究レポートの書き方 5. 介護実習Ⅲ事前学習：実習直前オリエンテーション（実習目標の確認と実習のマナー） 6. 介護実習Ⅲ帰校日1：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など 7. 特別講義：特別講義「実習にあたっての心構えと専門職倫理」 8. 介護実習Ⅲ帰校日2：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など 9. 介護実習Ⅲ帰校日3：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など 10. 介護実習Ⅳオリエンテーション：個人票の作成 11. 介護実習Ⅲ帰校日4：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など 12. 介護実習Ⅲまとめの学習1：ケアスタディ説明⇒反省会、実習記録のまとめ 13. 介護実習Ⅲまとめの学習2：実習記録のまとめ、ケアスタディ作成・自己評価 14. 介護実習Ⅳ事前学習1：介護実習Ⅳの目標確認、実習目標作成 15. 介護実習Ⅳ事前学習2：実習のマナー確認、ケアスタディの発表 評価				
【準備学習】 ・実習の手引き・ワークブックの授業該当部分を授業前に確認する。 ・実習の課題に関連される介護過程Ⅰ・Ⅱの授業内容を振り返る。 ・記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認する。 ・課題レポートに関する資料や参考文献などを読み、レポート作成に生かせるようにする。				
【使用テキスト・参考文献】 テキスト： 介護実習の手引き ワークブック学科内作成		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 受講態度、介護実習の記録を総合的に判断する 1. 提出物：60% 2. 受講態度：40%		

授業科目名		授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅳ		(講義・演習・実習)	青柳佳子・嶋田美津江・鄭春姫・岡田圭祐・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子
授業の回数	時間数 (単位数)	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・後期	選択
【授業の目的】 ・介護実習Ⅳを行うための事前指導、実習終了後のまとめを行い、各自の課題を整理する。 ・1年生に対し実習で体験したことを伝える機会を設け、自身の体験を様々な場面で伝える能力を備える。 ・介護福祉実践研究レポートを作成し、介護実習と教科学習のまとめを行う。 【授業全体の内容の概要】 ・学内の授業と介護実習で得た知識や技術を総合し、介護過程が展開できる能力を備えるように個別の支援を行う。 ・グループでの発表や1年生に対する発表を通じ、個々人の体験を多様な場面で伝える能力を養う。 ・介護福祉実践研究レポートのテーマ設定、作成等の個別指導を行う。 【授業終了時の到達目標】 ・体験した介護実習を生かし、介護福祉実践研究レポートの作成をし、発表する。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 介護実習Ⅳまとめの学習1：実習記録のまとめ・自己評価 2. 特別講義：「生活支援の思想」 3. 介護福祉実践研究レポート1：研究レポートをまとめる意義と目的、書き方について 4. 介護福祉実践研究レポート2：レポートの作成① 5. 介護福祉実践研究レポート3：レポートの作成② 6. 介護福祉実践研究レポート4：レポートの作成③　＊レポートタイトル提出日 7. 介護福祉実践研究レポート5：レポートの作成④ 8. 介護福祉実践研究レポート6：レポートの作成⑤ 9. 介護福祉実践研究レポート7：レポート⑥、発表原稿作成①　＊レポート提出日 10. 介護福祉実践研究レポート8：発表原稿作成② 11. 介護福祉実践研究レポート9：発表原稿作成③ 12. 介護福祉実践研究レポート10：発表会の流れの確認、発表の方法 13. 介護福祉実践研究レポート発表会 14. 介護福祉実践研究レポート発表会 15. 介護福祉実践研究レポート発表会 評価			
【準備学習】 ・実習の手引き・ワークブックの授業該当部分を授業前に確認する。 ・実習の課題に関連される介護過程Ⅰ・Ⅱの授業内容を振り返る。 ・記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認する。 ・課題レポートに関する資料や参考文献などを読み、レポート作成に生かせるようにする。			
【使用テキスト・参考文献】 テキスト： 介護実習の手引き ワークブック学科内作成		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 受講態度、介護実習の記録を総合的に判断する 1. 提出物：60% 2. 受講態度：40%	

授業科目名 介護総合演習Ⅰ	授業の種類 (講義・<u>演習</u>・実習)	授業担当者 青柳佳子・嶋田美津江・ 鄭春姫・林雅美・井内由美子	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間・2単位	配当年次・時期 1年次・通年	必修・選択 必修
【授業の目的】 ・学内の授業と実習の連携を踏まえ、実習への動機づけを図る。介護実習Ⅰ～Ⅳの体系を理解し、実習目標を設定し、実習終了後には個別の課題を整理し次の実習への準備を行う。 【授業全体の内容の概要】 ・体験見学を通し、実習施設と実習に対する動機付けをする。介護実習Ⅰの事前学習として、実習関連書類の把握や記入の仕方、目標の設定を行い、実習後には実習を振り返り個別の課題を整理する。事例を活用しケアプランを立案できる能力を養い、介護実習Ⅱに備える。 【授業終了時の到達目標】 ・実習施設の体系、種類を理解する。実習に関わる書類の記入の仕方を学び、実習への動機付けをすることができる。 ・実習の目標を設定することができ、実習後には個別課題の整理をすることができる。 ・事例を理解し、個別支援計画を立案することができる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 介護実習とは、実習の意義と目的 2. 介護実習と教科学習との関連について 3. 本学の介護実習の概要の理解 4. 介護実習と介護実習指導との関連の理解（学習グループの編成） 5. 体験見学に向けて施設の概要等の事前学習 6. 体験見学① 7. 体験見学② 8. 体験見学レポート指導（レポート、報告文書の書き方等） 9. 体験見学報告会 10. 介護実習Ⅰ 事前学習①（2年生の実習体験から学ぶ） 11. 介護実習Ⅰ 事前学習②（介護実習Ⅰのコミュニケーション技法の復習） 12. 介護実習Ⅰ 事前学習③（介護実習Ⅰの介護技術の復習） 13. 介護実習Ⅰ 事前学習④（個別目標の設定） 14. 実習関連書類の理解 記録の意義、重要性の理解 15. 介護実習Ⅰ関連記録の模擬記入 評価 16. 介護実習Ⅰ終了後の指導、報告と振り返り 17. 介護実習Ⅰ報告会 18. 介護実習Ⅱ、介護実習Ⅳの体験から学ぶ（グループで2年生ケアプラン発表会） 19. 介護実習Ⅰ報告書作成の指導 20. 報告書完成に向けた個別指導 21. グループ毎の介護実習Ⅰ報告書発表 22. 介護実習Ⅱにおける個別援助計画立案過程の理解 23. 介護実習Ⅱの関連記録書類の理解と模擬記入 24. アセスメントの方法と留意点の理解 25. 事例分析と個別援助計画の作成① 26. 事例分析と個別援助計画の作成② 27. 介護実習Ⅱの心構えと諸注意 28. 介護実習Ⅲの実習施設の理解 29. 介護実習Ⅳの実習施設の理解 30. 2年生介護福祉実践研究レポート発表会への出席 評価			
【準備学習】 ①実習の手引き、ワークブックの授業該当部分を事前に読んでおくこと ②体験見学施設の資料等を授業前によく読んで理解しておくこと ③記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認しておくこと ④配布された資料は整理し、次回授業までに再度目を通しておくこと。			
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護実習の手引き（学科内作成） ワークブック（学科内作成） 参考文献：介護福祉士養成講座編集委員会、新介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第3版（中央法規）	【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 提出物とその内容：60% （評価基準は授業中に詳細を示す） 2. 受講態度：40% *課題は、内容を確認後返却する。		

授業科目名		授業の種類		授業担当者	
介護総合演習Ⅱ		(講義・演習・実習)		青柳佳子・嶋田美津江・鄭春姫・ 岡田圭祐・林雅美・平澤泰子・ 福島猛行・井内由美子	
授業の回数		時間数(単位数)		配当年次・時期	
30回		60時間・2単位		2年次・通年	
				必修・選択	
				選択	
【授業の目的】 ・介護実習Ⅳを行うための事前指導、実習終了後のまとめを行い、各自の課題を整理する。 ・1年生に対し実習で体験したことを伝える機会を設け、自身の体験を様々な場面で伝える能力を備える。 ・ケアスタディ・介護福祉実践研究レポートを作成し、介護実習と教科学習のまとめを行う。					
【授業全体の内容の概要】 ・学内の授業と介護実習で得た知識や技術を総合し、介護過程が展開できる能力を備えるように個別の支援を行う。 ・グループでの発表や1年生に対する発表を通じ、個々人の体験を多様な場面で伝える能力を養う。 ・ケアスタディ・介護福祉実践研究レポートのテーマ設定、作成等の個別指導を行う。					
【授業終了時の到達目標】 ・体験した介護実習を生かし、ケアスタディ・介護福祉実践研究レポートの作成をし、発表する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数					
1. 介護実習Ⅲ事前学習1：個人票の作成と実習目標の作成① 2. 介護実習Ⅲ事前学習2：個人票の作成と実習目標の作成② 3. 介護実習Ⅲ事前学習3：実習施設の理解（特養と老健の理解） 4. 介護実習Ⅲ事前学習4：研究レポートの書き方 5. 介護実習Ⅲ事前学習：実習直前オリエンテーション（実習目標の確認と実習のマナー） 6. 介護実習Ⅲ帰校日1：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など 7. 特別講義：特別講義「実習にあたっての心構えと専門職倫理」 8. 介護実習Ⅲ帰校日2：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など 9. 介護実習Ⅲ帰校日3：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など 10. 介護実習Ⅳオリエンテーション：個人票の作成 11. 介護実習Ⅲ帰校日4：介護実習Ⅲの報告、相談、介護過程の展開など 12. 介護実習Ⅲまとめの学習1：ケアスタディ説明⇒反省会、実習記録のまとめ 13. 介護実習Ⅲまとめの学習2：実習記録のまとめ、ケアスタディ作成・自己評価 14. 介護実習Ⅳ事前学習1：介護実習Ⅳの目標確認、実習目標作成 15. 介護実習Ⅳ事前学習2：実習のマナー確認、ケアスタディの発表 16. 介護実習Ⅳまとめの学習1：実習記録のまとめ・自己評価 17. 特別講義：「生活支援の思想」 18. 介護福祉実践研究レポート1：研究レポートをまとめる意義と目的、書き方について 19. 介護福祉実践研究レポート2：レポートの作成① 20. 介護福祉実践研究レポート3：レポートの作成② 21. 介護福祉実践研究レポート4：レポートの作成③ 22. 介護福祉実践研究レポート5：レポートの作成④ 23. 介護福祉実践研究レポート6：レポートの作成⑤ 24. 介護福祉実践研究レポート7：レポート⑥、発表原稿作成①　＊レポート提出日 25. 介護福祉実践研究レポート8：発表原稿作成② 26. 介護福祉実践研究レポート9：発表原稿作成③ 27. 介護福祉実践研究レポート10：発表会の流れの確認、発表の方法 28. 介護福祉実践研究レポート発表会 29. 介護福祉実践研究レポート発表会 30. 介護福祉実践研究レポート発表会					
評価					
【準備学習】 ①実習の手引き、ワークブックの授業該当部分を事前に読んでおくこと ②記録の授業の振り返りをし、記述内容が適切かを確認しておくこと ③配布された資料は整理し、次回授業までに再度目を通しておくこと					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：介護実習の手引き（学科内作成） ワークブック（学科内作成） 参考文献：介護総合演習・介護実習第3版、介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規)			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 提出物とその内容：60％ （評価基準は授業中に詳細を示す） 2. 受講態度：40％ ＊課題は、内容を確認後返却する。		

授業科目名		授業の種類		授業担当者	
介護実習Ⅰ		(講義・演習・実習)		青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・ 鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・ 井内由美子	
授業の回数		時間数 (単位数)		配当年次・時期	
集中		90時間・2単位		1年次・前期	
				必修・選択	
				必修	
【授業の目的】 ・特別養護老人ホーム、老人保健施設の概要と利用者の生活を理解する。 ・コミュニケーションを通して人間的触れ合いをもち、基礎的介護の実践をする。					
【授業全体の内容の概要】 ・利用者の生活を理解する。 ・心身機能の状態を理解し基礎的介護を実践する。 ・介護従事者の業務内容や役割を理解する。					
【授業終了時の到達目標】 ・特別養護老人ホームの施設の概要や利用者の生活について理解できる。 ・コミュニケーションを通して利用者との人間的触れ合いがもてる。 ・利用者の心身機能の状態を理解し、基礎的介護の実践ができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数					
1．施設生活の理解					
①オリエンテーションを受ける					
②一日のスケジュールを体験する					
③各スケジュールの持つ意義と目的について話を聞く					
④介護従事者の役割を見聞きする					
2．利用者の心身機能の状態を理解する					
①加齢や疾病の後遺症などによる心身機能の状態に応じた生活支援技術を学び、一部実践する					
②コミュニケーションを通して社会的マナー、倫理、眼差しなどの基礎的知識や技術を学ぶ					
3．介護関係の構築					
①利用者や介護従事者への言葉かけの重要性を実際の場面から学び、実践する					
②一人ひとりのコミュニケーションニーズについて理解し、利用者に対する態度や対話のあり方について自己覚知し指導を受ける					
③実習記録の記入方法や内容について指導・助言を受ける					
【準備学習】					
①配属先の施設について、実習前に資料等をよく読んで理解して置くこと					
②実習の手引きの実習Ⅰの関連する頁をよく読んで置くこと					
③実習記録を読み返し、実習内容の確認・振り返りをして置くこと					
【使用テキスト・参考文献】			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】		
介護実習の手引き			1．記録等の提出とその内容：40%		
学科内作成			2．実習態度：30%		
			3．生活支援技術：30%		
			＊実習記録等の提出物は実習中または実習終了後に返却する。		

授業科目名		授業の種類		授業担当者	
介護実習Ⅱ		(講義・演習・実習)		青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・ 鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・ 井内由美子	
授業の回数		時間数(単位数)		配当年次・時期	
集中		45時間・1単位		1年次・後期	
				必修・選択	
				必修	
【授業の目的】 ・利用者の心身状態や様々な生活の場における介護のあり方を見学・体験し、利用者の生活や介護方法を理解する。 ・家庭を訪問し訪問介護や訪問入浴介護について理解する。 ・認知症高齢者のグループホームを理解する。 ・利用者の心身の障害に応じた施設介護・通所介護・訪問介護について理解する。					
【授業全体の内容の概要】 ・訪問介護員に同行して家庭を訪問し、訪問介護や訪問入浴介護を体験する。 ・認知症高齢者グループホームの生活を体験する。 ・心身の障害に応じた施設介護・通所介護・訪問介護を体験する。					
【授業終了時の到達目標】 ・家庭を訪問して利用者の状態やニーズに応じた訪問介護や訪問入浴介護が理解できる。 ・認知症高齢者グループホームの生活リズムや自立に向けた個別のケアが理解できる。 ・障害に応じた利用者の個性を理解し、多職種協働のチームケアの一員としての介護福祉士の役割が理解できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数					
1．訪問介護・訪問入浴介護の体験実習					
①利用者の生活状況を把握し、生活課題に応じたサービス内容を理解する					
②利用者の心身状態に応じた介護方法や工夫・留意点を学ぶ					
③地域での生活を継続するために利用している他のサービスを確認し、多職種との連携を学ぶ					
④利用者や家族との信頼関係の重要性を学ぶ					
2．認知症高齢者のグループホームの体験実習					
①利用者の心身状態を把握し、グループホームの生活特性や地域との繋がりを学ぶ					
②利用者とのコミュニケーションや趣味活動などの関わりを通して生活の楽しみを理解する					
③利用者や家族との信頼関係の重要性を学ぶ					
④安全・安楽な生活継続のための生活や環境整備の工夫を学ぶ					
3．障害別の施設介護・通所介護・訪問介護の体験実習					
①利用者の心身状態を理解し、障害に応じたコミュニケーション技術や介護方法を学ぶ					
②心身の障害に応じた利用者の生活障害の実際を学ぶ					
③利用者や家族との信頼関係の重要性を学ぶ					
【準備学習】					
①配属先の施設について、実習前に資料等をよく読んで理解して置くこと					
②実習の手引きの実習Ⅱの関連する頁をよく読んで置くこと					
③実習記録を読み返し、実習内容の確認・振り返りをして置くこと					
【使用テキスト・参考文献】			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】		
介護実習の手引き			1．記録等の提出とその内容：40%		
学科内作成			2．実習態度：30%		
			3．生活支援技術：30%		
			＊実習記録等の提出物は、実習中または実習後に返却する。		

授業科目名		授業の種類		授業担当者	
介護実習Ⅲ		(講義・演習・実習)		青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子	
授業の回数		時間数(単位数)		配当年次・時期	
集中		180時間・4単位		2年次・前期	
				必修・選択	
				選択	
【授業の目的】					
・受け持ち利用者の生活リズムや個性を理解し、課題を明確にして介護過程を展開する。					
・個別性に基づく生活支援技術を習得する。					
【授業全体の内容の概要】					
・受け持ち利用者の介護過程を展開する。					
・コミュニケーションの技法と心身の活性化の知識と技術を学ぶ。					
・個別性に基づく生活支援技術を学び実践する。					
【授業終了時の到達目標】					
・受け持ち利用者のアセスメント・介護計画作成と実施後の評価ができる。					
・利用者の自立に向けた心身の活性化の技術を学び、福祉用具の利用方法や工夫ができる。					
・個別性に基づく生活支援技術が習得できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数					
1．ニーズの把握と生活課題の明確化					
①利用者とのコミュニケーションを通して受け持ち利用者を決定する					
②生活障害に応じた個別のニーズを学ぶ					
③介護計画の仕組みを実践場面から理解する					
2．コミュニケーション技法					
①利用者とコミュニケーションの時間と機会をつくる					
②実習生同士、難しかったこと、楽しかった場面について話し合い記録をしておく					
③認知症高齢者のケアにおいて、以下の項目について整理し、介護の実践を学ぶ					
・利用者自身が困っていること望んでいること					
・介護従事者が困難に感じていること					
・周囲の人が困っていること					
④介護場面における声かけ、コミュニケーションの技法、心身の活性化について学ぶ					
3．生活の場におけるリハビリテーション					
①介護計画において残存機能の活用や自立に向けた利用者の状態説明を受け、実践に参加をして体得する					
②福祉機器や用具の活用方法を学び、その使用方法や工夫を学ぶ					
③脳血管障害、慢性関節リュウマチ、脊髄損傷、内部疾患、パーキンソン病などの疾患について説明を受け、実践の場面からその介護の特性を学ぶ					
4．介護技術の習得					
①実習指導者の評価にもとづいて助言を受け、不十分な技術を補っていく					
②食事の自立、排泄の自立など、個別ケアに対するアプローチの技術を学ぶ					
5．介護計画の作成					
①施設の介護計画を読み、実際例を学ぶ					
②受け持ち利用者の介護計画を作成する過程において実習指導者のスーパービジョンを受ける					
③介護計画に沿って実践し、その妥当性を検証する					
④介護計画の作成・実施の過程を通して、多職種との協働や関係機関との連携の重要性を学ぶ					
【履修にあたっての注意事項】					
介護福祉関連科目を当該時期に履修していること					
【準備学習】					
①配属先の施設について、実習前に資料等をよく読んで理解して置くこと					
②実習の手引きの実習Ⅲの関連する頁をよく読んで置くこと					
③実習記録を読み返し、実習内容の確認・振り返りをして置くこと					
【使用テキスト・参考文献】			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】		
介護実習の手引き			1．記録等の提出とその内容：40%		
ワークブック 学科内作成			2．実習態度：30%		
			3．生活支援技術：30%		
			＊実習記録等の提出物は、実習中または実習終了後に返却する。		

授業科目名		授業の種類		授業担当者	
介護実習Ⅳ		(講義・演習・実習)		青柳佳子・岡田圭祐・嶋田美津江・鄭春姫・林雅美・平澤泰子・福島猛行・井内由美子	
授業の回数		時間数（単位数）		配当年次・時期	
集中		135時間・3単位		2年次・前期	
				必修・選択	
				選択	
【授業の目的】 ・利用者の生活の質の向上について、価値・知識・技法の視点から体系的に学ぶ。 ・利用者の尊厳を守り、自立に向けた生活支援技術を習得する。 ・他の科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を習得する。 【授業全体の内容の概要】 ・受け持ち利用者の介護計画の作成、実施後の評価、計画の修正の介護過程を展開する。 ・夜間介護など介護従事者の多様な業務形態を体験する。 ・グループ活動を企画し実践する。 ・多職種との協働や地域社会・ボランティアとの連携を学ぶ。 【授業終了時の到達目標】 ・受け持ち利用者の介護計画の作成・実施後の評価・計画修正の介護過程を展開して実践できる。 ・自立に向けた生活支援技術が習熟できる。 ・夜間介護などを通して介護の連続性や多職種との連携を学び、チームの一員としての介護福祉士の役割が理解できる。 ・施設と在宅の関係を通して地域における施設ケアの役割が理解できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1．介護過程の展開 ①介護実習Ⅲで作成・実施・評価した介護計画の反省点をふまえながら作成する ②介護過程の展開において実習指導者のスーパービジョンを受け、介護計画を作成する技術や能力を高める 2．ケアカンファレンス ケアカンファレンスに参加してその実際を体験し、医療・保健分野や利用者・家族との連携の重要性を認識する 3．夜間介護・交代勤務 ①介護従事者の交代勤務、夜間の業務について説明を受け実際に体験する ②夜間介護時、排泄や睡眠などについて配慮している介護方法やコミュニケーション技術について学ぶ ③各交代勤務の業務内容の特性や連携を学ぶ 4．グループ活動・行事 ①日々のグループ活動や行事に参加することで、施設職員間の計画的連携の過程や配慮すべき事柄について学ぶ ②利用者のグループ活動や行事への参加が、生活の楽しみ、残存機能の維持やQOL（生活の質）の向上につながることを学ぶ 【履修にあたっての注意事項】 介護福祉関連科目を当該時期に履修していること					
【準備学習】 ①配属先の施設について、実習前に資料等をよく読んで理解して置くこと ②実習の手引きの実習Ⅳの関連する頁をよく読んで置くこと ③実習記録を読み返し、実習内容の確認・振り返りをして置くこと					
【使用テキスト・参考文献】 介護実習の手引き ワークブック 学科内作成			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1．記録等の提出とその内容：40% 2．実習態度：30% 3．生活支援技術：30% * 実習記録等の提出物は、実習中または実習後に返却する。		

介護福祉科目

(こころとからだのしくみ)

授業科目名 からだのしくみ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 戸村 成男	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
必修・選択 必修					
【授業の目的】 人間理解や介護技術の根拠となる「からだのしくみとはたらき」を理解する。					
【授業全体の内容の概要】 「からだのしくみとはたらき」について、系統的に学習し、生体の構造・機能と生命の終焉について理解を深める。					
【授業終了時の到達目標】 介護職にとって保健・医療に関する基本的な知識が重要であることを体得するために、「からだのしくみとはたらき」を理解し、他職種との連携がはかれる人材となることを目指す。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 人体の構造と機能の基礎知識 2. 人体の構造と機能 ①循環器系(1) 3. 人体の構造と機能 ②循環器系(2) 4. 人体の構造と機能 ③呼吸器系 5. 人体の構造と機能 ④消化器系 6. 人体の構造と機能 ⑤脳と神経系(1) 7. 人体の構造と機能 ⑥脳と神経系(2) 8. 人体の構造と機能 ⑦運動器系 9. 人体の構造と機能 ⑧内分泌系(1) 10. 人体の構造と機能 ⑨内分泌系(2) 11. 人体の構造と機能 ⑩腎と尿路系 12. 人体の構造と機能 ⑪血液とそのはたらき 13. 人体の構造と機能 ⑫感覚器系 14. 人体の構造と機能 ⑬細胞の構造と機能 15. 人生の終焉の支援 授業到達目標達成度の判定（期末試験）					
【準備学習】 ・授業の前に該当部分を指定された参考書や図書館の資料などを使い予習してくること。 ・授業の後に指定された参考書や配布資料を読んで知識を整理すること。					
【使用テキスト・参考文献】 ・竹内修二／カラー図解人体解剖の基本がわかる事典／西東社 ・人体の構造と機能（解剖生理学）／メディカ出版			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 評価基準（受講態度および筆記試験による総合評価） 1. 提出物 20％ 2. 期末試験 80％		

授業科目名 こころのしくみ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 加藤英池子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 人間を理解し、介護実践の根拠となる「こころのしくみとはたらき」について理解する。					
【授業全体の内容の概要】 人間が持つ「こころのしくみとはたらき」について、基礎的な知識を学ぶ。					
【授業終了時の到達目標】 1. 介護を必要とする人の「こころのしくみとはたらき」を理解する。 2. 介護福祉の対人援助者として「こころのしくみとはたらき」を適切な介護実践につなげることができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数 1. オリエンテーション：「こころのしくみ」を理解する必要性と意義 2. 脳のつくりと働きの理解 3. こころと脳のつながり 1：こころの理解・こころを作り出す脳 4. こころと脳のつながり 2：感覚のしくみ 5. こころと脳のつながり 3：知覚のしくみ 6. こころと脳のつながり 4：認知のしくみ① 7. こころと脳のつながり 5：認知のしくみ② 8. こころと脳のつながり 6：認知のしくみ③ 9. 人間の行動を引き起こすこころのしくみ 1：動機づけのしくみ 10. 人間の行動を引き起こすこころのしくみ 2：感情のしくみ 11. 社会的人間としてのこころのしくみ 1：自分を守るこころのしくみ① 12. 社会的人間としてのこころのしくみ 2：自分を守るこころのしくみ② 13. 社会的人間としてのこころのしくみ 3：社会性を引き出すこころ① 14. 社会的人間としてのこころのしくみ 4：社会性を引き出すこころ② 15. 社会的人間としてのこころのしくみ 5：自己概念、生きることの意味 定期考査					
【準備学習】 1. 先ずは自分自身のこころのはたらきを意識する。2. 他者のこころのはたらきにも関心を持って授業に臨むことで、授業内容について理解を深める。3. 脳と心についてテキストを読んで予習する。4. 5. 脳と心について授業後内容を整理する。6. 認知のしくみについてテキストを読んで予習する。7. 8. 認知のしくみについて授業後内容を整理する。9. 動機づけのしくみについてテキストを読んで予習する。10. 人間の行動を引き起こすこころのしくみについて授業後内容を整理する。11. 自分を守るこころのしくみについてテキストを読んで予習する。12. 自分を守るこころのしくみについて授業後内容を整理する。13. 社会性を引き出すこころについてテキストを読んで予習する。14. 社会性を引き出すこころについて授業後内容を整理する。15. 自己概念、生きることの意味について授業後内容を整理する。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：新・介護福祉士養成講座 14 「こころとからだのしくみ」中央法規 参考文献：授業時に提示する。			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. (関心・意欲・態度)： グループワーク・発表など 10% 2. (思考・判断)：課題シート 10% 3. (知識・理解)：小テスト 20% 定期考査 60% * 課題・テストは解説し、返却する。		

授業科目名 こころとからだのしくみⅠ		授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 加藤英池子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・2単位	配当年次・時期 1年次・後期	必修・選択 必修
【授業の目的】 食事、排泄、移動に関連したこころとからだのしくみを理解し、機能低下による安全や心理面への配慮を習得する。 【授業全体の内容の概要】 食事、排泄、移動の身体的、精神的、社会的意義・目的と機能低下による影響と対応を理解する。 【授業終了時の到達目標】 ・食事、排泄、移動に関連するこころとからだのしくみや機能低下による影響について理解する。 ・介護が必要な人への理解や介護を行うための根拠につなげることができる。 ・生活支援上のリスクを予測することができる。 ・生活支援技術を展開する基礎を意欲をもって身に着けることができる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 食事に関連したこころとからだのしくみ ①食事の身体的、精神的、社会的意義と目的 2. ②食べる仕組みと食欲・美味しさを感じる仕組み 3. ③機能低下が及ぼす食事への影響 4. ④食欲不振や嚥下困難、脱水などの原因と観察・日常生活の援助のポイント ⑤経管栄養、点滴輸液についての医療的処置・管理についての基礎的知識 5. 排泄に関連したこころとからだのしくみ ①排泄の身体的、精神的、社会的意義と目的 ②排便・排尿の仕組みと自己の尊厳を貫きたい排泄習慣 6. ③機能低下が及ぼす排泄の影響 7. ④尿失禁・尿閉・下痢・便秘・腹痛などの原因と観察・日常生活の援助のポイント 8. ⑤尿道カテーテル装着者、人工肛門装着者についての医療的処置・管理についての基礎的知識 9. 移動に関連したこころとからだのしくみ ①移動の身体的、精神的、社会的意義と目的 10. ②機能低下が及ぼす移動への影響 11. ③歩行・立ち上がり・起き上がり・寝返りについての移動につながる関節と骨格筋の機能 12. ③歩行・立ち上がり・起き上がり・寝返りについての移動につながる関節と骨格筋の機能 13. ④移動からみた食事・排泄・入浴の介助 14. ④移動からみた食事・排泄・入浴の介助 15. ⑤転倒・転落などの原因と観察・対応のポイント ⑥介護予防に役立つ体操とその知識 学力考查			
【準備学習】 1. 授業の前に自分の一日の食事の栄養素の種類・内容・主な食品を整理しておく。2. 授業の前に摂食・嚥下の五分類と内容についてまとめる。3. 授業の後に心身の機能低下による食事に関する影響を整理する。4. 授業の後に高齢者の脱水の特徴、症状、早期発見のポイントをもとめる。5. 授業の前に便の生成、尿の生成について読んでおく。6. 授業の前に自分の飲水・排尿日誌を三日間つけておく。7. 授業の後に排尿・排便の正常と異常について整理する。8. 授業の前に尿道カテーテル装着者、人工肛門装着者に対する医療的処置・管理について読んでおく。9. 授業の前に移動が心身にもたらす効果について整理しておく。10. 授業の後に疾患に伴う機能低下についてまとめる。11. 授業の前に体位交換をするためのしくみについて整理しておく。(寝返り動作・側臥位から座位・座位から立位) 12. 授業の前に歩行・車椅子を動かすためのしくみについてまとめる。13. 授業の前に機能低下・障害が及ぼす活動・移動への影響を読んでおく。14. 授業の後に移動方法にあった福祉用具の選択や介護法を整理する。15. 授業の後に廃用症候群の対応と予防法について整理し提出する。			
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：新・介護福祉士養成講座 14 「こころとからだのしくみ」中央法規 参考文献：授業に合わせて資料を配布する。		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. (関心・意欲・態度) : グループワーク・発表など：10% 2. (思考・判断) : 課題シート：10% 3. (知識・理解) : 小テスト：20% 学力考查：60% * 課題・テストは解説し、返却する。	

授業科目名 こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 林 雅美	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 2年次・前期	
				必修・選択 選択	
【授業の目的】 入浴・清潔、身じたく、睡眠・休息に関連したこころとからだのしくみと機能低下による影響ならびに死にゆく人のこころとからだの変化を理解し、安全への留意点や心理的側面への配慮を習得する。 【授業全体の内容の概要】 入浴・清潔、身じたく、睡眠・休息についての身体的、精神的、社会的意義・目的と、こころとからだの機能低下による影響とその対応方法を理解し、ならびに死にゆく人のこころとからだの変化を理解し、安全への留意点や心理的側面への配慮を習得する。 【授業終了時の到達目標】 ・入浴・清潔、身じたく、睡眠・休息に関連したこころとからだのしくみと機能低下による影響ならびに死にゆく人のこころとからだの変化を理解する。 ・介護が必要な人への理解や介護を行うための根拠につなげることができる。 ・生活支援上のリスクを予測することができる。 ・生活支援技術を展開する基礎を身につけることができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ ①身じたくの身体的、精神的、社会的意義・目的 2. ②機能の低下・障害が及ぼす身じたくへの影響 3. ③機能低下に応じた口腔ケアと口腔機能向上のトレーニングの仕方 4. 睡眠・休息に関連したこころとからだのしくみ ①睡眠・休息の身体的、精神的、社会的意義・目的 5. ②不眠についてのタイプ、原因、心身への影響 6. ③睡眠・休息の方法と睡眠導入時の留意点 7. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ ①入浴、清潔保持の身体的、精神的、社会的意義・目的 8. ②機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔への影響 9. ③入浴、清潔保持に関連したこころとからだの観察と変化の気づきと医療職との連携 10. 死にゆく人のこころとからだのしくみ ①生と死の意味と生活支援の実践価値 11. ②終末期の定義、判断と利用者家族の意向に沿ったターミナルケア 12. ③終末期の身体的、精神的、社会的、実存的苦痛 13. ④終末期の生命兆候と観察のポイント 14. ⑤ターミナルケアにおける介護福祉士の役割 15. ⑥夜間における高齢者の急変が予測される基礎疾患と症状ならびにその観察と急変への対応、医療職との連携、まとめ 学力考查					
【準備学習】 1. 授業の前にこころとからだのしくみⅠの振り返りをしておく。2. 授業の後に身支度に関連したからだの各部分のしくみを整理する。 3. 授業の後に身支度の心身の効果についてまとめる。4. 授業の前に教科書の「睡眠の生理的意義」を読んでおく。5. 授業の後に加齢による睡眠時間、構造の変化をまとめておく。6. 授業の後に睡眠障害の観察と対応の方法についてまとめる。7. 授業の前に皮膚の働きについて整理しておく。8. 授業の後に心身の機能の低下・障害が入浴や清潔の保持にあたる影響について整理する。9. 授業の後に安全な入浴のための留意点について整理する。10. 授業の前に教科書の「死のとりえ方」を読んでおく。11. 授業の前に死にゆく人はどのような気持ちなのか自分なりに考えてまとめておく。12. 授業の前に死にゆく人の家族はどのような気持ちなのか考えてまとめる。13. 授業の後に終末期を迎えた人のからだの状態、危篤時の状態、死亡時のからだの状態について整理する。14. 授業の後に危篤時の援助について要点をまとめる。15. 授業の後にターミナルケアに際して医療職との連携についてまとめる。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：新・介護福祉士養成講座 14 「こころとからだのしくみ」中央法規 参考文献：授業に合わせて資料を配布する。			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. (関心・意欲・態度) : グループワーク・発表など：10% 2. (思考・判断) : 課題シート：10% 3. (知識・理解) : 小テスト：20% 学力考查：60% * 課題・テストは解説し、返却する。		

授業科目名 発達と老化の理解 I		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 加藤英池子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間・2単位		配当年次・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
【授業の目的】 生涯発達の観点から加齢（老化）について理解することを目的とする。また、加齢（老化）に伴うところからだの変化に関する基礎的知識を習得し、高齢者の健康と心理について、高齢者の疾病や生活上の留意点を理解する。 【授業全体の内容の概要】 ①人間の成長と発達を理解するために、生涯発達心理学の基礎的知識（発達段階や発達課題など）について学ぶ。 ②老年期の発達と成熟について、老年期の定義や発達課題を中心に学ぶ。 ③加齢（老化）に伴う心身の機能の変化や、それらが及ぼす日常生活への影響について学ぶ。 ④高齢者の心理について、事例を交えながら学ぶ。 【授業終了時の到達目標】 ・人間の発達と加齢（老化）を理解することで、対象者の心身の状態を踏まえた介護福祉が実践できる。 ・高齢者の介護予防や日常の生活支援での留意点を考えることができる。 ・高齢者に多い疾患や心身の不調を理解する。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. オリエンテーション：人間の「発達と老化」を理解する必要性と意義 2. 人間の成長と発達の基礎的理解：発達の定義、発達の段階、発達課題 3. 老年期の発達と成熟1：老年期の定義、超高齢期の心理と個人差 4. 老年期の発達と成熟2：老年期の人格と尊厳の理解 5. 老年期の発達と成熟3：老いの価値観、喪失体験 6. 老化に伴うところと体の変化の特徴1：心身の老化による変化の理解 7. 老化に伴うところと体の変化の特徴2：心身の老化の回復力・適応力の変化 8. 老化に伴うところと体の変化と日常生活1：身体的機能の変化と日常生活への影響 9. 老化に伴うところと体の変化と日常生活2：知的、認知機能の変化と日常生活への影響 10. 老化に伴うところと体の変化と日常生活3：精神的機能の変化と日常生活への影響 11. 高齢者の心理1：要介護による高齢者の心理 12. 高齢者の心理2：マズローの欲求段階説の理解と自己実現 13. 高齢者の心理3：不適応状態を緩和する心理の理解 14. 高齢者の心理4：環境の変化による心理的变化の理解 15. 高齢者の心理5：事例に基づいた高齢者の心理の理解 学力考查					
【準備学習】 ①授業の前に「発達とは」についてテキストを読んでくること。②授業の後にスカモンの発達曲線から生理的な発達を整理する。③授業の後に人間の発達段階と発達課題を表にまとめて提出する。④授業の前にP・ムーアの体験記を読み、高齢者像を整理してくる。⑤授業の前に老化とパーソナリティに関する代表的な学説を整理してくる。⑥授業の後に実際に高齢者の話を聴いて、内容をまとめ提出する。⑧授業の後に老化による身体的変化と心理的な影響について表にまとめる。⑨授業の後に老化が認知機能に影響を及ぼす心身機能の変化と、その対応のあり方についてまとめる。⑩授業の後に精神的健康の要件五つについて具体的にまとめる。⑪授業の前に要介護による高齢者の心理を読んでくる。⑫授業の前に要介護状態により自己実現を阻害すること、また自己実現を果たしている例など調べ集めてくる。⑬授業の前に要介護による不適応を緩和するための高齢者の心理についての留意点をまとめてくる。⑭授業の前に加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響についてまとめてくる。⑮授業の後に高齢者の心の健康を阻害する要因と支援方法をまとめて提出する。					
【使用テキスト・参考文献】 新・介護福祉士養成講座11巻『発達と老化の理解』 中央法規出版 (参考資料) 授業に合わせて資料を配布する。			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. (関心・意欲・態度)： グループワーク・発表など：10% 2. (思考・判断)：課題シート：10% 3. (知識・理解)：小テスト：20% 学力考查：60% * 課題・テストは解説し、返却する。		

授業科目名 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 戸村 成男
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・2単位	配当年次・時期 1年次・後期	必修・選択 必修
【授業の目的】 介護実践に必要な知識という観点から、老化に伴う身体機能の変化や疾病の特徴および介護のポイントを学習させる。			
【授業全体の内容の概要】 老化に伴う高齢者の生活障害や高齢者の疾病の特徴を系統的に学び、高齢者の観察の仕方と介護のポイントを的確に身に付けさせる。			
【授業終了時の到達目標】 介護職にとって保健・医療に関する基本的な知識が重要であることを体得するために、高齢者の生活障害や高齢者の疾病の特徴を系統的に学び、高齢者の観察の仕方と介護のポイントを的確に身に付けることを目指す。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 老化に伴う心身の変化の基礎知識 2. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ①高血圧症 3. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ②肺炎 4. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ③メタボリックシンドロームと痛風 5. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ④脂質異常症 6. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ⑤糖尿病 7. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ⑥動脈硬化症 8. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ⑦脳血管障害(脳卒中) 9. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ⑧虚血性心疾患 10. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ⑨慢性腎臓病(CKD) 11. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ⑩尿路感染症・前立腺疾患 12. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ⑪神経難病(パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症など) 13. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ⑫感染症の基礎知識 14. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ⑬感染症の対策 15. 高齢者の病気と症状および介護のポイント ⑭高齢者の運動器の障害 授業到達目標達成度の判定			
【準備学習】 ・毎回、授業の前に資料を配布する。それらを中心に使用して授業をすすめる。 ・授業の後に配布資料やノートを整理し、参考図書を読み返すとさらに学習の理解が深まる。			
【使用テキスト・参考文献】 ・病気がみえる／メディックメディア社 ・竹内修二／カラー図解人体解剖の基本がわかる事典／西東社		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 評価基準(受講態度および筆記試験による総合評価) 1. 提出物 20% 2. 期末試験 80%	

授業科目名 認知症の理解 I		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 林 雅美	
授業の回数 15回		時間数 (単位数) 30時間 ・ 2 単位		配当年次 ・ 時期 1 年次 ・ 後期	
必修 ・ 選択 必修					
【授業の目的】 認知症に関する心理的、社会的及び医学的な基礎知識を理解する。					
【授業全体の内容の概要】 認知症を理解するために、主に次の3点について学ぶ。 ①認知症を取り巻く状況について ②医学的側面からみた認知症の知識について ③認知症の人の心理的理解について					
【授業終了時の到達目標】 認知症を取り巻く状況や、認知症の人の心理・行動的特徴を正しく理解することで、本人および家族に対して適切な介護実践ができるようになることを目指す。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. オリエンテーション：認知症を理解する必要性と意義 2. 認知症を取り巻く状況 1：認知症ケアの歴史 3. 認知症を取り巻く状況 2：認知症ケアの理念と本人本位の視点 4. 認知症の人の行動・心理的理解 1：認知症の人の行動・心理症状① 5. 認知症の人の行動・心理的理解 2：認知症の人の行動・心理症状② 6. 認知症の人の行動・心理的理解 3：脳のしくみ 7. 認知症の人の行動・心理的理解 4：認知症に類似した状態 8. 認知症の人の行動・心理的理解 5：認知症の原因疾患① 9. 認知症の人の行動・心理的理解 6：認知症の原因疾患② 10. 認知症の人の行動・心理的理解 7：認知症の診断と治療① 11. 認知症の人の行動・心理的理解 8：認知症の診断と治療② 12. 認知症の人の行動・心理的理解 9：認知症の診断と治療③ 13. 認知症の人の行動・心理的理解10：認知症の予防 14. 認知症の人の行動・心理的理解11：認知症の人の心理的理解① 15. 認知症の人の行動・心理的理解12：認知症の人の心理的理解② 授業到達目標達成度判定の定期試験					
【準備学習】 ・授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。 ・前回の授業内容を配布された資料で振り返っておくこと。 ・授業の後にノートや配布資料を整理すること。 ・授業の後にテキストの該当部分を読み返し復習すること。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解 (中央法規) 参考文献：新・介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ (中央法規)			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 ①定期試験：60% ②受講態度：10% ③レポート、小テスト：30% *試験終了後に講評・解説をする。 *演習の参加状況や発言等を評価する。 *レポートは評価し返却する。 *小テストは解説し返却する。		

授業科目名 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 加藤英池子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間・2単位	配当年次・時期 2年次・前期	必修・選択 選択
【授業の目的】 認知症の理解Ⅰを踏まえ、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解する。それに伴い必要とする心理的・身体的・社会的ケアについての基礎知識を理解する。家族を含めた周囲の環境にも配慮し地域との連携のための介護視点を修得する。 【授業全体の内容の概要】 認知症高齢者の特徴的な心理、行動を理解する為に、事例を交えながら、グループワークなどで対応法を学ぶ。さらに家族への支援や地域との連携についても視野を広め、今日的な認知症を取り巻く介護の現状や課題を学ぶ。 【授業終了時の到達目標】 ・ 認知症の人や家族を深く理解し、心理的・身体的・社会的な支援や協力ができる。 ・ 認知症の人にあった本人主体の介護方法を考えることができる。 ・ 認知症が生活に及ぼす影響について説明できる。 ・ 認知症の人への対応の方法、留意点について説明できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 「認知症の理解Ⅰ」の振り返り、認知症の疾患による特徴や症状などの再確認 2. 認知症に伴うところと身体の変化と日常生活1（認知機能の変化が、生活に及ぼす影響） 3. 認知症に伴うところと身体の変化と日常生活2（環境変化が認知症に与える影響） 4. 認知症に伴うところと身体の変化と日常生活3（生活の環境へのアセスメント） 5. 認知症の進行に応じた介護1（初期・中期の変化） 6. 認知症の進行に応じた介護2（後期・ターミナル期の変化） 7. 認知症の人の日常生活への支援1（食事・排泄へのケア） 8. 認知症の人の日常生活への支援2（入浴・衣類着脱・身だしなみへのケア） 9. 若年性認知症の人への理解1（若年性認知症の人とその家族が直面している状況） 10. 若年性認知症の人への理解2（若年性認知症への生活支援） 11. 認知症の人への生活支援（事例から考える1） 12. 認知症の人への生活支援（事例から考える2） 13. 家族への支援・チームアプローチ（家族の介護力の評価、レスパイトケア） 14. 地域との連携・社会資源の活用（認知症の人が地域で生活を続けていけるような地域づくり） 15. 認知症に関する制度（認知症に関する施策） 学力考查			
【準備学習】 ①授業の前に既習科目「認知症の理解Ⅰ」の振り返りをしておくこと。②授業の前に認知症ケアはなぜ「人」「生活」に焦点を当てる必要があるのかを読み、必要な支援をまとめておく。③授業の後に認知症をめぐる三つの環境要素の効果を整理する。④授業の後に認知症の生活環境のアセスメントを整理する。⑤授業の後に認知症の進行に応じた身体・心理・行動の変化をまとめておく。（初期・中期）⑥授業の後に認知症の進行に応じた身体・心理・行動の変化をまとめておく。（後期・ターミナル期）⑦認知症の人へのかかわりの基本を読んでおく。⑧授業の後に認知症の人の生活支援の事例からのまとめを提出すること。⑨自分の住んでいる地区における、認知症サポート体制を調べておく。⑩地域で支援されている認知症の人が、どのような職種や資源に支えられているか図をつくり、アプローチのポイントをまとめておく。⑪授業の前に認知症の人の生活支援の事例を集めておくこと。⑫授業の後に認知症の人の生活支援の方法を整理する。⑬授業の後に認知症の人の家族の心理と支援の方法を整理する。⑭授業の後に地域の認知症高齢者の安全を守るサポート体制のまとめを提出すること。⑮授業の後に認知症の人への支援対策について整理する。			
【使用テキスト・参考文献】 新 介護福祉士養成講座 12 認知症の理解 中央法規 （参考資料） 授業に合わせて資料を配布する。		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1.（関心・意欲・態度）： グループワーク・発表など：10% 2.（思考・判断）：課題シート：10% 3.（知識・理解）：小テスト：20% 学力考查：60% * 課題・テストは解説し、返却する。	

授業科目名		授業の種類		授業担当者	
障害の理解 I		(講義)・演習・実習)		岡田 圭祐	
授業の回数		時間数 (単位数)		配当年次・時期	
15回		30時間・2単位		1年次・後期	
				必修・選択	
				必修	
【授業の目的】 ・ ICF やノーマライゼーションなど、障害児・者の福祉に関して基礎となる概念を習得する。 ・ 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識、医学的基礎知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 【授業全体の内容の概要】 ・ 障害の概念、障害者福祉の基礎理念を学び、障害について基礎的理解を深める。 ・ 身体障害、難病について、種類・原因・特性などについて医学的側面からの基礎的理解を深める。 ・ 身体障害、難病について、心理・機能変化に伴う日常生活への影響を学び、家族への支援、地域における連携と協働の実践について理解を深める。 【授業終了時の到達目標】 ・ 障害の概念、障害者福祉の基礎的理念と発生の背景を理解できる。 ・ 身体障害・難病について、医学的側面の知識をもち、心理、機能変化に伴う日常生活への影響を理解できる。 ・ 身体障害、難病について、本人のみならず、家族を含めた支援の実践、地域における連携について理解できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 障害の基礎的理解① 障害の概念とは 2. 障害の基礎的理解② 障害者福祉の基本理念 ＜身体障害の理解と支援＞ 3. 身体障害について医学的側面からの基礎的知識① 視覚障害 4. 身体障害について医学的側面からの基礎的知識② 聴覚障害・言語機能の障害 5. 身体障害について医学的側面からの基礎的知識③ 肢体不自由 6. 身体障害について医学的側面からの基礎的知識④ 内部障害 7. 身体障害のある人の心理 8. 身体障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護 9. 地域における連携と協働 10. 家族への支援 ＜難病の理解と支援＞ 11. 難病の種類と特性 12. 難病のある人の心理 13. 難病に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護 14. 地域における連携と協働 15. 家族への支援 まとめ・評価					
【準備学習】 ①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと ②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと ③授業後にノートや配布資料を整理すること					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「障害の理解」中央法規			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 期末テスト：60% 2. 提出物・小テスト：30% 3. 受講態度：10% * 期末テスト・小テストは返却時に講評する。 * 提出物はコメントを記し返却する。		

授業科目名		授業の種類	授業担当者	
障害の理解Ⅱ		(講義・演習・実習)	岡田 圭祐	
授業の回数	時間数(単位数)	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	
【授業の目的】 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識、医学的基礎知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。				
【授業全体の内容の概要】 ・知的障害・精神障害・発達障害について、種類・原因・特性などについて医学的側面からの基礎的理解を深める。 ・知的障害・精神障害・発達障害について、心理・機能変化に伴う日常生活への影響を学び、家族への支援、地域における連携と協働の実践について理解を深める。				
【授業終了時の到達目標】 ・知的障害・精神障害・発達障害について、医学的側面の知識をもち、心理、機能変化に伴う日常生活への影響を理解できる。 ・知的障害・精神障害・発達障害について本人のみならず、家族を含めた支援の実践、地域における連携について理解できる。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数				
1. 障害者福祉の基本理念				
[精神障害]				
2. 障害の医学的側面の基礎的知識(1)精神障害の種類と原因と特性				
3. 障害の医学的側面の基礎的知識(2)障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護				
4. 連携と協力				
5. 家族への支援				
[知的障害]				
6. 障害の医学的側面の基礎的知識(3)知的障害の種類と原因と特性				
7. 障害の医学的側面の基礎的知識(4)障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護				
8. 連携と協力				
9. 家族への支援				
[発達障害]				
10. 障害の医学的側面の基礎的知識(5)発達障害の種類と原因と特性				
11. 障害の医学的側面の基礎的知識(6)障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と介護				
12. 連携と協力				
13. 家族への支援				
14. 障害のある人の心理（心理的影響、受容）				
15. 障害のある人の心理（適応と適応規制）				
まとめと評価				
【準備学習】				
①授業の前にテキストの該当部分を読んでおくこと				
②授業の前に参考書の関連部分を読んでおくこと				
③授業後にノートや配布資料を整理すること				
【使用テキスト・参考文献】		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】		
テキスト：「障害の理解」中央法規		1. 期末テスト：60%		
		2. 提出物・小テスト：30%		
		3. 受講態度：10%		
		＊期末テスト・小テストは返却時に講評する。		
		＊提出物はコメントを記し返却する。		

介護福祉科目

(医療的ケア)

授業科目名 医療的ケアⅠ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 加藤英池子
授業の回数 17回	時間数(単位数) 34時間・2単位	配当年次・時期 1年次・後期	必修・選択 選択
【授業の目的】 介護福祉士として必要な医療的ケアを、安全かつ適切に行うための基礎的な知識・技術を修得する。 【授業全体の内容の概要】 施設あるいは在宅で生活する高齢者や障害児・者が、医療的ケア（口腔、鼻腔、気管カニューレ内部からの吸引および経管栄養）が必要になった場合、医療職との連携のもとで、介護職として医療的ケアの実施に必要な法制度や倫理、関連職種の役割と連携の重要性を理解し、基本的な知識・技術を学ぶ。 【授業終了時の到達目標】 ・利用者とその家族の尊厳を守り、倫理観を確立し、チームとして医療と連携することを理解できる。 ・安全な療養生活に必要なケアに関するリスクマネジメントが理解できる。 ・呼吸のしくみ、痰の吸引の必要性、感染予防など「喀痰吸引」に関する知識と実施手順が理解できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 人間と社会 個人の尊厳と自立、医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解 2. 保健医療制度とチーム医療 保健医療に関する制度、医行為に関係する法律、チーム医療と介護職員との連携 3. 安全な療養生活① 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 4. 安全な療養生活② 救急蘇生 5. 安全な療養生活③ 救急蘇生の実際 6. 清潔保持と感染予防① 感染予防、職員の感染予防、療養環境の清潔、消毒法 7. 清潔保持と感染予防② 滅菌と消毒 8. 健康状態の把握① 身体・精神の健康、健康状態を知る項目（バイタルサインなど） 9. 健康状態の把握② バイタルサインとその見方、急変について 10. 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論① 呼吸のしくみとはたらき 11. 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論② いつもと違う呼吸状態、喀痰吸引とは 12. 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論③ 喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引 13. 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論④ 人工呼吸器と吸引 14. 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑤ 人工呼吸器と吸引、子供の吸引について 15. 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑥ 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、吸引の実施に関する説明と同意 呼吸器系の感染と予防（吸引と関係して） 16. 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論⑦ 吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生の対応と事前対策 17. まとめと復習 学力考查			
【準備学習】 1. 介護と医療の倫理上の原則を読んでくる。 2. 介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」を行うようになった背景について要約する。 3. リスクマネジメントの考え方、ヒヤリハット・アクシデントについて読んでくる。 4・5. 救急蘇生法のポイントについてまとめてくる。 6. 感染経路の種類と対策についてまとめてくる。 7. 滅菌と消毒の違いと方法について読んでくる。 8・9. 朝起きたときに体温と脈拍を測定し、一週間分記録する。 10. 呼吸のしくみとはたらきについてまとめる。 11. 呼吸状態の観察についてまとめる。 12・13. 人工呼吸器の種類と内容について読んでくる。 14. 子供の吸引を安全に実施するための留意点についてまとめる。 15. 喀痰吸引にともなう感染予防をするための留意点についてまとめる。 16. 緊急を要する状態を整理し、医療職との連携方法をまとめる。			
【使用テキスト・参考文献】 テキスト： 「介護福祉士養成課程・介護職員等のための医療的ケア」建帛社、2015年		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 学力考查（知識・理解）：60% 2. 小テスト（知識・理解）：20% 3. レポート（態度・関心・意欲・思考・判断）：20% * 課題・テストは解説し、返却する。	

授業科目名 医療的ケアⅡ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 加藤英池子
授業の回数 17回	時間数(単位数) 34時間・2単位	配当年次・時期 2年次・前期	必修・選択 選択
【授業の目的】 医療的ケアⅠの理解の上に、医療職との連携のもとで介護福祉士として医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を修得する。			
【授業全体の内容の概要】 高齢者及び障害児・者の「喀痰の吸引」に関する観察、安全への配慮及び実施手順、並びに「経管栄養」に関する概論及び実施手順について学ぶ。			
【授業終了時の到達目標】 ・高齢者及び障害児・者への「喀痰の吸引」「経管栄養」の概要と実施手順についての知識を得る。 ・利用者の尊厳を支え、安全・安楽への配慮ができる。 ・消化のしくみ、経管栄養が必要な状態、安全対策を理解できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順① 喀痰吸引で用いる器具・器財とそのしくみ、清潔の保持 2. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順② 吸引の技術と留意点 3. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順③ 吸引の技術と留意点 4. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順④ 吸引の技術と留意点、喀痰吸引にともなうケア 5. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順⑤ 喀痰吸引にともなうケア、記録報告 6. 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論① 消化器のしくみとはたらき、口から食べることの大切さ 7. 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論② 消化・吸収とよくある消化器の症状、経管栄養とは 8. 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論③ 経管栄養とは、注入する内容に関する知識 9. 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論④ 経管栄養実施上の留意点、子どもの経管栄養について 10. 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論⑤ 経管栄養に関係する感染予防 11. 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論⑥ 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 12. 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論⑦ 急変・事故時の対応と事前対策 13. 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順① 経管栄養で用いる器具・器財とそのしくみ、清潔の保持 14. 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順② 経管栄養の技術と留意点 15. 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順③ 経管栄養の技術と留意点 16. 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順④ 経管栄養の技術と留意点、経管栄養に必要なケア 17. 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順⑤ 経管栄養に必要なケア、記録報告 学力考查			
【準備学習】 「医療的ケアⅠ」の振り返りを行い授業に臨んでほしい。1. 授業の前に吸引の必要物品を書き出して確認しておく。2. 授業の後に吸引器の構造としくみを整理しておく。3. 授業の前に、吸引前の利用者の状態観察と留意点を復唱しておく。4. 授業の前に喀痰吸引にともなうケアについてまとめる。5. 授業の後に喀痰吸引の実施手順と留意点を表にまとめて提出する。6. 授業の前に消化器の解剖・生理を整理しておく。7. 授業の後に経管栄養の種類と利点と欠点を整理しておく。8. 授業の前に経管栄養で使用する栄養剤の種類と特徴を調べておく。9. 授業の後に子供の経管栄養にともなう苦痛や心理と接し方についてまとめる。10. 授業の後に経管栄養の感染予防対策について整理して提出する。11. 授業の後に経管栄養に対する利用者・家族の気持ちとその接し方についてまとめる。12. 授業の後に経管栄養による利用者の急変事故時の観察内容と対応や医療職への連携のあり方をまとめる。13. 授業の前に経管栄養で必要物品を使用する順番に記載し、用途、取り扱い上の注意点について記入しておく。14. 授業の前に経管栄養実施前、実施開始直後の観察のポイントをまとめる。15. 授業の前に経管栄養実施中、実施後の観察のポイントをまとめる。16. 授業の後に提示された事例について実施のあり方をまとめて提出する。17. 授業の後に提示された事例について報告のあり方をまとめて提出する。			
【使用テキスト・参考文献】 テキスト：「介護福祉士養成課程・介護職員等のための医療的ケア」建帛社、2015年 参考文献：「新版医療的ケア研修テキスト重症児者の教育・福祉・社会的生活の援助のために」北住映二編、クリエイツかもがわ2012年		【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 学力考查（知識・理解）：60％ 2. 小テスト（知識・理解）：20％ 3. レポート（態度・関心・意欲・思考・判断）：20％ ＊課題・テストは解説し、返却する。	

授業科目名 医療的ケア演習		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 加藤英池子・林 雅美	
授業の回数 15回		時間数 (単位数) 30時間・1 単位		配当年次・時期 2 年次・後期	
				必修・選択 選択	
【授業の目的】 医療的ケアⅠ・Ⅱで習得した知識を踏まえ「喀痰吸引」「経管栄養」を安全・適切に実施できるようになる。 【授業全体の内容の概要】 ・「喀痰吸引」について学生1人につき、口腔5回、鼻腔5回、気管カニューレ内部5回の実技演習を行う。 ・「経管栄養」について学生1人につき、胃瘻または腸瘻5回、経鼻経管栄養5回の実技演習を行う。 ・救急蘇生法および事故時の対応について学ぶ。 【授業終了時の到達目標】 ・「喀痰吸引」及び「経管栄養」の実施手順を踏まえ、適切に一人で実施できる。 ・利用者の安全・安楽への配慮ができ、利用者の尊厳を支えることができる。 ・からだのしくみ、「喀痰吸引」及び「経管栄養」が必要な状態や安全対策が理解できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 喀痰吸引演習 口腔① 演習の進め方、評価方法、演習のデモンストレーション 2. 喀痰吸引演習 口腔② 5回以上技術確認 3. 喀痰吸引演習 口腔③ 5回以上技術確認 4. 喀痰吸引演習 鼻腔① 5. 喀痰吸引演習 鼻腔② 5回以上 技術確認 6. 喀痰吸引演習 気管カニューレ内部① 7. 喀痰吸引演習 気管カニューレ内部② 5回以上 技術確認 8. 喀痰吸引演習 気管カニューレ内部③ 5回以上 技術確認 9. 経管栄養演習 胃瘻① 演習の進め方、評価方法、演習のデモンストレーション 10. 経管栄養演習 胃瘻② 5回以上 技術確認 11. 経管栄養演習 胃瘻③ 5回以上 技術確認 12. 経管栄養演習 経鼻経管栄養① 13. 経管栄養演習 経鼻経管栄養② 5回以上 技術確認 14. 経管栄養演習 経鼻経管栄養③ 5回以上 技術確認 15. 救急蘇生法 1回以上 実技試験					
【準備学習】 医療的ケアⅠ・Ⅱを復習して臨んでほしい。限られた時間の中で、手順通り身につける必要があり、生命に直接関わることなので真剣に取り組んでいただきたい。 1. 授業の前にテキストの喀痰吸引のケア実施(口腔内)手順を読んでDVDを視聴しておく。2. 授業の前に喀痰吸引演習(口腔内)の評価項目を確認し、技術を練習しておく。3. 授業の前に喀痰吸引演習(口腔内)の評価項目を確認し、技術を練習しておく。4. 授業の前にテキストの喀痰吸引のケア実施(鼻腔内)手順を読んでDVDを視聴しておく。5. 授業の前に喀痰吸引演習(鼻腔内)の評価項目を確認し、技術を練習しておく。6. 授業の前にテキストの喀痰吸引のケア実施(気管カニューレ内部)手順を読んでDVDを視聴しておく。7. 授業の前に喀痰吸引演習(気管カニューレ内部)の評価項目を確認し、技術を練習しておく。8. 授業の前に喀痰吸引演習(気管カニューレ内部)の評価項目を確認し、技術を練習しておく。9. 授業の前にテキストの経管栄養のケア実施(胃瘻又は腸瘻)手順を読んでDVDを視聴しておく。10. 授業の前に経管栄養(胃瘻又は腸瘻)の評価項目を確認し、技術を練習しておく。11. 授業の前に経管栄養(胃瘻又は腸瘻)の評価項目を確認し、技術を練習しておく。12. 授業の前にテキストの経管栄養のケア実施(経鼻経管栄養)手順を読んでDVDを視聴しておく。13. 授業の前にテキストの経管栄養のケア実施(経鼻経管栄養)の評価項目を確認し、技術を練習しておく。14. 授業の前に経管栄養(経鼻経管栄養)の評価項目を確認し、技術を練習しておく。15. 授業の前に医療的ケアⅠで学んだ救急蘇生法を復習し、手順を読んでまとめる。					
【使用テキスト・参考文献】 テキスト： 「介護福祉士養成課程・介護職員等のための医療的ケア」建帛社、2015年			【成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック】 1. 実技試験(技能・表現)：70% (実技試験に合格することが単位認定条件) 2. レポート(知識・理解)：20% 3. 平常点(関心・意欲)：10%		